

市町ヒアリング結果要旨

2020年4月 ビジョン課

新ビジョン検討の基礎情報を得るため、県内全市町（企画担当課）のヒアリング調査を行った。新ビジョン策定への参画を依頼するほか、新しい将来推計人口の概要を説明し、近年の人口の動き、政策の主な課題と方向性、将来展望について意見交換を行った。

ヒアリング結果の概要を各市町の要録（ビジョン課作成）と合わせて紹介する。

ヒアリング結果の概要(今後の検討課題)	2
市町別要録	10
神戸 神戸市 企画調整局企画課 11月15日	10
阪神南 尼崎市 総合政策局政策部都市政策課 4月24日	12
西宮市 政策局政策総括室政策推進課 4月7日	14
芦屋市 企画部政策推進課 3月18日	16
阪神北 伊丹市 総合政策部政策室 2月6日	18
宝塚市 企画経営部政策室政策推進課 2月13日	20
川西市 総合政策部政策調整課 2月6日	22
三田市 市長公室政策課 2月13日	24
猪名川町 企画総務部企画財政課 2月6日	26
東播磨 明石市 政策局政策室 2月4日	28
加古川市 企画部政策企画課 3月9日	30
高砂市 企画総務部経営企画室 2月4日	32
稲美町 経営政策部企画課 2月13日	34
播磨町 企画グループ 2月4日	36
北播磨 西脇市 都市経営部次世代創生課 12月3日	38
三木市 総合政策部企画政策課 12月26日	40
小野市 総合政策部企画政策グループ 12月26日	42
加西市 ふるさと創造部人口増政策課 12月3日	44
加東市 まちづくり政策部企画政策課 12月3日	46
多可町 企画秘書課 12月26日	48
中播磨 姫路市 市長公室新総合計画推進室 1月30日	50
市川町 企画政策課 1月30日	52
福崎町 企画財政課 3月24日	54
神河町 ひと・まち・みらい課 1月30日	56
西播磨 相生市 企画総務部企画広報課 1月24日	58
赤穂市 市長公室企画広報課 12月24日	60
宍粟市 企画総務部地域創生課 12月24日	62
たつの市 企画財政部企画課 12月24日	64
太子町 総務部企画政策課 12月24日	66
上郡町 企画政策課 1月24日	68
佐用町 企画防災課 1月24日	70
但馬 豊岡市 政策調整部政策調整課 11月27日	72
養父市 企画総務部企画政策課 11月28日	74
朝来市 市長公室総合政策課 11月28日	76
香美町 企画課 11月27日	78
新温泉町 企画課 11月27日	80
丹波 丹波篠山市 企画総務部創造都市課 11月28日	82
丹波市 企画総務部総合政策課 11月28日	84
淡路 洲本市 企画情報部企画課 11月26日	86
南あわじ市 総務企画部ふるさと創生課 11月26日	88
淡路市 企画情報部まちづくり政策課 11月26日	90
【参考】市区町別主要指標、市区町別人口の動き	92

<ヒアリング結果の概要（今後の検討課題）>

I 地域コミュニティ

1 従来型の地域団体の限界

- 地域活動のベースは自治会ではなくなってきている。そもそも自治会に入っていない若い人が多く、自治会に入らずに地域活動をしている人も多い（芦屋市）
- 自治会長や民生・児童委員のなり手がいない。地域の希薄化が進み、自治会の組織率も下がってきている。自治会を解散したいという相談が毎年ある（播磨町）
- 役員の選出に困る地区が増えている。限界まで来ている地区もある。隣の地区と一緒にになって新しい協同体を作るといった発想が必要になってきている（神河町）
- 消防組織すら維持できない。集落内の地域活動が困難（宍粟市）
- 事業所数が年々減っており、商工会の加入率も下がっている（太子町）

⇒ 従来型の地域団体の多くが人手不足で活動が行き詰っている。求められている機能は何かを見つめ直し、その機能を果たすのに適した体制へと刷新を図る必要がある。

2 住民自治組織の再構築が必要

- 旧村単位の自治協議会の立ち上げを進めている。自治会は世帯主が構成員だが、自治協議会は個人会員方式。危機意識の高い地域では、若い人が入ってくれているが、「若い者が生意気を」という人もいて、なかなか難しいところもある（西脇市）
- コミュニティの単位は、いろいろ試したが、やはり小学校区が一番よい（姫路市）
- 自治機能の維持が困難化。自治会の統合や自治協議会というハコ作りをしてきたが、器を変えるだけでは限界がある。仕組みを変えないといけない（丹波篠山市）
- 自治組織の見直しが必要。地域にどういう自治機能を持たせるか、行政との役割分担、自治協議会を持続可能なものにするための方策などを議論している（丹波市）

⇒ 人口減少が進み、従来型の地域自治組織の維持が難しくなっていく。維持すべき地域コミュニティの機能、その機能を維持するための方策を議論する必要がある。

3 地域も変わらないといけない

- 空き家に入ってくる外国人が、集落の税金である「支配割」を払ってくれない。区長も知らない間に入ってくるので、事前にそういう話ができない（多可町）
- 若者や外国人には自治会はミステリアスな存在。例えば女性が役に当たると、介護だと免除されるが、仕事だと免除されない。未だにそういう状況。働きながら暮らしやすい街になっていない。地域の側も変わらないといけない（姫路市）
- 保守的なシニア層が若者を潰すという話もよくある。若い人が何か新しいことをしようとすると、まず地域のシニアとの軋轢が起こる（姫路市）

⇒ 地域自治組織の運営は、外国人も含め多様な価値観、考え方をを持った新住民の参画も視野に入れて、多世代によるオープンな運営を考えていく必要がある。

4 地域の活性化とは

- 地域コミュニティの再生・維持が地域の活性化だ。人口が偏在しているからといって、人口を増やす必要があるわけではない（姫路市）
 - 小規模集落元気作戦に取り組んだこともあるが、人が減っていて、それだけの労力をかけて取り組むところまで至らない。人が少なくなってもここでできる限り生活したいという人が多い。このまま自然に人がいなくなっていくのだろう（上郡町）
- ⇒ 地域の活性化＝人口を増やすことと誰が決めたのだろうか。大切なのは地域のコミュニティが維持され、今いる人が安心して暮らし続けられるようにすることではないか。

II 人口政策

1 人口の取り合い

- 地方に人口を取り合う施策ばかりやらせて何の意味があるのか。地域間で競わせて、勝ち組の街に人が集まるという競争の先に何があるのか（福崎町）
 - I ターンは他自治体との取り合い。ICT 関係の仕事はどこでもできる。そうした仕事はたいてい小規模なので、人口を増やすという意味での効果も限定的（養父市）
 - 近隣の市町がそれぞれ個性を出して頑張っている。近く同士で連携ではなく、他もやっているというプレッシャーの中で競争を強いられている感じだ（香美町）
- ⇒ 総人口が減少する中で、地方創生の掛け声のもと、近隣の市町が人口を取り合っている現状をどう考えるべきか。中長期的な政策の方向性としてこのままでよいか。

2 子どもを増やすために

- 出生対策で経済的な措置をやっても、なかなか出生増に結び付かない。毎年強く打ち出しているが、むしろ近隣市に人が流れている状況（神戸市）
 - 子育て施策は消耗戦だが、やらざるを得ない状況。子どもを増やす対策は、国が仕切ってくれた方が自治体間の差が出なくてよい（加古川市）
- ⇒ 子育て世帯への現金給付等の経済的支援は、出生数を増やす対策としてはあまり機能していない。子どもを増やす必要があるとして、そのために有効な手立ては何か。

3 若い女性が出て行くわけ

- 旧態依然としたルール＝因習を変えないと若い女性は帰ってこない。女性が生き生きと働ける環境という意味では、まず賃金を上げること（西脇市）
 - 法事があると男は酒を飲んで騒いでいるが、女は炊事場で料理してお酒を出す。そんな地域に誰が帰りたいと思うか。女性が生き生きと暮らせる地域を作らないと人口減少は止まらない。だから「ジェンダーギャップの解消」が重要（豊岡市）
- ⇒ 因習とも言える「ジェンダーギャップ」が若い女性の流出の一因になっているとの認識が必要。「男女共同参画」に真剣に取り組まないと地域自体が持たなくなる。

4 背伸びをしない

- 大事なことは、実現不可能な人口目標を掲げるのではなく、どう人口減少に備えていくかを議論すること（小野市）
 - 背伸びをしない。無理な目標値は設定しない。しかし、いつまで人口の話をしているのか。そういう発想自体を変えないといけない（福崎町）
- ⇒ 人口減少社会の到来は不可避である。人口増の目標を掲げることで、肝心の人口減にどう備えるかの議論が深まらないことにならないよう注意する必要がある。

5 何となく効くのではないかではダメ

- 近居のための転居補助を使うのは、転入者より市内で住み替える人が多い。結婚新生活の家賃補助、引越し補助も、転入後に制度があることを知って申請する人が多い。やっている意味があるのかということで、制度の見直しを検討中（川西市）
 - 地域創生の課題は、施策の成果がよく見えないこと。何となく効くのではないかという感じでやっている施策が多い。データを分析し、ターゲットを明確にして、ピンポイントで施策を打たないと効果が出ない（三田市）
- ⇒ 「やってる感」優先の施策は不要。効果測定により施策を淘汰する仕組みが不十分

Ⅲ 地域構造

1 人の流れを変える高速道路

- 高速道路が整備され、姫路、福知山、豊岡が通勤圏になっている。逆に和田山が通過点となっていく可能性がある（朝来市）
 - 今は役場周辺から鳥取中心部まで 30 分程度だが、6 年後に高速が全線開通すれば、更に短縮される。鳥取は町内と同じという感覚になるだろう（新温泉町）
- ⇒ 2050 年の兵庫像を考える際に、高速道路網の整備状況を考慮に入れることが重要。高速道路の整備は、人の流れをどのように変えるか。地方の鉄道に未来はあるのか。

2 主要な駅のパワー

- 交通の便が良い駅近に、高齢者も含めて人が集まってきている。ニュータウンのリニューアルを進めて市内で人口を流動させたいが、明石や西宮などに出て行ってしまいう流れが強い。やはり駅前再開発の吸引力が大きい（神戸市）
 - やはり「駅」が鍵だった。駅の近くに住むスタイルに合わせて、駅を中心とした街づくりを今からでも始めないといけない（高砂市）
 - 今元気なのは JR 沿線の自治体。JR 神戸線沿線の地域は残っていくだろう（小野市）
 - 網干駅の存在が大きい。網干駅周辺はまだまだポテンシャルがある（太子町）
- ⇒ 都市域では大量輸送手段である鉄道の存在が大きく、駅前再開発が人口の偏在化を加速させている。今後も主要駅周辺に人や都市機能が集まる動きは進むのだろうか。

3 職住近接が主流に

- 戸建て庭付き駐車場付きか、職住近接か、という対比で考えると、今伸びているのは、職住近接のライフスタイルに対応できている街だ（加古川市）
- 職住近接が子育てには大事。通勤時間は結局ロスでしかない。職場の近くで安心して子育てができる、そういう街を目指していく（高砂市）

⇒ 「職住近接」の潮流が都市と地域の構造やデザインを大きく変えていく可能性

4 脱「クルマ」が街のブランドになる時代に

- 平坦で自転車も便利。その利便性の高さから人口が安定している。自転車を使う人が多く、駅前の放置自転車が長年の課題だったが、様々な対策の結果、自転車の使い勝手が増し、それが街のイメージアップにつながっている（伊丹市）
- 職住近接の流れがあるので、自転車通勤のしやすさは一つのポイント。自転車の走行環境を整備して、自転車で暮らせる街を打ち出すことも考えられる（高砂市）

⇒ 職住近接の流れと、環境意識、健康意識の強まりで、自転車通勤が志向され、自転車の走行環境の良さが街の競争力に直結する時代になってきているとの認識が必要

5 「コンパクト」のイメージ共有が必要

- 人が減って自然とコンパクトになっていく中で、利便性、教育の質、子育て環境など核となる部分をどうやって維持していくかが課題（川西市）
- 街づくりの方向性として「コンパクト」のキーワードは外せないが、どこにいても同じ暮らしができるように地域に拠点を作っていくという発想ではなく、それぞれの地域に合ったやり方をネットワーク型で考えないといけないのだろう（加古川市）
- 施策として集住を進めなくても、自然と中心部に人口が集まり、金融機関やショッピングセンターも集まってくる。都市機能は集中している方が縁辺部に住む人にとっても便利。それが「小さな拠点」の考え方なのでは（佐用町）

⇒ 地域の特性に合わせて住民が望む形で機能を集約させるコンパクト化は必要

6 無人化する中での空間管理のあり方

- 無人化した集落もある。地域、農地、伝統は人がいてこそ守れる。拠点で人口を維持して、地域資源を守るということをしていかないといけない。（宍粟市）
- 集落が無人化してそのままの状態になっている。原野に戻るだけかもしれないが、空間管理の面から考えると、まばらでも人がいるの方が地域の保全につながる（養父市）
- 集落から人がいなくなると、その地域は荒れ放題になるだろう（新温泉町）

⇒ 多自然地域の無人化に伴い、農地・山林や人家周辺の環境や景観の劣化が進み、伝統文化の継承も難しくなると想定される。成り行きに任せるしかないのか。

7 社会基盤の維持ができてこそ

- 問題は公共施設、道路・橋の更新だ。そこをきちんとやらないと人を呼び込むこと自体できない。夢を描きたいのは山々だが、現実があるのでまずはそちらに対応しないといけない。街並みを整備したくても、そこまで手が回らない（相生市）
 - 人口が減っても道路、上下水道、情報通信は守っていかないといけない。なかなか表に見えないが、持続可能な町という意味で本当は一番大事な部分（佐用町）
- ⇒ このままでは人が暮らすための最低限のインフラの維持すら難しくなる。

8 水が命

- まばらに人が住み続ける将来を考えたとき、問題は水の確保。ぽつんと山奥に一軒家という場所が徐々に増えていくだろう。奥地でも、家があったら、水道は引いておかないといけない。少なくともこの問題はクリアしないといけない（神河町）
 - 意外と知られていないが、過疎・中山間地域の水道料金は総じて高い。国は地方創生で田舎へ、地方へと誘導しようとしているが、こんな水道料金のところに来るのか。公平であるべき水の値段に大きな差がある（佐用町）
- ⇒ 最も基礎的なインフラである「水」が分散居住の未来のボトルネックになる可能性

IV 産業政策

1 魅力ある雇用の創出に向けて

- 産業団地の整備を進めているが、かつてほどの雇用が生まれない。若い女性も好まないだろう。女性が魅力を感じる職場を作らないといけない（加西市）
 - 女性が戻ってこないのは魅力的な職場がないから。工場ができて独身男性しかこない。女性の働き場を作ることをもっと考えないといけない（姫路市）
 - 最近では工場ができるといっても無人化した工場が多いので、必ずしも雇用につながる。事務系がないと女性の就職にもつながらない（たつの市）
- ⇒ 工場ができて税収増にはなっても、雇用の創出や人口（特に若い女性）の流出抑制にはあまりつながらない。自治体による事業所誘致の目的と手段の再検討が必要

2 市町単位の産業政策は限界

- 市単体での産業振興は限界。阪神全体でインバウンドを呼び込む、新しいサービスを開発するなど、付加価値の高いものを生み出していないといけない（伊丹市）
 - 産業振興でどんな施策を打ってばよいのか正直困っている。地場産業同士の連携、民間と行政の連携など、いろんな連携策を戦略に取り入れていきたい（たつの市）
- ⇒ 市町単位の取組には限界があり、県による広域連携の産業政策に期待が集まる。

V 社会政策

1 相対的貧困に目を向ける

- SDGs は当たり前のことしか書いてない。1日2.5ドル以下の貧困は我々の課題ではないが、シングルマザー、低所得者層などの相対的貧困なら我々の課題だ（明石市）
- 未婚率の高さは所得水準の低さや非正規雇用と関係している。格差のような触れにくい問題にどう対処していくかも大きな課題だ（三木市）
- 70になっても、シルバー人材センターなどを使って一杯いっぱいまで働こうとする人が増えている。退職して悠々自適なのは、一部の上層の雇用者だけだ（多可町）

⇒ 所得格差の拡大や固定化は進んでいるのか。是正すべき相対的貧困とは何か。その解消のためにどのような方策を取りうるのか。これらの問題を議論する必要がある。

2 外国人住民への対応

- 1~3年で入れ替わっていく。どれほど滞在するかは会社次第だが、一時的でも市民には変わらないので、気持ちよく住んでもらえるようにしないといけない（加東市）
- 玉ねぎの皮むき、カット野菜の出荷など農業関連の技能実習を中心に約230人の外国人が居住。斡旋する組合が市内にあって、民業任せの状態。災害時に外国人をきちんと案内できるのか、危機管理部門が頭を悩ませている（南あわじ市）

⇒ 県全域で外国人技能実習生、留学生が増加している。外国人も安心して暮らせる「多文化共生」の地域づくりを急いで進める必要がある。

VI 子育て・教育

1 社会で子育てを

- 社会で子育てしないといけない。子育てのハードルが下がらないと子どもは増えない。家族を経済面だけでなく、気持ちの面でどう支えていくかが大事（明石市）
- 夫の親を頼りたがらない女性が、子育てしながら働き続けられる地域にしていけないといけない（加古川市）

⇒ 家族任せにしているだけでは、子どもは増えない。

2 教育が鍵

- 課題だった学力も、県平均の水準に近いところまで上がって来ている。ファミリー世帯の転出抑制の面からも子どもの教育の充実が必要と捉えている（尼崎市）
- 学力重視の教育ばかり頑張ると、島の人口を減らすことになる。大学に行かずに高校を出て地元で仕事をしていく人を育てる道筋も大切（洲本市）
- 2015年度の学区再編が決定的。これで学生の動きが変わった。洲本向きの子が神戸向きになり、高校段階で島外に出る子が増えた（淡路市）

⇒ 子どもの教育（特に学校教育）は、人口の移動や将来の地域力に大きな影響を与える。未来の鍵となる教育の将来ビジョンとして、どのような方向性が考えられるか。

3 外の世界で活躍するのもいい

- 東京圏への転出超過は如何ともしがたい。自分が 20 代だったら、そりゃ東京に行くだろう。人が多い、通勤が大変と言っても、それ以上の魅力がある（明石市）
- 若者が進学、就職で外へ出て行くというが、自分の息子は地元に残らず、外に出て行けるような人間になってほしいと思っている親が多いのが現実（赤穂市）

⇒ 若者が大都会や外の世界に憧れを持つのは自然だし、大切なこと。一度外の世界に出た人がいずれは帰りたくなるような地域・場所を作ることが自治体の課題

Ⅶ 自治体の刷新

1 少ない人数で高い価値を生む役所に

- 人が減っても暮らせる街という意味では、役所自体を少ない人数で回せる体制にすることも大事。機械にできることはどんどん機械に任せていく（三木市）
- 人口が減っているのに職員の仕事は減っていない。AI・ロボットを使って業務を減らし、職員の役目を住民との対話や企画提案に特化する必要がある（市川町）

⇒ 更なる人員削減ではなく、限られた人員の中で、より価値の高い仕事や新たな価値を生み出す仕事を進めるためにこそ、行政事務の自動化・機械化が必要

2 行政のデジタル化と広域化が車の両輪

- 行政経営の基盤を強化しないといけない。まずは ICT を活用して効率化する必要がある。生産性を上げないと市民サービスの維持が将来的に難しくなる（伊丹市）
- いずれ今のままではやっていけなくなる。一つの自治体で完結というよりは、広域的な連携の中でどう持続させていくかを考える必要がある（宝塚市）

⇒ 今後行政サービスの維持・向上を図るためには、デジタル化と広域化が欠かせない。

3 形を作って民間にさせるやり方は限界

- 行政が形を作って民間にさせる従来型のやり方は限界。課題を示し、民間に取り組んでもらって、それを支援する。これが行政の役割になっていくのでは（川西市）
- もっと開かれた市役所にならないといけない。受益者負担の考え方も示しつつ、全部オープンにして、一緒に考えて決めるスタイルが求められている（高砂市）
- 協働を進めたいが、結局、住民は行政に無関心。それほど困っていないわけで、無理に危機感をあおるものでもない。好きにやっている市民がいて、そこに行政が参加させてもらうといった「行政参加」が本当は必要なのかもしれない（播磨町）

⇒ 住民主役・民間主導の地域課題解決を促し、支えるのが未来の自治体の仕事だ。

4 行政の組織文化の変革が必要

- 企業に人を派遣してもらおうと、週2日勤務で日当いくらかと打診したら、行く必要がある時は行くが、そんなもの最初から決められない。電話やSkypeで済む話はそれで済ませると言われた。考えたらむしろそれが普通の感覚だ（三田市）
 - 公務員は営業に慣れてない。もっと外に出ていく体制に変えて、民間と絡むのが苦手な文化も変えて、もっと攻めができる組織にならないといけない（加古川市）
 - 今後、行政だけではできないことがますます増えるはず。住民、企業、団体などと組んでチームで取り組む形をもっと広げていく必要がある（三木市）
- ⇒ 民間企業と混ざり合って仕事をしていく役所に。民間登用という発想すら既に古い。

5 将来世代につけを回さないビジョンを

- 公共施設の老朽化が今後の課題。数を減らすのは難しいので、平屋化、複合化などスペックダウンして更新していくのだろう（西宮市）
 - 次期総計の課題の一つは、老朽化が進む公共施設の維持更新をどうするか。将来世代に過度の負担を残さないことも住みやすい街づくりの大事な点だ（伊丹市）
 - 何をするかだけでなく、何をしないかも重要。何かをするためには、何かをやめないといけない時代。何が一番大切かを絞っていくのが計画を作る意味だ（高砂市）
 - 人口減少で町の財政規模が小さくなっていく。公共施設は不採算な部分から順次やめていかないといけない。何もしなければいずれ共倒れになる。地元の合意形成に時間がかかるとしても、全部を維持していくことはできない（神河町）
- ⇒ 公共施設の選別が今後の課題。何をやめるかの議論をすることも役所の責任。

6 今の土地利用規制は時代に合っているか

- 新名神の川西 IC ができ、事業用地の照会が増えたが、市街化調整区域のため使えない。県の土木は柔軟に対応するとは言ってくれるが、いろんな条件をクリアするのに何年もかかるので、結局、お隣（大阪）に行ってしまう（猪名川町）
 - 土地利用規制がいろんなことのネックになっている。農振を外したいが、人が減っていく中でなぜ住宅がいるのか、市街地がまだ埋まっていないのに、なぜ調整区域を市街化する必要があるのか、と言われると、反論が難しい（稲美町）
 - 市街化調整区域制度を全国的に見直してほしい。農地が減るのは困るが、緩和しないと家の建て替えも満足にできず、新しい人が入って来られない（赤穂市）
- ⇒ ゾーニングによる土地利用規制は時代に合わなくなっているのか。特に人口減少時代における市街化調整区域の区域区分の意義について改めて議論する必要がある。

<神戸市>

(人口の動き)

- ・総合計画とは別に、神戸創生戦略を5年前に慌てて作った。目標の年間1.2万人の出生数維持と東京圏への転出超過年間2,500人の解消は、いずれも達成できていない。
- ・人口は2012年以降8年連続で減少。特に自然減が拡大しており、2018年は約5千人の自然減。出生数が全区で減少しており、北区、西区、垂水区等は10%以上減少。
- ・昨年、東灘区が震災以降、初めて自然減になった。西宮などに人が流れている。
- ・長田区、兵庫区は震災前からマイナスが続いている。須磨区は15年、垂水区は12年、北区は11年連続で減少。西区のニュータウンも5年連続マイナスで厳しい状況にある。
- ・合計特殊出生率は2005年以降上昇傾向だが、全国、兵庫県よりも低い水準である。
- ・生涯未婚率が上昇傾向。男性は全国平均より低い、女性は全国平均より高い。
- ・社会増減は減少傾向にあり、2018年は22人とかろうじてプラスの状況。
- ・外国人の増加が社会増に寄与している。ベトナム人がずば抜けて増えており、兵庫区、長田区で急増。今後、人口ビジョンで外国人をどう見込んでいくか悩ましい。
- ・転入超過は中央区の1,740人が最多で、20年連続で増加。兵庫区、長田区も外国人の流入で3年連続、東灘区は20年連続で増加しているが、増加幅は減少傾向にある。
- ・灘区は1997年以降転入超過だったが、2018年は転出超過だった。西区、須磨区、北区、垂水区は3年連続マイナス。中央区、兵庫区、長田区以外は苦戦している。
- ・15～19歳で大きく転入超過、25～34歳で大きく転出超過となっており、大学入学で学生が転入し、その後就職で転出している状況。東京、大阪に人が流れている。
- ・男女とも似たような傾向だが、女性の20～24歳は転入超過が多い。子育ての関係で親元に近いところを選択しているのだろうか。
- ・対東京圏では2,500人程度の転出超過で推移してきて、創生戦略ではその解消を目指したが、2017年、2018年と転出超過が拡大し、状況は悪化している。
- ・2008年時点では東京圏以外は転入超過だったが、2018年では東京圏以外に大阪市、阪神間6市、明石市が転出超過となっている。

(総合計画・創生戦略について)

- ・神戸2020ビジョン(総合計画)と神戸創生戦略は1年ずれている。創生戦略を1年後ろに引っ張って2020ビジョンと年度を合わせて、2020ビジョンの改訂版の中に創生戦略を取り込んで1本化する形で検討を進めている。現在、将来人口推計の作業中。
- ・国の次期戦略の内容が見えておらず、国の方向性を取り込むことも考えると、1年ずらして作る方がよい。次の計画で何に取り組むかは国の動きも踏まえていきたい。

(今後の方向性)

- ・漠然とだが、今までの“人口規模を維持する・増やす”や“山から海へ”といった話ではなく、一人ひとりの市民の生活の質を高めて「深みのある上質な街」を打ち出す方向になっていくのではないかと。
- ・ただ、これをKPIでどう表すかは難しい。人口は1つのバロメーターとして必要だが、神戸に住んでいる市民の満足度や神戸の魅力が上がるのが大切。三宮の魅力が上げられ

ば企業も立地するし、結果として、都市としての規模の維持にもつながる。

- ・「リノベーション神戸」も打ち出していく。川崎市に人口で逆転され、人口減少率が政令市でワーストワンといった背景から、年度途中から新たな人口減少対策を進めている。年度内に第2弾、第3弾の打ち出しをしていきたい。
- ・総合計画も、もっと短期で考えるべきではないか。変化が激しい中で何十年先の構想が必要なのか。年度単位の予算に近いイメージで作った方が良いという感覚だ。地方自治法が改正され、基本構想、基本計画の作成義務が外れたこともあり、総合計画は内容をできるだけ簡素化し、短いタームで作る方向になっていくと思う。
- ・兵庫区と長田区で急増している外国人の大半は、臨海部の大企業の工場労働者だろう。勤務地の近くに住んでいて、夜間に働く人が夕方、兵庫駅に迎えに来るバスに乗り込んで出勤しているようだ。
- ・人口移動はマンションの建ち方によって変わる。中央区の人口増はマンション販売によるもの。交通の便が良い駅近に、高齢者も含めて人が集まってきている。ドーナツ化現象の逆の動きが起きており、それに対して市として現在、マンション規制の動きを取りつつある。
- ・東京への転出超過の最大の要因は、学生が神戸の企業に就職しないこと。働く場所がないわけではなく、企業情報の提供もやっているつもりだが、東京の方の賃金が高いということもあって人が流れている。「若者に選ばれるまち」をテーマに掲げ、プロモーションを展開していて、部分的には成果が出ているが、全体の動きに引っ張られて、思うような結果が出ていない。
- ・起業支援にも力を入れている。人目を引く取組であり、話題にはなるが、転出超過を止めるという意味では、限界がある。
- ・出生対策で経済的な措置をやっても、なかなか出生増に結び付かない。毎年強く打ち出しているが、むしろ近隣市に人が流れている状況。
- ・北区、西区の農村部の振興も重要なテーマだが、今は出生増、社会増の2つの目標の達成に注力しており、施策が追いついていない。
- ・オールドニュータウン問題もある。名谷などのリニューアルを進めないといけない。市内で人口がうまく流動するように持っていきたいが、現状では、明石や西宮などに出て行ってしまっている。神戸市内で魅力的な住宅が提供できていないということもあるが、やはり駅前再開発に人が引き付けられる流れが強い。
- ・交通関係では、北神急行を市営化するが、それ以外の構想は今のところない。阪急と地下鉄の直通化の検討が進んでいるが、三宮が通過点になり、賑わいがなくなるという指摘もあってなかなか難しい。

<尼崎市>

(人口の動き)

- ・人口は4年連続で社会増となっている。H28: +201人、H29: +933人、H30: +1,700人、R1: +1,517人という状況。自然減を上回る社会増により、全体の人口についても2年連続で増加している。
- ・地域別の自然動態は、全体では減少だが、園田地区のみ増加している。JR塚口駅前のズットシティに子育て世代が入居していることが影響していると推察される。
※ズットシティ: JR塚口駅前の森永製菓塚口工場跡地8.4haの大規模再開発。マンション1,200戸、戸建て71戸の計1,271戸の分譲。2016年4月街開き。
- ・地域別の社会動態は、H30は、ズットシティのある園田だけでなく、全地区で増加した。R1は、武庫地区のみ微減となったが、全域的に社会増の多い状態が続いている。
- ・本市の社会動態の特徴は、単身世帯の転入超過と、ファミリー世帯の転出超過である。
- ・ズットシティができて、ファミリー世帯の流入が増えたが、転出超過が解消されるには至っていない。ファミリー世帯の転出先は、伊丹、宝塚が多い。東京への転出も多い。ファミリー世帯の定着と、転入の促進が本市の大きな課題だ。
- ・大阪に隣接する利便性の高さから、元々転勤族、特に単身者向けの住宅が多い土地柄である。面積の小さい物件が多く、価格は伊丹、宝塚より高いが、便利なので、大阪、神戸からの転入が多い。
- ・3年前のJR塚口駅前、10年前のJR尼崎駅前のような大規模開発は今後見込めないが、学校跡地など公共施設の跡地活用を進めているので、今後もある程度の人口流入は見込める。啓明中学校跡地、尼崎東高校跡地で住宅開発を予定している。尼崎東警察署の跡地活用の話もある。
- ・人口は住宅供給量に大きく左右されるため、転入超過がどこまで続くかは不透明な状況である。住宅需要が今後もあり続けるのかということも考える必要がある。
- ・外国人の割合が増加している。社会動態の転入の半分が外国人であり、その大半をベトナム人が占める。

(総合計画、創生戦略の方向性)

- ・平成25年度から令和4年度までの総合計画の期間中である。後追いで創生戦略を平成27年に策定した。戦略は、総合計画のアクションプランという位置付けにしている。
- ・戦略では、「安心な暮らしを確保する」「ファミリー世帯の定住、転入を促進する」「経済の好循環と仕事の安定を目指す」を基本目標に取組を進めてきた。
- ・ファミリー世帯の定住、転入については、H26年度の転出超過382世帯を半分まで減らす目標を掲げているが、未だ達成できていない。
- ・具体的な取組としては、子育て支援、学力の向上に力を入れている。ファミリー世帯の定義として、5歳未満の子供がいる世帯としているが、小学校に上がるタイミングで転出する傾向が以前から指摘されている。学力の向上が一つの解決策と考えているが、この現象にどう対応するか、さらなる調査が必要だと考えている。
- ・人口は街の活力、財政に関わってくるので、やはり重要な目標だ。訪れていただき、住

んでもらい、住み続けてもらう。住んでよかったと思ってもらう。このような好循環を作っていく必要がある。

- ・市民アンケートでは、治安やマナーに関する評価が低い。この辺りを深掘りして街のイメージ向上につなげていきたい。
- ・街の活力を高めるため、観光にも力を入れている。尼崎城の整備に次いで、この10月には隣接して歴史博物館をオープンさせる。観光拠点として活用していく。
- ・子育ての関係では、聖トマス大学（2015年3月閉校）の跡地を活用して昨年10月に子育て拠点「ひと咲きプラザ」がオープンした。
- ・教育では、ICTを活用した分かりやすい授業の開発、実施に力を入れている。課題だった学力も、県平均の水準に近いところまで上がって来ている。ファミリー世帯の転出抑制の面からも子どもの教育の充実が必要と捉えている。子どもが安心して健やかに育つ地域をつくるため、いじめや体罰の根絶といった課題にも取り組んでいく。

(地域の将来展望)

- ・住民に選ばれる街にしていきたい。
- ・依然としてファミリー世帯の転出抑制が一番大きな課題だ。いろいろと取組はしているが、課題を正確に捉え、対策していく必要がある。
- ・治安、マナーの改善も重要な課題。歩きたばこ禁止条例や自転車盗難対策などにより、犯罪認知件数、ひったくり、放置自転車は減少傾向にある。しかし未だに住民の治安、マナーに関する評価が低いのは、イメージだけでなく、そういう体験をされている人が実際に多いということだと理解している。課題を深掘りし、対策を改善していく。
- ・学力が全国平均に接近しているが、伸び悩んでいる。令和2年度からプログラミング教育の取組を始める。「思考教育」として、子供が自分で考える教育機会を提供していく。
- ・尼崎は産業都市として発展してきたが、近年住宅都市としての側面が強まっている。産業を取るのか、住宅を取るのかは一概には言える話ではない。産業都市としての取組も必要で、中小企業支援などは引き続き行っていく。
- ・空き家が多い。補助金で撤去支援などを拡充し、総合的に取り組んでいく。

(以上)

<西宮市>

(人口の動き)

- ・日本人に関して言えば、平成 28 年から転出超過となっている。
- ・震災以降、住宅の新築着工戸数は一貫して伸びていて、近年落ち着いたと言っても、今でも年 2,500~3,000 戸ほど着工している。新築戸数が減っているわけではない。
- ・人口の増減は、住宅供給に一番左右されるが、市内の住宅相場が周辺より高いこと、転勤の方が多くて出入りとも多いことなどから、一方的に増えるということではなく、周辺との関係、住宅供給のタイミングなどで、年変動がある。
- ・20 代前半、特に北部の 20 代の転出が増えている。西宮の北部は不便で、就学を機に出ていきやすい。
- ・武庫川女子大や関西学院大学があるので転入してくる若者は多いが、就職で出ていく。
- ・転勤があるので、東京への転出が多い。神戸からは転入が多い。宝塚、伊丹など阪神間へは近年転出超過傾向。平成 28 年からは尼崎への転出超過が拡大している。住宅供給のタイミングがあると思うが。
- ・総計では、地域別の人口減少の状況を把握するため、地域別アウトラインを策定した。市内を 9 地域に区分して、世帯の特徴、人口の動きなどを個別に分析した。
- ・人口が減っているのは、南部の鳴尾と北部の山口町。個別の地域別の施策まで落とし込めればよかったが、総計では課題を洗い出すだけに止まってしまった。
- ・西宮は、「住みたいまち」と言われるが、西宮北口、夙川といった特定の地域のイメージが先行しており、人口の増加もその地域に集中している。これらの人口が集中している地域では、学校施設の容量や保育所の待機児童の問題が発生している。
- ・鳴尾の武庫川団地では、公団（UR 賃貸住宅）と連携した住宅、地域施策をやりたいが公団は全国で団地の再生をしていて、西宮に個別に対応してくれるかどうか。
- ・外国人は増えている。関西学院大学があるので、留学生が増えている。また、鳴尾では、住宅の家賃が手ごろなので、鳴尾の工業団地で働いている外国人が集住している。去年ベトナム人が 600 人増えた。鳴尾では、言葉が通じない外国人が増えたことで、不安感が高まっている印象がある。
- ・あまり外国人の困りごとは聞こえてこない。コロナの問題で不安に思っているのではないかと思うが、特に問い合わせはない。彼らがどうしているか気になっている。
- ・国籍はベトナム、フィリピンが増えている。南部では、飲食店の関係でネパール、インド系が多い印象がある。

(総合計画、創生戦略について)

- ・令和元年度から、総合計画と総合戦略を一つにし、一体的に推進することとした。
- ・総合計画は、10 年後の将来像を描いている。
- ・総合計画ではそこまでクローズアップしていないが、今後 30 年で高齢者が倍増する見込みであり、高齢者の増加に対応したまちづくりに今後重点化していかないといけない。
- ・総合計画の策定時に実施した住民アンケートでは、住環境に対する評価が高かった。住環境、教育、福祉、都市の魅力、産業、安全といった柱立てをして「文教住宅都市」の

理念を引き継ぐ総合計画となっている。

- ・総合戦略策定当時、人口は減っていなかった。この状態を維持していくという意味で、流れは総合計画と一緒だったので一体化した。
- ・文教住宅都市を謳っているが、文化スポーツで突出した取組をしているわけではない。
- ・力を入れているのは教育。ICT 機器の導入、エアコンの整備などは、他市に先んじて取組を進めている。校舎の建て替えも進めている。
- ・市政の特徴として、あまり設備投資にはお金をかけず、児童福祉や教育に多くの予算を割いている。学校関係では、給食も自校で調理している。
- ・障害児のケアも、県の基準に上乘せして手厚く対応している。目立たないが、こうしたインクルーシブの取組に力を入れている。
- ・スポーツでは、中央体育館の建て替えを進めている。西宮ストークスの本拠地になるはずだったが、協会側の基準変更で、本拠地にはならないことになったが。
- ・地域ごとにホールがある。300 席ぐらいの小型のホールが 6 か所ある。市民、アマチュアの利用が多く、稼働率はどこも高い。
- ・県の芸文センターがあるからいいのではという声もあるが、市民が使うホールはプロ仕様の芸文センターとは別の位置づけである。
- ・地域の学校が合唱コンクールで使っているし、文化活動をされている市民も多い。そうしたことが、ホールの稼働率が高い理由だろう。

(地域の将来展望)

- ・大きな課題は、待機児童と高齢化対応。
- ・震災復興でブレーキを踏んでいたのが、公共施設の老朽化も今後の大きな課題。人口は減っていないので、施設に対する需要は減っておらず、数を減らすのは難しい。地域ごとに施設がある。集約したいが、無くすのは難しいので、平屋化、複合化など、スペックダウンして更新していくのだろう。
- ・学校の建て替えを 6 校計画しているが、1 校 50 億円程度かかる。マンパワーもいる。議会からは計画を見直すべきだという声もある。実際積み上げていくとお金が足りない。
- ・今後住宅開発が見込まれるのは、西宮北口駅北東側の甲東、瓦木辺り。生産緑地が解除になる地域なので、マンションを建てたい業者がいるのではないかと。
- ・人口が増えると、学校の問題が出てくる。ただ人口が増えればよいという話ではなく、バランスを見ながらやっていく必要がある。緑が少ないエリアでもあり、田んぼがなくなると緑もなくなる。バランスが大事だ。
- ・長期のビジョンが必要だという声もある。令和 7 年が市制 100 周年で、その頃には今進めている大型のプロジェクトが概ね完成する予定。中央体育館建て替え、国道 176 号線バイパス、県立病院の統合など。それに合わせて将来ビジョンを作れないかという話。
- ・団塊ジュニアとその子世代が突出して多い、いびつな人口構造である。団塊ジュニア世代が高齢化したときの対応が課題。他よりも高齢者のピークが遅く来ると見ている。
- ・いろいろと課題はあるが、他の地域に比べ恵まれていて、危機感が薄いところはある。

<芦屋市>

(人口の動き)

- ・人口は阪神・淡路大震災以降増加基調だったが、2015年の95,350人をピークに減少。予測より10年早く減少に転じた。自然減が厳しい。出生率が他市より低く、死亡も多い。社会増減は近年プラス傾向だったが、H27(▲300人)のように転出超過の年もある。
- ・H27(2015)の転出超過の要因はよくわからない。近年社会増減の差が縮まってきているが、震災後のマンション増加による人口の急増が落ち着き、むしろ普通の状態に戻ったと理解すべきだろう。1998年頃の転入超過は県企業庁の芦屋浜開発によるもの。
- ・女性の就業率が低く、出生率も低いのが本市の特徴。H27の出生率は芦屋市1.34、県が1.48である。女性の就業率が低い理由は、近隣にちょっと働くという程度の雇用の場が少ないこと、あとは一馬力で暮らしていける高所得の世帯が多いのではないかと。直近の国勢調査では共働きの割合は上がっているようだが。
- ・転出は20代の、特に男性が多い。近隣と比較しても、進学でも就職でも東京に行く人の割合が高い。山の手、高所得で、高学歴な層が、東京に行っているのではないかと。
- ・大阪府内、西宮市、東灘区から転入してくる人が多い。転出先は東京が多く、それ以外は、神戸市東灘区、西宮など近隣だ。対東京都でいうとH29で転入+318人、転出▲548人で差し引き▲230人の転出超過である。
- ・昭和50年代に整備された芦屋浜シーサイドタウンの当初の入居者が高齢化し、入れ替わって東灘の工場で働く外国人が多く入居している。このため外国人児童が多く、付近の小学校では多言語対応をしている。
- ・元々、芦屋は外国人が多い。7年ほど前で1,800人ほどいた。芦屋の特徴は、特別永住者より普通の外国人が多いこと。外資系企業が社宅を芦屋に置くというパターンが多かったため、その影響かと思う。スペイン・ポルトガル語圏の南米系も多く、中でもブラジル人が多い。彼らは家族を呼ぶので、一回住みだすと人が増えていくのだろう。

(総合計画、創生戦略の方向性)

- ・R3年度から始まる次期総計の策定を進めている。基本方針は「未来の創造」。次期創生戦略は、次期総計に入れ込んで一体化するため、現行戦略の期間を1年延長した。
- ・今後のまちづくりの課題は、公共施設とインフラの更新費用が非常にかかること。民生費も大きい。芦屋は裕福に思われがちだが、財政的に余裕があるわけではない。
- ・人口増から人口減へと政策の前提を切り替えるのが次期総計の大きな役割になる。
- ・重点は、「住宅都市」に更に磨きをかけることと、子育て世代の願いを叶えること。
- ・芦屋は待機児童が多い。幼稚園と保育園を再編し、認定こども園化を推進している。
- ・住宅都市の目玉は景観。屋外広告物を条例で規制して景観を守るという方向で進めている。市内全域が景観地区となっており、特に芦屋川沿いは特別景観地区に指定している。芦屋市の特徴であり、全国に先駆けた取組でもある。引き続きこの柱を維持する。
- ・まちの賑わいづくりとして、阪神とJRの間に緩やかに商業が集積しているエリアがあるので、この一帯を盛り上げていきたい。JR芦屋駅南側の再開発を進めて、その効果を南側のエリアに波及させていくイメージ。大変な状況だが、進めないといけなない。

- ・賑わいづくりの具体の取組としては、JR 芦屋駅南側の市営住宅だった建物（旧宮塚町住宅）を活用し、去年辺りからいろんな店に入ってもらって活性化させようとしている。近くの宮塚公園では、地域住民と公園の運営について話し合い、住民がマルシェを始めた。そういった面的な取組を1期の戦略の中で進めたが、2期もその方向で行く。
- ・旧宮塚町住宅は石造りの珍しい建物で、今日文科省から答申が出るはずだが、文化財に登録される予定。
- ・無電柱化も進めている。無電柱化率は14%と国内でも相当高い水準のはず。この数字は市道だけの値。分母は市道延長で、分子は無電柱化済みの延長だ。

(地域の将来展望)

- ・目立たないところで、静かに課題が進行している。一つは公共施設の老朽化。人口減の中で地域の施設をどう維持していくか。
- ・もう一つは高齢化。自治会には若い人が入ってこない。地域活動のベースは自治会ではなくなってきている。そもそも自治会に入っていない若い人が多く、自治会に入らずに地域活動をしている人も多い。そういう人も含めて、地域活動を活発にするためにどうするか。若い人も大切にしないといけない。
- ・一部の地域から要望があるのは、バス。コミュニティバスを走らせろという意見が強くある。阪急バスはあるが地域によってはバス停が遠い。坂道がきつく、道も狭くてバスが入れず、空白地帯になっている地域が山側にある。
- ・小さくてスケールメリットがないのも課題。広域連携したいが、周りの神戸、西宮、尼崎は巨大で、芦屋と組むメリットがない。組もうとしても、芦屋がただ乗っかるだけになることが多い。
- ・例えば、隣の東灘はコミュニティバスが走っているので、それを利用させてほしいが、向こうにメリットがなく、なかなか難しい。西宮とゴミ処理の共同化・広域化を進めようとしているが、芦屋にとってメリットが大きくても、西宮にはほとんどメリットがないと言われている。周りとの関係でバランスが悪い。
- ・産業政策では大きな取組はできていない。パン、スイーツなど商業の振興ぐらい。女性の就業率向上策と位置づけて、個人の起業支援をしようとは考えている。
- ・六甲山の活性化の取組が県・神戸市で進んでいるが、市が山を所有しているわけでもなく、六甲山をどうにかしようとしても市ではなかなかやりようがない。
- ・遊休施設の活用で該当するエリアは奥池くらい。ただ、用途地域としては使いづらい地域だ。商業系が立地不可なので、現状では何もできないだろう。
- ・外国人児童の教育支援について、県でもっと手立てしてもらえると大変ありがたい。南部に外国人が増えて同じような層が固まってきている。外国人児童の増加に対して、現場の学校の先生に対応を委ねているだけでは、済まない状況になってきている。
- ・義務教育なので、外国人でも学校に来る限りは子どもに関われるが、結局うまく指導ができずに日本語が分からないままドロップアウトしてしまうと、市として関わりにくくなる。学校に来てくれている段階で何とかしたいが、マンパワーが足りない。

<伊丹市>

(人口動態)

- ・ 本市の人口は高止まりしていて、この2年は急増。少し上がり過ぎのように思う。
- ・ マンション開発でファミリー世代が転入してきて、若返る動きもあるが、トレンドとしては、65歳以上が増えてきているのは間違いない。
- ・ 社会増減はマンション開発の影響を受けるので、年によって変わる。H30は大型マンションで1,185増えたが、R1は342増である。マンション建設に頼っている状況だ。
- ・ H30の社会増は、伊丹市役所南のプラウドシティによるもの。全体で447戸と大規模だった。他にはJR伊丹駅近くで116戸、市南部に88戸など、100戸程度のマンションがいくつかできている。駅近くでのマンション開発が多い。
- ・ 大手前短期大学が西宮に移転し、その跡地もマンションになる。阪急・JRの駅近だ。他にもまだマンション開発の余地がある。人口増が引き続き見込まれる。
- ・ マンションを作ったら完全に売れるというわけではないが、待機児童ゼロの強みを打ち出していく。まちなかミマモルメも本市の特色。防犯カメラを活用した安全安心の街づくり。子育て施策としても売りにしている。
- ・ 中心市街地の人口が特に増えているが、市域全体で見ても、戸建ての建設が進んでおり、空き家の極端な増減もなく、うまく循環しているようだ。
- ・ 尼崎との間で転出入が多い。出入りとも大体1,000人ぐらいで均衡している。R1は転入1,089人、転出1,057人で32人の転入超過。西宮、宝塚、三田、神戸との出入りも多い。R1は西宮から96人の転入超過、三田から140人の転入超過という状況。
- ・ 県外では豊中市への転出超過が多い。R1で144人の転出超過。大阪市からも豊中市へ結構出ていくと聞いている。マンション開発、宅地開発が結構行われているようだ。
- ・ 川西、宝塚など北部から南部に移るといった傾向がある。高齢化が進み、駅前など便利な場所にできる新しいマンションに移るといった流れだ。
- ・ 市内全体が比較的便利。市域全体にバスが走っているし、平坦だから自転車も便利。自転車を使う人がすごく多い。そういうこともあって、人口が安定している。
- ・ 猪名川より東側で少し人口が減ってきている。工場が多いエリア。飛行場にも近い。飛行機の改良が進んだこともあり、騒音のことは昔ほど言われなくなった。
- ・ 外国人は3,200人くらい。極端に増えている感じではないが、ベトナム人が増えている(2017年6月184人→2019年1月366人)。

(総合計画、創生戦略について)

- ・ 住みやすいという声が多く、住み続けたい市民が多い。子育て支援や見守りカメラの充実に取り組み、すっかり有名になった「まちなかバル」をはじめ、様々なイベントも行っている。まちなかバルは、市内の店舗と連携して、街全体を「バル」として飲み歩いてもらうイベント。市外からもかなり入り込みがある。花火大会もやった。
- ・ 住みたいと思ってもらうにはブランドイメージの向上が大事だ。
- ・ 便利な街だが緑も残っている。昆陽池公園など大きな公園もある。豊かな緑を維持していくことも大事だ。

- ・自転車が多い。便利な一方で課題でもある。阪急伊丹駅と JR 伊丹駅の放置自転車が長年の課題だった。路上駐輪スペースを整備し、マップを作成。地下のハイテク駐輪場も整備した。自転車レーンの整備も進めており、自転車の使い勝手が増している。こういうところが街のイメージアップにつながっているのだろう。
- ・次期総計の課題は、高齢化対応と公共施設の老朽化対策。文化ホール、演劇ホール、音楽ホールに公民館を加えて、全部で74もある施設の老朽化をどうするか。長期スパンで見て、維持更新をどうするかは、市の財政にとって大きな問題だ。将来世代に過度の負担を残さない、ということも住みやすい街づくりとして大事な点だと考えている。
- ・令和10年に20万人を目指す。出生率が2030年に1.8になるという想定だ。
- ・重点施策の柱は、安全安心と人づくり。災害への備えが心配。大量の雨が降れば浸水する地域もある。公助、共助、自助を組み合わせていかないといけない。
- ・教育にも力を入れる。幼児教育無償化の狙いは、就労しているかどうかに関係なく、全ての子供に質の良い教育を施す必要があるとした点だ。幼児教育を教育委員会に移管し、幼児の段階から、学ぶという視点を持って学校とのつながりを強化していく。
- ・医療の確保も課題。市立伊丹病院と近畿中央病院の統合を進めていく。
- ・行政経営の基盤も強化しないといけない。ICTを活用して効率化を進める。生産性を上げないと市民サービスの維持が将来的に難しくなる。市役所庁舎を建て替え中で、令和4年度供用開始予定だが、窓口サービスの質の向上につなげないといけない。
- ・次期戦略は総計と一体化する。総計と戦略の目指すところは一致する。
- ・市内に1,200台の見守りカメラを設置。カメラがビーコンの受信機になる。いつその場所を通ったかがわかる。カメラの設置は、住民に聞きながら進めた。認知症の人には、靴にビーコン付けてもらう。どこにいるのかがわかる。
- ・かなり努力して保育の受け皿を増やしている。作れるところとニーズのあるところのマッチングに腐心している。中心市街地や、南側のエリアはなかなか大変だ。

(地域の将来展望)

- ・公民館的な施設が拠点になる形で地域活動が盛んな街だ。リタイア層にかなり地域活動に携わってもらっている。ただ、その施設を全て維持するのが難しい。集約化を進めていきたいが、財政と地域活動を調整しつつやらないといけない。
- ・シニアが引きこもってしまわないように、家から引っ張り出して、外でコミュニケーションを取ってもらうようにしていかないといけない。
- ・地域団体の役員の高齢化がどこも進んでいる。特定の人が頑張るのではなく、多くの人が薄く担うことが大事。自治会活動が盛んだが、17の小学校区単位の組織に変えていつている。エリアを広くとって担い手を確保する。
- ・人口減少で国全体に内需が減っていく。伊丹市単体では難しいから阪神全体でインバウンドを呼び込むとか、新しいサービスを開発するとか、少しでも付加価値の高いものを生み出さないといけない。
- ・外国人が今後も来てくれるとは限らない。30年後は高齢化も進んでいるし、施設も老朽化している。持続可能な街にするには、ここ10年が大事だろう。
- ・産業振興では、市単独では思い切ったことがしづらい。広域での取組が重要だ。

<宝塚市>

(人口の動き)

- ・住宅都市として歩んできた街。国勢調査人口は2015年に減少に転じた。
- ・転出入は、ほぼ均衡している。若干の社会増で来ているものの、近年、社会増の数が減ってきている。H29は643人の転入超過という状況。
- ・転出先は、阪神間の近隣市が多い。H29で西宮677人、神戸533人、伊丹、尼崎、川西が400人台、大阪は1,600人台、関東は1,300人くらいで、うち東京が700人弱。
- ・転入も同じような状況。転入者数はH29で西宮から約1,000人。神戸から600人弱、伊丹・尼崎が500人、川西400人程度。大阪府下から1,900人、関東から960人。
- ・自然減が年々増えている。H30で400人弱減。出生率は県平均よりちょっと下で推移。
- ・人口の増減は、地域でかなり偏りがある。市内20の小校区毎のまちづくり協議会の単位では、阪急山本駅の山手にニュータウンができて、今も分譲が続く、山本山手地区の増加が突出している。山本では、山手だけでなく、平地でも宅地開発が行われている。植木産業が盛んだったが、それが衰退傾向で、畑が徐々に宅地に置き換わっている。
- ・人口が減っているのは、オールドニュータウン化している地区。宝塚駅山側のすみれが丘では、団塊世代の高齢化が進み、人口も減ってきている。中山台、逆瀬台でも同様の傾向がある。人口減少の要因はきちんと分析できてないが、山手の生活が不便で、駅近のマンションに移り住むという話はよく聞く。ただ、持ち家の人が多いので、移動の総数は多くないのではないかな。やはり自然減による影響が大きいと思う。
- ・西宮から来る子育て世帯が多い。山本山手地区や宝塚の駅前のマンションが人気。
- ・西宮は住みたい街だが、不動産が高すぎる、という声を聞く。西宮は、住みたい街ランキングで常に最上位の街だが、宝塚も上位の街ではある。
- ・外国人数はほぼ横ばい。大きな企業や工場が少なく、住宅都市なので、大きく増える要素がない。傾向としては増えていくだろうが、急激な増加はないだろう。

(総合計画、創生戦略の状況)

- ・総合計画と創生戦略の期間が1年ずれていたもので、次は一体的に策定し、戦略を総計に溶け込ませる。現行戦略は期間を1年延長。現在、次期総計の策定を進めている。
- ・地方創生交付金は有難いが、2分の1負担なので、予算編成の際に毎年苦慮している。課題は交付金事業の継続。事業終了後は自走せよと言われるが、3年程度で自立するのは難しい。事業期間が終わると活動が止まってしまう取組が多い。
- ・次期総計の中間答申案のスローガンは「わたしの舞台はたからづか」。市民ワークショップを10回やった中から、今後のまちづくりの視点を3点に集約した。第一は「活動、活躍できる場」としての舞台、第二は「暮らし」を支える舞台、第三は「まち」を未来につなげるための舞台、これら三つの舞台を一つのスローガンにまとめた。
- ・行政がやるだけでは街づくりは進まない。行政任せでなく、市民が主体的に街づくりに関わるといった視点が大切。次期総計では、挨拶、ごみ拾いといったことから、できるだけ多くの市民に何らかの形で街づくりに参画してもらうことを前面に出したい。
- ・市民ワークショップは同じメンバー50名程度が集まって繰り返し議論した。そこに市の

若手職員も入っている。有志が5回集まって、提言書をまとめる作業もした。

- ・ワークショップを行政に対する要望会にしたくなかったので、ある程度地域活動に関わっている人に声掛けをして集まってもらった。それでもどうなるかは心配なところもあったが、次第に行政に文句ばかり言っても仕方ないという雰囲気になって話が進んでいった。そういう雰囲気を市全体に広げていくことが必要だ。
- ・エイジフレンドリーシティは秋田市に次ぐ国内2番目の自治体としてWHOの認証を受けた。高齢者に優しい街は、全ての世代にとっても優しい街。高齢者は支えられるばかりでなく、元気な人には支える側に回ってもらう。就労機会を確保したり、地域活動に入ってもらったりする。それが健康、長生き、医療財政の軽減にもつながるという発想。
- ・宝塚歌劇という看板はあるが、それ以外があまりない。殻を破らないといけない。
- ・子育て世代の流入が鈍りつつある。都市間競争をしたいわけではないが、無策というわけにもいかないので、子育て世代が住みたい街づくりに取り組んでいく。
- ・広域的な連携も必要。20~30年のスパンで見たら、今のままではやっていけなくなる。一つの自治体で完結するのは難しい。持続可能な地域をどうやって作るかが課題。
- ・エイジフレンドリーシティでモデル的にやっているのは、シニアの居場所づくりと就労支援。就労支援は、社会福祉法人の業務補助のコーディネーター。居場所づくりは、親子の集まりに高齢者にも来てもらうなど、シニアの活躍の場づくりである。

(地域の将来展望)

- ・地域の担い手が高齢化。宝塚は協働を掲げているが、人口減少、特に生産年齢人口が減少する中で、協働を進めていかないと地域の維持が難しくなる。
- ・まちづくり協議会はPTAとか地域団体の寄り集まり。自由が利く組織でもあり、地域全体を見渡せる。地域によって関係は様々だが。
- ・総計では、基本構想、基本計画と、地域ごとのまちづくり計画を横に並べる。基本計画は行政が作るが、まちづくり計画は各まちづくり協議会が作る。今ある計画を見直し、基本構想の実現に向けて、行政と協議会がともに取組を進める形をつくる。
- ・まちづくり協議会には、人口などに応じて補助金を渡す形を考えているが、具体の支援はこれから。絵に描いた餅にしないように仕組みを考えないといけない。
- ・らんらんバスというコミュニティバスを以前走らせていたが、今は走っていない。
- ・4月に文化芸術センターがオープンする。文化芸術の面で新たな動きを生み出していききたい。今考えているのは、市民が集まって自由に自主的な活動をする場となること、また、子供たちに芸術的な刺激を与える場にするといったことだ。
- ・新名神のサービスエリアができて入込客数は一気に跳ね上がったが、中心地の観光は厳しい。手塚治虫記念館をリニューアルするが、市がどうこうするというよりは、地域が新しいものを作っていく感じで進めることが大事。ホテルも移転するので、そこをうまく活用できれば。
- ・産業政策では大きなことはできていない。小規模な製造業が3社ほどある以外は、飲食などのサービス業が中心。中小事業者が多いので、事業承継の相談カフェ事業としてコンサルタントを配置している。

<川西市>

(人口動態)

- ・ 人口は、若干減っている。20代が進学、就職、結婚で出ていき、子育て世帯が入ってくる。この部分が減ると更に減少するので、子育て世帯へのフォローを重視している。
- ・ 外国人は増加傾向にある。入りも出も増えているが、入りが前年比300人ほど増えている。ただ、川西で転入手続をしても、数週間後には出ていく人が多いと聞いている。一旦川西に籍を置くが、名古屋などにまとめて移動しているようだ。企業がマンションを借り上げてこの周辺で研修をしているようだが、実際のところはよくわからない。
- ・ 川西は、企業の街というよりは、住宅街の街だ。ダイハツ以外は大きな企業がない。
- ・ 大学進学時点で大阪に出る人が多い。便利な場所で一人暮らししたいということか。行き先は大阪市北区、箕面市、能勢町など。県内では宝塚、伊丹、猪名川が転出超過。逆に三田からは転入超過。転入者数が多いのは、豊中市、西宮市、神戸市東灘区の順。
- ・ 中心地である南部の駅周辺ではワンルームの賃貸が増えている傾向はあるが、大きなマンション開発は近年ない。中部の多田神社の辺りでは多少マンションが建っている。
- ・ 大きな傾向としては、北から南への移動。主にリタイア層だ。昭和40年代後半からの住民で、家が広すぎるということもあって転居する。大和団地、多田グリーンハイツがまさにそのエリアで、高齢化率が40%くらいと高い。

(総合計画、創生戦略の方向性)

- ・ 戻ってきてもらえる街づくりが大事だ。子育てによい街というのが川西の売りで、子育て支援と教育の充実に取り組んできた。今後は高齢化への対応にも力を入れる。
- ・ 地域の高齢者や子育て世帯を地域で支える街づくりを進めたい。保健師、看護師、助産師などが住民の相談に応じ、住民に寄り添って必要なサポートをする事業を考えている。子育て支援では、中学校区ごとに拠点を設けて保育士さんなどを張り付ける。
- ・ 南北に長い市で、特に高齢化が進む北部のニュータウンへの対応が課題。放課後児童クラブの開始時間、終了時間は、北部だと遅くまで開いていないと迎えに間に合わない。バラバラな形になるが、その地域の特性に合わせた対応をしないといけない。
- ・ 教育では、ソフトバンクと連携し、中学校の部活でタブレットを使ってトップアスリートが指導するようにして、先生の負担軽減にもつながるといった取組をしている。不登校の生徒にタブレットを渡して連絡を取り合うといったこともしていきたい。
- ・ 様々な事業をやって、情報発信もしているつもりだが、市民から見るとどんな支援があるかわからない。やっていることが知られていない。制度はあっても、使ってもらえない。事業や支援の情報をきちんと伝える努力をしないといけない。市の広報紙は見ようとしない人が多い。スマホなど市民が普段使っているツールで情報を伝えていきたい。
- ・ 実は困っていない人が大半である。困っていない人が多いというのは幸せなこと。課題は、困っている人にどこで何をやっているのか伝えることだ。
- ・ 空き家を掘り起こし、使いたい人とマッチングする制度を作りたい。民間の不動産会社と連携し、市とNPOが間に入って活用先をマッチングするイメージで考えている。
- ・ 空き家は空いたからすぐどうこうとはならないもの。ずるずると持ち続ける人が大半。

労力がかかるので、家の中の整理も覚束ない。そこで止まっている。

- 大和団地は坂が多いが、ニュータウン内の移動手段がない。そこで、ソフトバンクとトヨタが共同で立ち上げたモネテクノロジーズという会社がオンデマンドモビリティの実験を大和団地でする。これがうまくいけば、ニュータウンの課題解決につながる。
- 買い物支援ではセブンイレブンと連携協定を結んだ。関西スーパーも移動販売をやっている。集会所よりも高齢者施設の方がよく売れるようだ。老人ホームに入っている、動ける間は自分で買い物したい、自分で選びたいということだ。フル稼働するくらいのニーズがあって、もうこれ以上は動けないと事業者が言っている。
- 近居のための転居支援は、転入者を増やすために作った制度なのに、実際に制度を利用するのは市内で住み替える人が多い。結婚新生活の家賃補助、引越し補助も、補助制度がきっかけとなって住み替えるというよりは、転居の届け出をするために市の窓口に来て初めて制度があることを知って申請する人が多いのが実態。こんな制度をやっている意味はあるのか、となって、これらの制度を一度見直そうという話になっている。

(地域の将来展望)

- 住んでいてよかったと思ってもらえる街づくりを進めたい。「住宅都市」が売りなので、利便性、教育の質、子育て環境など核となる部分を維持していくことが大事。人口が減って次第にコンパクトになっていく中でも、そういう街であり続けることを目指す。
- 子育て世帯が多少入ってきて、人口が増えるわけではない。今住んでいる人たちが幸せに暮らし続けられるようにしつつ、地域を次代に引き継いでいく取組を進めたい。
- 猪名川に立地するプロロジスで生じる雇用を川西の人材でカバーできないかという話が来ている。これを生かして南に向かう流れとは逆の北向きの人の流れを作りたい。
- ニュータウンの高齢者は地域活動に熱心だ。企業で活躍した方が多く、住民のパワーはすごいものがある。このニュータウンの良さを続けていけるようにしたい。
- 大きな家が持てる、買い物が近くでできる、静かな公園がある、子育てがしやすいなどいろいろな要素を含めたトータルの質の向上を目指す。
- 大きな家を仕事場にしてもらおうことを考えている。働き方が多様化しているので、主婦の方とか、家にいながら仕事をする人の支援ができないかと。大阪・神戸にコワーキングスペースができて、川西では住みながら、そこで起業ができる、仕事ができるというのを売りにできるかもしれない。大阪まで通勤するのに1時間はかかるので。
- カフェ、仕事場など、いろんな機能のあるニュータウンに変えていきたいが、行政だけで考えるのは限界がある。行政が提示した課題に対して、こんなアプローチができるという会社や起業家に来て、その取組を行政が支援するようなやり方が必要だ。行政が形を作って民間にさせるような従来型のやり方では課題解決が進まないと思う。
- 宝塚や伊丹と比べて特徴がないと言われる。ブランド戦略として川西なりのストーリーづくりをしてシティプロモーションしてプラスアルファにつなげたい。
- 川西 IC 周辺への産業立地が進まない。周りが高速道路用地としてかなりの金額で売れたので、IC 周辺の土地の価格が上がってしまった。進出しようとする企業からすると、土地が高すぎる。だからといって、市が財源を投入するわけにもいかない。

<三田市>

(人口の動き)

- ・ ニュータウン開発で人口が急増した街。1987～97年の10年間、人口増加率が全国1位を記録。この間に43,784人(1987)から104,736人(1997)まで増加。人口のピークは2011年の115,061人。2020年1月1日時点で、111,900人となっている。
- ・ 現行の人口ビジョンは、2060年8万2千人となるどころ、戦略で95,000人を実現するとした。しかし、現実は厳しい。次期総計の中で、この人口ビジョンを見直したい。
- ・ 子ども・子育て応援のまち三田として、妊娠、出産から子育て期まで切れ目なく支援する三田版「ネウボラ」=子育て世代包括支援センターを設置しており、子育て世代から評価されている。10歳以下が転入超過で、子どもを連れて三田に引っ越してくる。
- ・ ただ、20代が転出超過。若者が住み続けられる街となるための取組も進めている。
- ・ 転出先は大阪市内が多い。県内なら神戸市北区。近くてよく似た地域なのでこの辺りに住もうと思う人は、北区と三田市を比べるようだ。北区から転入する人も多し、北区へ転出する人も多し。数的にはほぼ均衡しているが、H30は転出が少し多い。
- ・ 大阪で働く人が多く、県内では、大阪寄りの宝塚、伊丹などに転出する人も多し。若いうちは伊丹で、30代に入ると三田に引っ越してくるといった傾向もある。
- ・ 合計特殊出生率は直近のH29で1.25と、県平均より低い。子どもが生まれた後で引っ越してくる人が多いので低いということではないか。
- ・ フラワータウンの高齢化が進み、車なしでも生活できる三田駅近くに高齢者が戻ってきている。駅前のマンションは、すぐ売り切れた。市内の購入者が多かったと聞く。
- ・ 駅前再開発の最後のCブロックにマンションが建つ。400～500戸の規模で、人口を増やせる最後の場所だ。高齢者が駅前に集まると、ニュータウンの一戸建てが空く。そこに若い人が移って来る。そういうふうにより上手に回転させることで人口流出を減らしたい。
- ・ 旧市街とニュータウン以外は市街化調整区域で、ミニ開発もできない状態。
- ・ 関学の学生がかなり住んでいる。ただ、三田は意外に家賃が高い。賃貸の供給量が少ないせいだろう。ファミリー層が多い街で、収入が結構ある人が多い。
- ・ 外国人は登録ベースで大体1,000人くらい。ベトナム人の技能実習生が増えている。中小企業が人手を確保するためにベトナムに行って営業しているという話を聞く。
- ・ 三菱電機や、テクノパークに多くの企業が立地しているが、人出がかかる仕事は多くなく、市内の雇用は頭打ち。外国人がたくさん入ってくるということも考えにくい。

(総合計画、創生戦略の状況)

- ・ 人口を増やそうと移住施策を打ち出したが、日本全体で人口が増えない中で人口増には限界がある。次期戦略では、人口減少下でも暮らしやすい、住みよい街を考えたい。
- ・ 関学があるので、若者の力を街づくりに生かしたい。そのためには一定の賑わいはいるし、働く場もある。ということで、最近では起業・創業に力を入れている。
- ・ ニューメキシコ大学に若者を派遣して現地のベンチャーで1週間程度のインターンシップをしてもらって取組をやっている。今度商工会に開設するインキュベーション施設では異業種交流で新たなビジネスが生まれるように支援していきたい。

- ・子どもの学びでは、学校以外の場づくりとして、地域や企業に協力してもらいながら、幸民未来塾という取組をしている。川本幸民は、幕末に活躍した三田出身の科学者で、日本で最初にビールを醸造した人。それにちなんで、三田ビール検定もやっている。
- ・三田は都市近郊農業が盛ん。フラッグショップ的な売り場・レストランを作りたい。既存の施設をリノベーションして地場産レストランにするといった感じで考えている。
- ・市民一人ひとりに合わせた生活支援、ネウボラ拡大版のようなこともやっていきたい。ネウボラは元々フィンランドの取組。子ども・子育ての一元的な相談窓口。妊娠・出産、子育て、教育の行政の縦割りを取り払って切れ目なく対応する狙い。子どもが生まれる前から相談でき、産後には保健師が訪問するなど、継続的に子育て家庭をフォローする中で、ピンポイントでニーズに応じていく。そこに専門職を配置する。
- ・地域創生の課題は施策の成果がすぐに出ないこと。なんとなく効くのではないかという感じでやっている施策が多い。財政は年々厳しくなっていく。思い付きではなく、データを分析し、ターゲットを明確にしてピンポイントで施策を打たないと効果が出ない。

(地域の将来展望)

- ・行政と市民の関係の転換期にある。行政が丸抱えでサービスする、社会基盤整備する、という時代は終わりつつある。市民のピンポイントの要望に応える、より必要としている人に強弱を付けて対応する、そういう行政に変わっていく転換点が来ている。
- ・一番大事なのは、市民の生の声を聞くこと。今のように中途半端に市民の声を聞くのではなく、もっと深く聞いて施策立案、資源配分をしないといけない。現場は手探りでやっているが、市民との接点をどうデザインするかをもっと考えないといけない。
- ・市民参加の会議のやり方も考えないといけない。会議形式だと、働いている人や子育て中の人、障害があっても来られない人、昼夜逆転している人などの声は拾えない。
- ・市民と行政の溝を埋めるため、時間や場所に関係なく、市民の声が行政に届くような仕組みが必要だ。例えば、福祉部門で電子メールの窓口を作り、投稿があれば5日以内に回答する取組をしようと思っている。必ず返事しないといけない大変さはあるが、それよりも声を聞くことの方が大切。そういうことをしないと双方向の関係にならない。
- ・今はネット、SNS が発達し、動画しか見てくれない時代。テレビすら見ない人が多い。大学生のことは大学生に、障害者のことは障害者に聞かないとわからない。
- ・今住んでいなくても、遠くからでも、応援してもらえる街にしていけないといけない。転職、退職などで、どこに住むかという時に思い浮かぶ街であることが大事だ。
- ・三田にいながら東京や海外の会社で働けるようになるかもしれない。そうなった時に大事なのは、街に対する愛着だろう。三田がよかったな、兵庫がよかったな、と思ってもらえる街にしたい。そこで鍵になるのは教育であり、体験だろう。
- ・民間企業の社員の登用で、週2日勤務で日当いくらという話をしたら、なんで何をやるかもわからないのに一々行かないといけないのか、と言われて話が消えた。民間は、やることがあれば働き、行く必要があるなら行くが、そんなもの最初から決められない、電話やテレビ電話で済む話は、それで済ませるという感覚。考えたらむしろそれが普通で、とにかく週2日来てもらって、日当いくら支払って、という発想が終わっている。

<猪名川町>

(人口の動き)

- ・人口は現状約 30,600 人。ピークの H22 以降、自然減と社会減で、毎年 200 人前後減少している。その鈍化、抑制を図る必要がある。2060 年 2 万 7 千人の目標は厳しい。
- ・出生率が県内で最低の 0.94。ニュータウン開発で生きてきた町なので、ほとんどが持ち家の一戸建てで、賃貸が非常に少ない。マンションも少ない。子育て世帯の転入はあるが、子どもが生まれて幼稚園か小学校に上がる段階で広い一戸建てを求めて引っ越してくる人が多い。そうしたことが低出生率の一つの要因ではないか。
- ・もう一つ考えられる要因は、出生率の計算には未婚の方が含まれる。町内には結構裕福な人が多い。所得水準が高く、男女とも経済的に自立していて、婚期が遅い。家が大きく、親との同居にもストレスがないということもあるだろう。健康寿命が県内 1 位なのも、生活水準の高い人が多く、生活習慣に敏感だからだろう。
- ・大学進学と就職の段階で転居が多いのは、20 年前から変わっていない。対策をあの手の手で展開しているが、かけた経費に見合う成果がなかなか出ていない。
- ・60 代以降の転出が増加傾向。大きな一戸建ては、二人や一人になると持て余す。それに医療・介護が必要になってくると、介護サービスは町内で充足できているが、医療は、総合病院がないので、高度医療が必要になると町外に出ないといけない。それで、利便性の良い大阪の北摂圏に移る人が増えている。地価が下がってそちらがお手頃になったこともある。高齢者に最後まで安心して暮らしてもらえる政策への重点化が必要。
- ・子育て・教育にかなりの事業費を投入している。中学まで医療費無料、給食費無料、幼保の給食費も無料。ただ、一度始めたら町民には当たり前になってしまう。ほとんど感謝されない。学力が県内トップかという、そこまででもない。
- ・家が建てられる場所には大方建ってしまった。空き家活用にシフトしないとけない。現在空き家は 500 戸足らずだが、今後加速度的に増えていく見込み。空き家を子育て世代にバトンタッチしていく政策に力点を移して人口減少を抑制しようと思っている。
- ・大阪に通勤する人が多く、転出先、転入元とも大阪北摂圏が多い。それ以外の地域との出入りはあまりない。同じような地域でお互いに行ったり来たりしている。
- ・外国人は、事業所が少ないので、目立った増加はない。登録ベースで大体 200 名前後。労働力不足から主な事業所で外国人の割合が増えてきているようには感じる。
- ・婚活事業を 3 年前に始めた。めでたくゴールインした人もいるが、結婚したらみんな外に出ていってしまうので、婚活事業は一旦終了しようと思っている。

(総合計画、創生戦略の状況)

- ・行政が何もかもするのは限界がある。住民に主体的に動いてもらう必要がある。
- ・戦略の重点戦略は、ワークショップなどで意見が多かった項目として、コミュニティ以外に、住みたい街、交通の不便解消を掲げて 3 本柱とした。
- ・住みたい街では、医療の問題に対応。総合病院はないが、開業医はたくさんいる。かかりつけ医制度を深めて、安心をつなぐ取組をする。
- ・公共交通では、阪急バスが路線バスの減便を検討しており、デマンド交通に乗り出す。

- ・昨年11月から地域を回って、停留所の位置決めを進めている。ネッツトヨタ神戸と協定を結び、官民連携で取り組む。率先して新しい交通の取組を進めているトヨタ自動車とタグを組み、運行システムについては損保ジャパンのシステムを導入する。これがうまくいくと高齢者の転出抑制にも効くのではないかと思っている。
- ・来年度は無料で実験し、2年目は200円程度に有料化して実験して運用の中身を手直ししつつ、令和4年から免許を取って運行する計画で動いている。ニュータウンを抱える自治体の宿命のようなもの。何もしなければジリ貧になるだけなので。
- ・産業拠点地区に立地するプロロジスの物流基地の建屋の建設が始まる。この基地は西日本最大規模で、プロロジスも世界的な物流会社なので、ユーザーの関心が高い。令和4年度には街開きになる。最低でも1,500人の雇用が発生すると発表されている。
- ・大きな雇用が生まれるが、町内からは500人も来てくれないだろうと言われている。雇用の面では川西に期待がかかっている状況。
- ・新名神の川西ICが目と鼻の先にできた。企業から事業用地の問い合わせが多いが、市街化調整区域で使えない。県土木は柔軟に対応すると言ってくれるが、いろんな条件をクリアするのに何年もかかる。事業者には、旬の時期があるので、3年もかかるなら他で探すわ、と大阪側に行ってしまう。みすみす機会を逃しており、非常に残念。
- ・よくあるのが、やる気のある人が勝手にお店を始めるケース。正面切って相談されるとダメだが、特に相談もなく、悪気もなく、うまく行き始めたところで、行政に情報が入ってきて、言わざるを得なくなる。そして閉店に至る。地域からは、町は人に来てくれというくせに潰しとる、と言われる。こういうことをなくしたい。
- ・この4月から町として調整区域の問題に対応する体制を役場内に整備する。せっかくアプローチしてくれた人には、最後までお付き合いしたい。調整区域の活用は町にとって一番の課題だ。特別指定区域制度ができたりしたが、まだまだハードルが高い。どうしたら調整区域を活用できるかを模索したいし、県の柔軟な対応を期待している。

(地域の将来構想)

- ・高齢者が安心して住み続けられるようにすることが大事。そのためには、コミュニティ自らが主体的に動いて住みたい街を作るような方向に変えていかないといけない。
- ・行政が何でもする時代は終わった。地域が動いて、それを行政がサポートする形に変えないといけない。そうするためにも住民同士の交流を深める必要がある。南北に長い町で、南のニュータウンと北の旧地域では未だにあまり交流がなく、考え方が大分違う。
- ・道の駅「いながわ」の移転を進めたい。現在の利用者は年間70万人のうち町内が5万人で、1割もない。高齢者が野菜を買うなど、常連が行くだけ。だからニュータウン近くに移転して、普段遣いしやすいように物販施設を併設するとか、お母さん方がわいわい集えるように子育て支援施設を併設するとかいった形で再整備したい。
- ・篠山まで20kmほどあって路線バスは不採算。阪急バスの減便方針に対応し、東西南北の公共交通の結節点にするためバスロータリーを整備するのが道の駅移転のポイント。
- ・小さな町だが、できる限り新しいことにチャレンジしている。「つながり」と「挑戦」が新しい総合計画のキャッチフレーズ。町長からはなかなかGoが出なかったが。事務方ほどの部署も結構しんどいと思うが。

<明石市>

(人口動態)

- ・令和2年1月現在で299,333名まで来た。遂に30万が見えてきた。増加率が若干下がってはきたが、引き続き人口は増加している。
- ・神戸市からの転入が最大で、次が加古川。区別では中央区のみ転出超過だが、マンション規制が始まるので、これ以上にはならないのでは。転入超過が多いのは、西、垂水、須磨で3桁台。特に西区が大きい。道を挟んで向かい側で、明石なら中学生まで医療費無料など子育て支援が手厚い。ならそちらへ引っ越そうという感じなのだろう。
- ・東京への20~24歳の転出超過が続いているが、大阪への移動も増えている。2019年は転出超過になる見込み。女性が一人でも働きやすい環境が大阪で整ってきている。若い女性が出ていく流れが、東京だけから、東京・大阪両方になってきている。
- ・年齢別だと15~19歳は転出超過だが、25~39歳と0~15歳が転入超過。子育て層が入ってきている。子育てに注力してきた効果が出ていると思う。
- ・東京圏への転出超過は日本全体の問題。地方創生のこの5年でここまで悪化すると思わなかったが、自分が20代だったらと考えると、そりゃ東京に行くだろう。人が多いとか、通勤が大変とか言っても、それ以上の魅力がある。
- ・中心部だけでなく大久保地区も賑わっている。大久保は唯一自然増(H30:+124人)の地域。子育て層に人気がある。マンション開発が続いているし、区画整理で新たに完成した住宅団地で手頃な一戸建てが供給されている。
- ・H25に中3までの医療費、H28に第二子以降の保育料を無料化。経済的な支援に加えて、小学校の30人学級、駅前再開発ビルへの子育て施設や図書館の整備、本の街として3か月検診で本をプレゼントなど、総合的に子育て施策をやってきた結果が出ている。
- ・西明石には新幹線も停まる。のぞみも一本だけ停まって、朝出て東京に9時に到着できる。便利な街だと思う。やはり交通の利便性の力はすごい。
- ・外国人はベトナム人が増えている。二見の工場で働いている技能実習生だろう。見かける機会が増えたが、一角がすべて外国人というほどではない。

(総合計画、創生戦略について)

- ・現在検討中の次期総計ではSDGsを前面に出したい。SDGsは難しいと言われるが、当たり前のことしか書いてない。例えば「貧困」では、1日2.5ドル以下の貧困は明石の課題ではないが、シングルマザー、低所得者層などの相対的貧困なら明石の課題になる。誰一人取り残さないというSDGsの理念は明石の街づくりに一致している。
- ・戦略では人口30万人、出生数3,000人、本の貸出冊数300万冊の「トリプルスリー」を掲げた。人口と本の貸出冊数は達成目前だが、出生数が厳しい。ただ、出生率は1.7まで上昇している。子育てしやすい環境を整えて、人口置換水準を目指す。
- ・課題は子育て世代の流入による待機児童の発生。昨年4月で412名。2018年中に2,000人受入規模を拡大したが、100人程度しか待機児童が減らなかった。
- ・自律した温かいコミュニティづくりも柱の一つ。特に力を入れているのは、元気高齢者の活躍促進と認知症対策。認知症になっても心配のない地域をつくりたい。

- ・地域のいろいろな課題に対応するため、小学校区ごとにまちづくり協議会を設置。
- ・明舞団地の旧松が丘小学校跡を活用し、地域総合支援センターを令和2年に開設予定。地域総合支援センターは市内6地区にある。相談員を配置し、高齢者、障害者、子どもを問わず、地域の困りごとに対応する。社協に委託し、保健師、社会福祉士などの専門職と、地域支援コーディネーターを配置している。同様のセンターは他の市町にはないのではないか。専門職がいて相談ができ、地域活動のサポートもする。
- ・インクルーシブ条例は、全ての人にやさしい街づくりの理念を謳ったもの。ただ、インクルーシブという言葉が難しい。社会的包摂と訳してもなかなかわかってもらえない。

(地域の将来展望)

- ・人口減少にどう対応するか。日本全体で人が減ることに対して何かする必要がある。では自治体で何ができるのか。
- ・子供を増やすためには、社会で子育てしないといけない。親が育てる時代から、社会が育てる時代への変革が必要。そうなれば出生率も2に近づくのでは。そういう視点で考えたら、明石でも、もっといろいろできるはず。例えば児童虐待。シングルマザーや核家族など家族の孤立に虐待の芽がある。そういうところにもっと手を差し伸べていければ、子育てのハードルが下がると思う。日本全体の課題ではあるが。
- ・明石の出生率は少しずつ上がっている。子育て世帯に聞くと、2人目3人目を考えたいという人が結構いて、データでも第二子以降が微増している。経済的な面だけでなく、気持ち的なところをどう支えていくかも大事。市だけでできることではないが。
- ・子どもを増やすために結婚をどう増やすか。婚姻率の低下は、お見合い結婚の減少でほぼ説明できると聞いた。自分から結婚する人は昔からいて、その部分は変わっていないが、親に言われてとか、誰かに言われてとか、ある種強制的に結婚させる社会システムが昔はあったが、今はほぼなくなって、一人で生活していくハードルも下がって、自分から結婚する人しか結婚しない社会になっている。
- ・だからと言って、昔に戻すことはできない。多様性という意味では結婚しないという選択ができる今の世の中の方がいい時代ともいえるわけで。
- ・インフラ面の課題は道路整備。大久保駅前の山手環状線や明石北高校の南側から西区役所をつなぐ道路の整備を進め、渋滞を解消する。もう一つは、施設の維持管理。トータルコストの縮減とバリアフリー化が課題。インクルーシブにはハード面の対応も必要。施設の集約化を図りつつ、ユニバーサルデザイン対応を進めないといけない。
- ・本庁舎は現地建て替えの方向で計画を練っている。移転や分散化の議論もあって、3年ほど時間がかかったが、ようやく現地建て替え案でまとまって動き始めた。
- ・中小企業が多いので事業承継が課題。商議所、士業と連携して事業者を支援する取組をしている。あとは、タコ、ノリなどの明石製品のブランド化。
- ・いいことをしていても、知られないと意味がない。こういうことをこういう目的でやっていると内外に伝えることがとても大事。住む場所も、イメージや評判で結構決まってしまうもの。実際には仕事の都合もあったりして、そんなに単純ではないだろうが、最後に迷ったときに、やっぱりこっちかな、となるのではないかな。

<加古川市>

(人口の動き)

- ・自然減はH25から進んでいる。社会増減は均衡を目指しているが厳しい数字。2019年中の移動は転出超過が969人。20～24歳の転出超過がここ3年で増加。
- ・神戸への転出が多かったが、昨年は明石市が転出先1位になった。大きく東へと動いている。入りは北部の加西市や高砂市からが多い。北から入り、東へ抜けるという流れ。
- ・外国人は総数2,992名。ベトナムが556人で第2位。職を求めてくるベトナム人が多く日本語教室にも熱心に来ている。韓国が1位で、中国とベトナムの順位が入れ替わった。
- ・東京一極集中の是正が地方創生の目的だったはずだが、この地域では明石市への一極集中が進んでいる。長期点な視点から見てそれが正しいのか。
- ・20～24歳の転出の幅が広がっている。高校生のふるさと意識を醸成する取組が大事だと思うが、「どうせ出て行くような世代に金をかけるのか」という声もある。25～45歳の転出は減少しつつあるが、20～24歳の転出が増えすぎて打ち消してしまっている。
- ・未婚者が増加しているが、結婚したら2～3人の子を持つ人が多い。女性に帰ってきてほしいが、そもそも県全体でも東京、大阪などに出て行ってしまっている。夫の親を頼りたがらない女性が、子育てしながら働き続けられる地域にしないといけない。
- ・若者を引き留めるためには仕事が必要だが、工場誘致しても倉庫ができるばかりで、雇用につながらない。
- ・就職で出て行ってしまう。ふるさとで暮らして働いていくということをどう意識付けするか。みんな都市部へ出たいと言う。
- ・県職員なら大半は兵庫県民だろうが、加古川市の職員は半分しか市内に住んでおらず、外に向かって市内に住んでほしいとか、帰ってきてほしいと言いつらい。
- ・北部が減って、加古川駅、東加古川駅周辺が増えている。山陽電鉄なら別府だろうが、やはりJR沿線が強い。加古川、野口、尾上辺りは人口が若干増えている。平岡はピークを過ぎた感じ。平岡は明石がすぐ隣なので、明石に移る人が増えているかもしれない。
- ・H30の転出超過1位は明石で▲307人、2位が神戸で▲143人、姫路が3位で▲125人。高砂からは+132人の転入超過。大阪へは▲159人、東京へは▲175人の転出超過。

(総合計画、創生戦略の方向性)

- ・これからの目玉はスマートシティ。ITを使った見守りカメラ、見守りサービス。
- ・「子育て世代に選ばれるまち」では明石に及ばない。若い世代を奪われてしまっている。人口の取り合いはやめて、市民が満足を実感できる事業をしないといけないが、子育て施策をしないとさらに明石との差が開くので、消耗戦だが、やらざるを得ない状況。
- ・子どもを増やす対策は、国が仕切ってくれた方がよい。自治体間の差が出なくていいと思うし、自治体に任されてしまうとなかなかしんどい。
- ・明石は鉄道沿いに横に長い。加古川には北部もある。北部から便利な場所へ移ろうとすれば、加古川駅前か、それより東の他市の便利な地域に行くといったことになる。
- ・加古川駅前も魅力が少ない。駅北側の開発を進めたい。十数階の建物で、低層部は商業や健康増進系、高層部はマンションを考えている。ヤマトヤシキのある南側も、なんと

か再開発の対象にしたいが、地権者が多く、開発手法をどうするかが問題だ。

- ・ マンション開発が明石に集中している。明石なら売れるという感じのようだ。明石は子育て施策だけで人が集まっているわけではなく、街のイメージが若い世代にマッチしている。子育て世代の母親たちに聞いても明石のイメージがよい。
- ・ さらに明石にもう一駅できるとなると、加古川から大阪、神戸への利便性が相対的に下がりそうだ。
- ・ 加古川は戸建て文化の街でマンションが少ない。明石は年間10棟近く建っている。マンションと戸建てでは入ってくる人数が違う。戸建て庭付き駐車場付きの加古川か、職住近接の明石か、という感じになっていて、加古川は職住近接のライフスタイルに対応できていない。マンションのできた場所には人口が集中するので、周辺に自然と利便施設が増える。明石は駅から2km圏内で暮らせる地域。この利便性も明石の強み。
- ・ ウェルビーポイント制度というボランティア支援制度を作った。加古川は安全のイメージが低く、市民の満足度も低い。地域子供教室や登下校の見守りをするとポイントがたまり、稼いだポイントを地域で使うこともできるし、学校への寄付もできる。
- ・ 見守りサービスは、カメラに検知器をつけており、タグを付けておれば、その人の場所を検知して保護者のスマホに通知がいく。郵便車、公用車などにもカメラを積み、市内を網の目のように張り巡らしている。登録者を増やすのが今後の課題だ。
- ・ 企業立地のための工業団地の用地選定を進めている。加古川バイパス、南北道があり、臨海地域は神鋼など製造業の要衝。パートも集まりやすい。企業から立地ニーズはあるが、市街化区域内には適地がない。進出のニーズがあっても断っている状況がある。

(地域の将来展望)

- ・ 将来の絵は市が示すというよりは、市民と話しながら作っていくものだ。
- ・ コンパクトシティ志向以外の人にも住みやすい地域、それぞれの人にあった生活ができる地域をつくっていく必要がある。自治体単位に人を囲い込む必要がなくなるような。県内でメリハリはあるべき。人口ばかりに眼が行っている状況は変えないといけない。
- ・ 公務員は営業に慣れてない。もっと外に出ていく体制にしないといけないし、民間と絡むのに抵抗があるところを変えていかないといけない。田舎の町でも公務員ですごい人がいるが、加古川市ではなかなかできていない。
- ・ 今の総計の「住み続けたいまち」という目標は今後も変わらないだろう。大事なのは、日常生活の便利さや内面の豊かさ。人の温かさ、つながりも大切にしたい。
- ・ 次期総計にはコンパクトというキーワードも必ず入ってくると思うが、どこにいても地域に拠点があって同じように暮らせる、というところから視線を変えないといけない。ここにセンターを作りますと示すのではなく、それぞれの地域に合ったやり方をネットワーク型で考えよう、ということを書いていきたい。
- ・ スマートシティでは、高齢者の安全安心対策で特徴を出したい。安心安全は目線として悪くないはず。アウトリーチとして、遠隔診療や薬の宅配なども考えていきたい。

<高砂市>

(人口動態)

- ・人口は毎年1%近く減少。1989年から社会減が始まり、その後自然減が加わった。姫路との出入りが一番多いが、数は拮抗している。転出超過は加古川が多く、その次が神戸。明石より多い。どうせ引っ越すなら神戸ということか。通勤の利便性を高めようとすると、明石も高砂もさほど変わらないので、いっそ神戸へとなるのかもしれない。
- ・年代別に見ると、20代だけでなく、30代の転出が増えている。子育て世帯が入ってきていたが、その勢いに陰りが見える。独身世帯は相変わらず都会に出て行く。
- ・明石との関係では、0~9歳が転入超過なので、子育て世帯の流入がそれなりにあるということ。広い家がほしいと思うと、こちらの方の土地が安い。子どもが多くなると、高砂が対象になるのかもしれない。加古川からも子育て世帯が入ってきている。高砂には待機児童がない。その面で頑張っている効果が出ている。
- ・外国人の数は増えてないが、多国籍化が進んでいる。企業の人材不足が背景にある。
- ・人口減少の理由は、女性の働き場が少ないこと。製造業が多い。新たな住宅の提供もできていない。分譲できる場所がないし、高層マンションは反対運動が起きて作るのが難しい。実際、ほとんど高層の建物が無い。計画が出るたびに、反対でなくなる。
- ・若い人は駅近に住みたい。だが、JR(宝殿駅、曾根駅)、山陽電鉄(高砂駅、荒井駅)いずれも主要な駅前の開発ができていない。
- ・昼夜間人口比率が100を超えた。神戸・大阪へ通勤していた人が、徐々にそちらに住むようになったためだ。ベッドタウンですらなくなってきた。
- ・一番大きい商業施設は別府のイトーヨーカドー。休日になると、市民の多くが加古川の商業施設に出かける。商業施設が少ないので、サービス業系の働く場も少ない。
- ・市の「顔」となる場所がない。市民アンケートをすると中心地を作れという声がある。昔から中心のない街。市の政策もバランスよく全域にという方針で長年来た。
- ・高砂は、JRより南側の海寄りのエリアが広く、そのためにJR駅のある場所が端っこにある感がある。顔が作れなかったのは、そういう立地の問題もある。
- ・今勢いのある姫路、明石、それに加古川も、ずっと前から都心を作る、駅を中心にした街を作るという思想があって、長い間少しずつ取組を進めてきて今の状態がある。
- ・JRの神戸から姫路までの間で乗降客が減っている3駅のうち2駅が市内の宝殿と曾根。周りの市は好調なのに、その波に乗れていない。やはり駅がキーだった。駅の近くに住むスタイルに合わせて施策を打っていないといけない。

(総合計画、創生戦略について)

- ・令和3年度からの総計を検討中。戦略を総計に取り込むため、戦略を1年延長する。
- ・第一の重点施策は教育。県立高砂南高校と連携し、地域学習や地域活動への参画を進めてもらっている。高校時代は印象に残る時期。小中学校は既に地域の人に入ってもらっているので、次は高校だ。高校生と一緒に地域振興策や防災を考えていく。
- ・第二の重点は住宅施策。高砂駅周辺など。ただ、なかなか難しい。
- ・次期創生戦略の打ち出しでは、住宅都市としての魅力向上に加え、誰でも働きやすい地

域というイメージの向上を図っていききたい。

- ・開発余地がないので、市街化調整区域の活用ができるようになるまでは、空き家対策を細々とやるしかない。幹線道路沿線が調整区域で、空き家が放置されている。
- ・高校生にアンケートをしたら、思いのほか地元・高砂が好きな子が多い。結局仕事で出て行ってしまっただが、子どもの頃のよい思い出があるということだろう。3割くらいは祭りの印象が強いようだ。この辺りは祭りの日には学校が休みになる。
- ・待機児童ゼロも続いている。働く場もあるし子供も安心して預けられる。安心して子育てできるという強みはあるのに、十分に生かせていない。
- ・社宅が多く、家を買う時に加古川などに行ってしまう。企業は近くに住んでほしいと思っている。職住近接の流れがあるので、勤め先の近くに居続けられる施策が必要。高砂は平坦で自転車通勤がしやすい。渋滞も関係なく、エコなので、自転車が安全に走行できる環境整備をして、自転車で暮らせる街といった打ち出しも考えられる。
- ・何をするかだけでなく、何をしないかも重要。何かをするためには、何かをやめないといけない時代。何が一番大切かを絞っていくのが計画を作る意味だ。
- ・市民との対話のやり方も、多様な意見に触れられるよう工夫が必要。
- ・若い人からは、もっといろんなことを知りたいという意見が多い。もっと開かれた市役所にならないといけない。受益者負担の考え方も示しつつ、全部オープンにして、一緒に考えて決めるスタイルが求められている。
- ・若い人の参加を呼び掛けるのに SNS は必須。総合計画ツイッターを立ち上げた。

(地域の将来展望)

- ・中途半端な街で、田舎でもなく自然たっぷりでもない。でも駅があって便利。そういう高砂の恵まれているところをうまくアピールしないとイケない。
- ・人口の取り合いをしても仕方ない。関係人口という概念が出てきたが、人口が増やせないからそういう話になっている。今住んでいる人たちの満足度を高めることが大切。
- ・たくさん事業所がある。職住近接が子育てには大事。通勤時間はロスでしかない。職場の近くで安心して子育てができる、そういう街を目指していく。
- ・ものづくりの地域と言われるが、新しいことにチャレンジする、新たな産業が生まれる風土を作っていきたい。ものづくりとサービス産業が両立する地域にできないものか。
- ・県のビジョンで、高砂にどういう役割を期待するのか。ものづくりの地域という見方だけではなく、生活産業、サービス産業が発展するようなビジョンが描けないか。
- ・JR 宝殿駅の近くにかなり大きい県営住宅がある。15 棟ぐらいある。市の課題である住宅政策に呼応して、そのリニューアルに取り掛かるといったことは考えられないか。
- ・市内にコワーキングスペースを作りたい。コワーキングは、箱だけ作ってもダメ。問題は運営であり、人である。キーパーソンが関わる形を作らないといけない。
- ・人が鍵なのは、市役所も同じ。〇〇さんが担当してくれるんだったら、やってみようかなということが結構あって、そういう部分がこれからますます大事になると思う。
- ・多世代が気軽に交流できる場がない。既存の団体の話ではなく、交流の場があって、そこをうまくフラットに回してくれる人がいるといったイメージ。加古川のシミズシーズのような中間支援団体が育つのが理想。

<稲美町>

(人口の動き)

- ・H27 国勢調査までで言うと、死亡 300 人、出生 200 人で年 100 人の自然減。社会増減は年 130~160 人の減少。転出先は近辺が大半。明石、神戸、姫路が多い。状況は 5 年前と変わらない。入りは加古川からが多い。加古川からは通勤・通学も多い。
- ・町内には食品製造業が多い。従業員が多いのは、神戸物産、キング醸造など。神戸屋のパン工場もある。食品ではないが、KCM（日立建機）も大きい。
- ・転出入が加古川との間で多いのは、稲美町の人が結婚して加古川駅周辺のハイツなどに一旦住むが、子どもが産まれて実家の近くに帰るとか、一戸建てを買うとなったときに稲美町を選んでるから。
- ・町外に出た人が町内に戻ろうとしても、市街化調整区域には家が建てられない。市街化区域の面積は 1 割ほどしかなく、大部分が調整区域。親と近居したい人の多くは、市街化区域内の区画整理された地区に住んでいる。
- ・調整区域では、特別指定区域制度を活用して、まちづくり協議会で県から特別指定区域の指定を受けて、外から人を受け入れる準備をしてもらってはいるが、実際に土地を手放す人は多くない。市街化区域は坪 30 万円でも、調整区域だと 3 分の 1 程度の価格になる。元々の売値がその程度だし、上下水を入れないといけないのでコストがかかるということで、一定のニーズはあるのに、売り物が出ない。
- ・区画整理された地区の土地はすぐに売れる。区画整理事業でお金が足らなくなって、追加徴収という例は、町内ではない。
- ・外国人は、登録ベースで 500 人を超えた。元々 300 人程度で推移していたが、ここ 2 年くらいで急増し、この 1 月で 530 人。一年前は 450 人。うちベトナム人は 235 人。人口比率で 1.7%となっている。県平均よりも高いはず。
- ・外国人の多くは、この辺りのハイツなどに数人単位で住んでいるようだ。勤め先は大きく 3 つか 4 つ。神戸市境に近いエリアに工業団地があって、そこに多く入っている。
- ・ゴミ出しで時々トラブルがあるが、どうしようもないほど困ったという話は聞かない。相談は増えている。キング醸造の関係の社会福祉法人では、来年度から介護人材として外国人を受け入れる準備を進めている。今後も外国人は増えていくだろう。
- ・出生率は 1.36。町内では出産せず、産んでから帰ってくるので低めに出る。子ども女性比（15~49 歳の女性数に対する 0~4 歳の子ども数）は東播磨地域では高い方なので、子育て世代には選ばれている。2 人目、3 人目を生んでもらう作戦が大事になる。
- ・未婚率は高い。町内は広い敷地の農家住宅が多く、家が大きく、離れもある。この住宅の建て方の特異性が晩婚化と関係があるように思うし、離婚して帰ってくるときの抵抗がないということにもなっているのではないかな。

(総合計画、創生戦略の状況)

- ・住民アンケートでいつも課題に挙げられるのが公共交通。路線バスはあるが、だっ広くて、マイカーがないと暮らせない町。うちはコミュニティバスをやっていない。
- ・H23 に交通問題の検討会をやって、デマンドタクシーを入れるべきという提言をもらっ

たが、路線バスとの競合問題があつてそれ以上前に進まなかった。それからしばらく時間も経つたので、今年度再度、デマンドタクシーの導入に向けた検討を開始。神姫バスも協力するという話で調整を進めてきており、来年度社会実験を実施する予定。

- この地域の路線バスは黒字。町も補助金を出している。こんな地域で黒字は珍しい。路線バスを守りつつ、デマンド交通を取り入れる。以前やった公共施設を周るバスは、乗る人がいなくて1年で撤退。やってみてアウトになった例が過去に2回ある。
- バス・タクシーどちらでも使えるバス・タクシー券（タクシーなら初乗り料金相当・年48回分）を配布し、路線バスの利用促進もしている。
- 公共交通の広域化も検討中。明石を除く2市2町の結びつきが以前から強く、医療やゴミ処理などで広域連携していて、今は共同で公共交通の研究をしている。
- ランドマークがなく、平たくて、家ばかりの町なので、シティプロモーションも重要。若手の政策研究チームが制作したPRビデオをユーチューブにアップした。「inami」＝「i（愛）の間に暮らすまち」というキャッチフレーズを打ち出している。
- 移住のイベントにも顔を出している。大阪ではまだ「稲美」が通用するが、東京では砂漠に水を撒く感じなので、やっていない。
- 産業関連では、北部工業団地構想を進めたい。62haくらい。H11に最初に絵を描いた。当時は、まだ養鶏場や農業で生計を立てている人が多くて、前に進まなかった。今、一帯の土地利用構想を練り直しているところ。都市計画道路の延伸が難しい。
- 農業では、JA兵庫南の六次産業化施設「にじいろふぁ～みん」がH27にオープンした。果樹が弱い地域なので、実験農場を作った。ブドウ、レモン、ブルーベリー、柿などいろいろやっているが、地植えではなく、まだ鉢植えなので、少量しかできない。

(地域の将来展望)

- 土地利用規制がいろんなことのネックになっている。農振を外したいが、田園風景は残したい。都市化は望んでおらず、産廃施設などの立地も防がないといけない。市街化区域の面積が小さく、既にコンパクトな町だが、コンパクト化も考えないといけない。
- 農振を外すにしても、農林サイドから、人が減っていく中でなぜ住宅がいるのか、1割の市街地がまだ埋まっていないのに、なぜ調整区域を市街化する必要があるのか、と言われると、なかなか反論が難しい。
- 面積の9割を占める市街化調整区域では、自治会の維持が課題。1割の市街地に5割の人口がいる。市街化区域の人口の伸びで支えられている状態。
- 昔は綿しかできなかった地域。疎水ができて、稲作ができるようになった。ため池の面積も11%ある。市街化区域1割、池1割が稲美町だ。明治時代にワイン醸造を目的に国策で開設された播州葡萄園は、病虫害と水害により10数年で廃園になった。山梨のようなワイン産地になれたかもしれないのに、残念なことだ。
- 30年後は、空き家がいっぱい。外国人もいっぱいというイメージだ。外国人とうまく共存しないとけない。空き家率は県内では低い方だと思うが、大きな農家住宅が空き始めたら、取得できる人が限定されるのでどうなるか。

<播磨町>

(人工の動き)

- ・ 人口減少が進む中、播磨町では微増・微減を繰り返しつつ横ばいの状況。5年前の国調に比べ、数十名減る程度。H22国調と比べたら増。
- ・ 6平方キロと狭い町域ではあるが、地区ごとに見ると内陸部で高齢化が進んでいる。昭和50年代にできた団地も高齢化が進んでいる。
- ・ H18にトップが変わって、子育て支援に力を入れた結果、出生率がH17:1.07からH27:1.66までアップした。女性町長の誕生が大きいと思われる。
- ・ 年度ごとにばらつきがあるが、基本的に社会増、自然減で来ている。近年、自然減が大きくなる一方で、社会増も大きくなっている。
- ・ 地域間移動は、県内が大半。特に加古川、明石、神戸との間で転出入が多い。県外だと大阪との出入りが大きい。この傾向は近年変わっていない。
- ・ 明姫幹線沿いの宅地開発で、街が若返っている。大きいところで180軒くらいの開発もあるが、数十軒の開発が多い。どこも完売している。加古川の人が入っている。
- ・ コンパクトな街だが、JRも山電もある。4つ小学校があるし、保育園も幼稚園も面積の割には充実している。小学生はどこも歩いて通学できる。
- ・ 年齢によるが、平地なので歩けるし、自転車に乗れる世代には便利な街だ。
- ・ 加古川・明石との隣接地域に一部市街化調整区域が残っているが、大半が市街化区域で大きな開発余地はほぼなくなっている。ただ、ミニ開発的なものなら、線路沿いなどでまだできる。当面、このような感じで現状維持を目指したい。
- ・ 外国人居住者が増えている。去年までは中国・韓国が多かったが、この1年でベトナム人が増えた。全体で500名のうち、ベトナム140人、韓国・中国が90人といった状況。播磨町は工場が多く、若い技能実習生がかなり来ている。役場の窓口にとまって登録に来るので、特定の事業所に割と集中しているのではないか。
- ・ 外国人とのトラブルなどは特に聞いていない。国際交流のイベントにも来てくれる。シャイな子が多い。勘違いだと思うが、成人式にも何人か来ていた。途中で帰ってしまったが。広報で20歳の人が集まるイベントがあると見てきたのかもしれない。

(総合計画、創生戦略について)

- ・ 令和3年度からの基本構想、基本計画を検討中。総合戦略は、基本計画に期間を合わせるため、1年延長する。SDGsを意識した作りにしたい。総合戦略を計画にどう取り込むかは考え中。基本構想はほぼ固まったので、基本計画の検討を進めている。
- ・ KPIは未達成のものもある。そもそもその項目が要るのかも含めて再考する。
- ・ 達成できなかったのは、20代30代の女性数、婚姻数、出生数など。年によって上がる年もあるのだが、厳しい状況。
- ・ 昨年の出生率は下がっているかもしれない。播磨町に来て産むというより、子育て中に転入してくる人が多い。町内に産科がない。加古川・明石にはあるが。
- ・ コンパクトな街なので大きなことはできないが、コンパクトだからできることもある。地域との距離が近い。物理的にも精神的にも。

- ・地域では、自治会長のなり手、民生委員・児童委員のなり手がいない。地域の希薄化が進んでいる。自治会組織率も下がってきている。その辺りはいかにも都会だ。行政の限界もあるので、地域力向上が総合計画策定でも重視する点だ。自治会長が一人で仕事を抱えすぎているという面もある。どこへ行っても同じ顔を見る。
- ・複数の自治会を括るコミセン区もあるが、メインは自治会だ。46自治会ある。戸数が少ないところは、自治会の運営が難しくなっている。場所によっては解散したいという相談が毎年ある。解散しても、ゴミステーションの管理などは、結局誰かがやらないといけない。それなら自治会があるのと一緒ですよと説得して解散を踏み止まってもらうのが毎年の業務になっている。
- ・10年前の総合計画の目標3万2千人を達成し、減っていない。ただ今後どうなるかはわからない。高齢化は確実に進む。
- ・トップが女性ということもあり、子育て支援が最重点。子育てコンシェルジュを置いたのも早かったし、このとりタクシー券の補助など、ユニークな取組もしている。
- ・教育にもかなり予算を使っている。耐震改修だけでなく、全幼小中へのエアコン整備や中学校給食に早くから取り組んでいる。学校のトイレは、ホテルやデパートのような綺麗なトイレに改修済み。トイレ改修では、子供たちへのアンケート結果を反映した。色使いもいい。学校のトイレが苦手という問題があったが、しっかり対応している。
- ・工場立地の関係では、緑化率の緩和が効いている。人工島の一角を20%から1%に緩めた。それでかなり設備投資、施設の更新が進んで、企業から喜ばれた。
- ・企業用地として、まとまった用地はもうない状況。
- ・農地があまりなく、これといった特産品はないが、この2~3年で30代後半の人が始めた「大地の苺」がおいしい。市街化区域内農地でやっていて、畑で採れたのを横のプレハブで売っている。その苺をケーキ屋さんを使ってケーキを販売したりしている。
- ・漁業では高齢化が進み、なり手不足の状況だが、若い人がウチムラサキ貝（大アサリ）の養殖に力を入れている。
- ・商業面は弱い。イトーヨーカドーに挟まれた商店みたいな感じだ。

(地域の将来展望)

- ・住民協働を進めたい。だが、住民アンケートでは、重要度が非常に低い。結局は行政に無関心。住民が生活にそんなに困っていない。何か決まってから、文句を言う。住民参加は行政に文句を言うことだと思っている人が残念ながら多い。
- ・町でありながら雰囲気は非常にcityである。人口減少も進んでおらず、住民が行政と危機感を共有するという風にならない。まあそれは幸せなことでもあるのだが。
- ・大きな課題はないかもしれないが、無理に危機感をあおるものでもない。逆に好きにやっている市民がいて、その中に行政が参加させていただくというような「行政参加」の形にしていけないといけないのかもしれない。

<西脇市>

(人口の動き)

- ・進学率の向上に伴い、1980年代から毎年200人前後の転出超過。産業振興、子育て環境の整備などに取り組んでいるが、社会の趨勢には適わない。
- ・近年、若い女性の転出が拡大している。転出先は大阪が増え、神戸より多い。大阪の方が魅力的な職場があるということだろう。市内で女性が働く場所が少ない。介護・医療が中心だったが、女性も学歴が上がれば都会へ出て行く。
- ・Uターンをしたくても受け皿（魅力的な働き口）がない。地元の金融機関も人の確保には苦勞している。市内企業は即戦力をほしががるが、それに見合う給料を払えない。
- ・転出者の絶対数は男性の方が多い。男性の働く場所は市内にもあるが、京阪神の工場がより高い収入を提示して彼らを迎え入れるので、京阪神へ勤めに出てしまう。
- ・市内の事業所の人手不足が深刻。東播磨より北播磨の方がずっと有効求人倍率が高い。ミスマッチが生じている。介護などは求人しても人が寄りつかない。
- ・西脇工業高校が象徴的だ。昔のように地元の播州織関係の企業ではなく、京阪神の企業へ行ってしまう。駅伝で全国に名を知られるようになったこともあって生徒のレベルが上がり、優秀な生徒から京阪神の企業へ取られてしまう。大学進学率も上がっている。
- ・加東市に人を取られている。多可町や丹波市から西脇へという動きもあるが、最近多可町からは直接加東市へ行く人が増えている。総じて北から南へと流れている。
- ・神戸と大阪の時間距離が変わらない。大阪まで高速バスで一本なので、正直大阪の方が行きやすい。大阪までバス一本か、三田まで出て福知山線で通勤している人もいる。
- ・ここ数年、金属産業や縫製業でベトナム人労働者が増えている。外国人住民が600人。うちベトナム人が240人ほど。ベトナム人の増加で社会減が改善している。
- ・企業が借り上げた住宅に数十人のベトナム人が住んでいる。雇用主が責任を持って彼らの面倒を見ており、トラブルらしきものはない。若い男性の技能実習生が多いが、詳しい実態がわからない。外国人住民との垣根をどう取り払っていくのが課題。

(総合計画・創生戦略について)

- ・地方創生で「ファッション都市構想」を進めている。縁もゆかりもない若者が現在20数名、播州織関係で働いている。3年間人件費を補助し、最終的に起業してもらうのが目標。播州織のブランド力を高めたいが、生産量がピーク時の10分の1。生地産地なのでブランド名もつかない。ここに新しい風を吹き込む必要がある。
- ・全国からデザイナーの卵を呼び込み、市内の企業に就職するという形につなげたい。播州織で企業の内部ブランドが立ち上がるなど、若い人たちが新しい風を吹き込んでいるが、それが生産量増加に直ちにつながるわけではないところが難しい。
- ・ファッション業界で働きたい若者は一定数いるのに、服屋の売り子くらいしか仕事がないところに、デザイナーとして食べていく道があると示したところが学生に響いたのだろう。「個人の夢」「雇用」「地元資源」のマッチングを考えることが大事。
- ・コワーキングスペースは、デザイナー系の人々が時間外に活用し、デザイナーの活動を地域に波及させる拠点になっている。まず人の動きを見せていくことが大事。

- ・いちご農家を育成するスイーツファクトリー支援事業も行っている。ビニールハウスで2年間修行し、農家として独立する。

(今後の方向性)

- ・西脇は平野部が少なく、大きな工場などを引っ張ってくるのは困難。もともと地元にある産業に活路を見いだすのが市のスタンスで、いろいろと政策も行っているが、大きな社会の流れには抗えず、社会減をなくすのは困難というのが現状。
- ・中心市街地に再び注目したい。古い街中に新築ができて、若い人が住み始めている。大きな流れとまではなっていないが、新陳代謝が出てきたのではないかな。
- ・釣り針も地場産業だが、メーカーは世界を相手にしており、地元での活動は限られている。中国との競争が激しく、世界で勝負していくためとして、西脇から大阪へ本社を移していく流れだ。その方が人が集まる。
- ・農業では山田錦と黒田庄和牛。酒蔵の誘致ができたので、東京農大と連携して学生を引っ張ってきて、ファッション都市構想の農業版をやりたいと思っている。
- ・マイクロンジャパンの撤退で1,000人以上の雇用が急に消えた。基幹産業は播州織、次に金属産業、サービス産業。介護福祉もいつのまにか基幹産業になっている。
- ・観光産業は弱い。元々観光よりも産業で食べてきた町だ。播州織の博覧会やマルシェを開催して人が集まってくるようにはなっている。産業遺産の活用も考えたい。
- ・市役所が中心市街地の一番東に移転する。土地の動きに効果があったようで、最近、空き家を壊して更地にして、新しい家が建つようになってきた。国道427号の整備も進んでいて、そういったものが住民の目に映っているのかなと思う。
- ・自治会活動の担い手の高齢化に対応し、自治協議会の立ち上げを進めている。以前は世帯主がムラの役員会に出ていたが、自治協議会では個人会員方式を進めている。旧村のまとまりである全8地区のうち3地区で導入済み。田舎の方を中心に動いており、地域の危機意識と比例している。黒田庄では比較的若い人も入ってくれているが、「若い者が生意気を」という人もいて、なかなか難しいところもある。
- ・自治協議会ができて自治会はしばらく存在する。自治会は日役の割り振りなどを担当し、自治協議会では移動販売車の事業をするなど、役割分担をしている。
- ・県の区分では「多自然地域」となるが、市民は「西脇は都市だ」という思いが強く、都市機能の充実を求める声大きい。しかし、2050年には街全体がやせ細っているだろう。
- ・郷土教育もやりたいが県立高校は忙しい。住民ニーズは「いい大学に進学させてくれ」というもの。市から郷土教育を押しつけても現場の先生方がしんどいだけ。ニーズを間違えると行政の都合だけになってしまい失敗する。
- ・なぜか男性より女性の賃金が低いといった旧態依然としたルール、つまり因習を変えないと若い女性は帰ってこない。その辺りの認識がまだまだ低い。女性が生き生きと働ける環境という意味では、まず賃金を上げること。そして働きたい職種を作ること。子育て支援の地域間競争では小野市が先行している。経済的支援の手厚い自治体に人が集まるが、後追いで他の自治体も同じような手を打つので、結局横並びになってしまう。

<三木市>

(人口の動き)

- ・ 未婚率が高い。特に男性の未婚率が上がっており、35～39歳で41.1%と県平均32.2%に比べてかなり高い。原因は収入の低さと思われる。三木市の世帯収入を神戸市と比較すると、300～500万円の階層が本市29%に対し神戸23%、500～700万円の階層が本市16%に対し神戸12%。三木市は中小企業が中心で給料が安いということだろう。
- ・ 本市の合計特殊出生率は1.34（2015年）で県平均の1.48より低い。
- ・ 本市はニュータウンから進化した街。ベッドタウンとして神戸周辺の大企業のサラリーマン世帯が多く住み着いたが、その子世代が住んでくれない。
- ・ 手頃なマンションが少なく、隣の西区の方が賃貸物件の選択肢が多いので、若い世代がそちらに流れてしまう。若い世代が戻ってきても、いきなり一軒家とはならない。
- ・ 地方創生が始まる前から子育て施策には力を入れている。効果はあって、少しずつ人口が増えてはいるが、絶対数が少なく、目立った成果に結びついてはいえない。
- ・ 外国人は、すごい勢いで増えている。特にベトナム人が10年で708%増。彼らを3～5年しかいない人として扱うのではなくて、住民としてしっかり扱わないといけない。
- ・ 外国人にも住みやすいという評価を得ることができれば、口コミで人が集まるはず。3～5年で帰った後、彼らは広報役になるわけで、そこを重視する必要がある。
- ・ 転出先では、大阪が増えている。県内では南部のJR沿線に吸い寄せられている。北側から人が入って来て南側に出て行く。三田にも出て行く。吉川は日頃の買い物も含めて三田を向いている。三田に行けば阪神間、大阪にも近い。だから結婚すると、まずは三田に出て行く人が多い。南下の行き先は明石と神戸、特に西区。西神中央、名谷だ。
- ・ 働くのは神戸でも住むのは三木としていきたいが、今の神戸電鉄では難しい。テレワークがもっと普及すればチャンスはあると思うのだが。ただ、ものづくりの世界では、テレワークが進んでも働き方はそれほど変わらないようにも思う。
- ・ 外国人からはゴミの捨て方がわかりにくいといった声があるが、文化が違うので仕方ない。そうした問題を解決するために行政に何ができるのか考えていきたい。
- ・ 三木の主産業は金物だ。人手不足で、中小企業にも外国人が結構入ってきている。
- ・ 外国人の受け入れに関しては、定住にどうつなげていくかも課題。人口減少時代の生き残りを考えても、外国人との共生は避けて通れないテーマである。

(総合計画、創生戦略の状況)

- ・ 次期総計では「誇りを持って暮らせる三木」を将来像とし、分野横断の取組として市民との協働を掲げた。20～30年先を見据えると、行政だけではできないことがますます増える。住民、企業、団体など、チーム三木で取り組まないといけない。
- ・ 市役所内での分野横断の連携も大切。全庁的に職員が参加し、これまでのやり方では足りない部分を積み上げていく形を作りたい。
- ・ 総合計画を最上位計画とし、第二期創生戦略は、人口減少対策に特化したものにする。
- ・ 子育て環境に力を入れているが、第二期戦略では更にその部分を進化させたい。他市に追従するのではなく「子どもに教育を受けさせたい」街にしていく策を考えたい。

- ・「競争から共存へ」と舵を切る。少ないパイの取り合いはやめないといけない。子育て支援のような、お金がものすごくかかるが、どこも同じようなことをやっているのでやめられない、という施策をどうしていくか。
- ・市長の交代で大きく3つの見直しがあった。一つは、大型集客施設の誘致の断念。ゴミ処分場の民営化の見直し。スマート IC の見直し。ただ、スマート IC は効果を見極めてやるべきものならやろうという姿勢。

(今後の地域づくりの方向性)

- ・一つ目の軸が「教育」。学校の統廃合が避けて通れない。16 の小学校、8 つの中学校の統廃合をどうするか。廃校後の利活用をどうするか。学校教育の評判は居住地選択の大きな要素。小中9年間を一貫教育にして、各学校では特色化を進めたい。
- ・もう一つの軸は「防災」。安全安心に暮らせることがまず大事。企業などと協定を結び、足りない部分を補い合う。それと県の防災拠点がある強みをどう生かすか。
- ・人口は、何かやったらすぐ増えるという簡単なものではない。出生数を増やすことに絞るのではなく、人が動く要素を分析して総合的に地道に取り組んでいく。
- ・人が減っても暮らせる街という意味では、市役所自体も少ない人数で回せる体制にしないといけない。機械にできることは機械に任せて人間にしかできない仕事に特化する。
- ・本市の一大産業であるゴルフ場の利用者が減っている。外国人旅行者をゴルフ場に呼び込みたい。三木市だけでは無理なので、北播磨の市町と連携し、更には他府県との連携も考えていく必要がある。ともかく仕掛けていかないと人は来ない。
- ・ニュータウンは高齢化に苦しんでいる。高齢者に一人暮らし用の住宅に移ってもらい、相続する前に誰かに譲るといった域内循環の仕組みを作れないか。ニュータウンからの魅力的な住み替え先と合わせて考えている。
- ・情報公園都市の次の開発に期待している。IT 系の一角を整備し、テレワークと絡めていけないか。テレワークの人が三木市内に住むという流れを作れないか。
- ・山陽自動車道沿線の強みをもっと活かしたい。直結ルートを整備する必要がある。
- ・街のコンパクト化も図っていかないといけない。拠点化して公共交通でつないで、インフラをむやみに広げない。むしろ縮小する中で回っていく仕掛けをどう作るか。広げたものをいかにして縮めるか。「縮減」の新たなモデルを目指したい。
- ・ニュータウンでは、子ども世代が皆出て行って、親の世代が高齢化し空き家が増えている。それでも県内ではまだましな方ではないか。たぶん集合住宅が少ないせいだろう。
- ・高齢者には元気な方も多く、生産年齢人口を74歳まで伸ばすような考え方も大事だ。
- ・将来の懸念の一つが市民の所得水準の低さ。団塊ジュニア世代、就職氷河期世代が結婚して次の世代につながっていかないと8050問題に耐えられない。この世代のフォローをもっとしないとけない。引きこもりにももっとスポット当てないとけない。
- ・未婚率の高さは所得水準の低さや非正規雇用と関係している。40代非正規の人が増えているが、一所懸命仕事している人が多く、正規と非正規でそんなに違いがあるとは思えない。格差のような触れにくい問題にどう対処していくかも大きな課題だ。

<小野市>

(人口の動き)

- ・人口は微減傾向。平成12年に5万人を超えて以降、減り始めた。他市に先んじて子育て環境、教育環境の充実をやってきた。東北大学の川島先生に顧問になってもらい、脳科学の観点からの教育に取り組んだりもしているが、自然減が拡大している。
- ・転出入は、少し転出超過の状態だが、転出入ともに動きが少なくなっている。
- ・小野市は市街化区域がコンパクト。もともと市域が10km×10kmの100km²。都市計画がきつくなったせいもあって、物件がなかなか出ない。大きくても70~80戸のミニ開発が多く、出るとすぐに売れてしまう。値段が高く、小野で買うのも加古川で買うのも変わらないというのが不動産業者の意見。
- ・出生数はH7:485人→H29:357人と減少傾向だが、年少人口割合は県内トップ。出生率も1.5ある。子育て支援策は、疲弊するまでやり続ける。ソフト事業は1年経ったら当たり前になってしまうが、他もやり出している。一度始めたらやめられない。
- ・出入りとも加古川など近隣が多い。小規模な区画整理ばかりなので、動きとしては目立たないが、神鉄も加古川線もあり、南側に立地しているメリットが出ている。
- ・当市でもベトナム人が増加している。2019年6月で外国人871人中352人がベトナム人。次に多いブラジル、韓国、フィリピン、中国は横ばいか若干減少。
- ・古いアパートを企業が借りて、複数名で住ませている。一つの家をシェアハウスして8人くらいで住んでいるところもある。日本語も英語もできない人が多い。
- ・一つの事業所に集中してたくさんいるようだ。製造業の中小企業に入っている人も多いと聞く。地域コミュニティにどう溶け込ませたらよいか悩んでいる。ここまで一気に増えるときれいごとでは済まされない。
- ・ベトナム語のできる人がなかなかいないので、市役所ではポケットークを配備した。企業の採用担当と連携して、孤立させないことが大事だ。

(総合計画、創生戦略の状況)

- ・戦略の柱は、持続可能性。総計の年次を1年伸ばして戦略と同時改定する。総合ビジョンとして展望を示す形にしたい。目標管理の年単位制度を別に持っているの、住民のニーズに合わない3か年のローリングはやめにして、まずは展望を示したい。
- ・大事なことは、実現不可能な人口目標を掲げるのではなく、どう人口減少に備えていくかを議論すること。スマートシュリンクという言葉を意識している。
- ・若年層に未来人になってバックキャストで考えてもらうビジョンを作りたい。自治会のあり方をどう変えていくか、外国人をどう受け入れていくなど、現実をどういうふうに受け入れていくかにシフトしていかないといけない。

(地域の将来展望)

- ・「活力溢れる元気な小野」が目指す姿。その実現のための骨組みを作って体系化して総合戦略として提示する。前期5年、後期5年の戦略になる見込み。
- ・兵庫県は母数大きいから転出数も多くなる。阪神・淡路大震災という不運もあった。神戸市も政令市ワーストの転出数などと言われるが、神戸市の施策が悪いとは思わない。

福岡が今元気なのは、地の利。兵庫県の将来を悲観する必要はない。

- ・人口減少や産業の競争力は日本全体の話。日本の基幹産業「自動車」を代表するトヨタが、世界の企業の時価総額ランキングでどうなっているか。人口減少ばかり問題にしてもどうしようもない。もっと複合的に考えないといけない。
- ・日本の将来を考える上での一つのポイントは、研究費が海外と比べて圧倒的に少ないことや終身雇用の問題。要するにイノベーション生まれにくい風土である。安定化装置が効きすぎている。これをどうしていくかが大事な点だろう。
- ・小野の産業を担っているのは工業団地の企業群。新産業団地にも大いに期待している。
- ・ニッチ産業は強い。中小でも企業の本社機構を市内に持ってきてもらうことが大事。そうすると事務職も採用してもらえて、女性にとって魅力的な職場になる。
- ・外に出たいと思う若者を止める権利は我々にはない。何かあったときに帰って来られるようすることが大切。
- ・今本当に元気なのはJR沿線の自治体だ。JR神戸線沿線の地域は残っていく。
- ・北播磨だけでも広く、南北で感じが違う。小野や三木は職住近接で生きていく地域。交通アクセスの脆弱性を街づくりと一体化してどう補って、住みよい地域を作っていくかという課題。ベッドタウンほどではないが、一気に若返って一気に老いるという究極の弱点を抱える地域でもある。ともかく臨海部と同じ政策は取れないし、北の方と同じ対策も取れない。地域性に合わせて実利にかなう政策をどうチョイスしていくかを考えることが重要だ。
- ・高齢者の活躍も大事。元気な高齢者に地域の担い手になってもらわないといけない。子ども預かってもらうとか。グラウンドゴルフ場もオープンするので、それに絡めた取組も考えたい。今の高齢者の団塊世代は昔の高齢者と違うしお金もある。独特のこだわり、高度成長の自負があるので一筋縄ではいかない。あの人たちの力をうまく地域に生かしていくことが大事だ。予防医療にも取り組みたい。
- ・観光は弱い。臨海部からこちら側に入ってきてくれない。姫路城で止まってしまう。ゴルフツーリズム、医療ツーリズムという話はあるが、そういうツーリズムは、散々旅をした人の最後の選択肢だ。北播磨には観光拠点がないし、もともとの素材が弱いので、観光が産業として成り立たない。かといって何もしないわけではないが、観光の魅力を作っていくのには、年数がかかる。
- ・治安は良い。刑法犯がピークから7割減った。だが、若者が好む施設がない。子育て支援も充実している。それでも子どもは出て行く。
- ・人口減少の話ばかりしても暗くなるだけ。大事なことは人口が減っても元気な地域をつくること。多様性という兵庫県の強みを生かしてよいビジョンを作してほしい。

<加西市>

(人口の動き)

- ・長らく年 200 人以上の社会減が続いてきたが、それが 2016 年頃から鈍化し、2018 年には社会増に転じた。これは外国人の流入によるもの。ベトナム人の流入が増えている。
- ・外国人を除くと相変わらず転出超過の状態、転出先は加古川、姫路など播磨臨海部と神戸が多い。JR 沿線で働ける場所へ行く。加西市は製造業の町なので、女性の仕事が少ない。小野市に住んで加西で働く人は多い。加東市、福崎町には大学もある。
- ・20 代、30 代の女性が減少。小野市、加東市への転出が多い。結婚を機に出ていく人が多い。子どもを産み育てやすい環境を作って出生率を上げようとしているが、子どもを生む人が出て行って、結婚しない人が残っている状況なので、出生率は上がらない。
- ・加西は昼間人口が多い。昼夜間比率が今も上昇しているはず。市外に暮らし市内で働く人が多く、朝はよく渋滞する。外国人の増加もあるが、雇用者数が減っていない。
- ・外国人が 1,000 人を超えた。うち半分がベトナム人。北播磨全体に一定規模以上の事業所にはたいてい外国人が入っている。技術を学ぶと国へ帰る人たちで、住まいなどは企業が面倒を見ている。マンションの 1 室や空き家をシェアして生活する形が多い。
- ・ゴミ出しのルールがわかっていないといったことはあるが、目立ったトラブルはない。市民アンケートでも特に問題はなさそう。コンビニに行ったら、店員も客もベトナム人ということもあるが。
- ・家の近くにベトナム人が住み始めて、周辺の住民は気になっているが、彼らを雇用する派遣会社から、自治会には入れてくれるなという要望があり、ここ 5 年ぐらい自治会に入っていない状態。
- ・出生率が近隣市町より低い。出て行った女性が戻ってこない。未婚率も高い。35 歳までで男性 50%、女性 33%で県下ワーストクラス。近隣市町より段違いに高い。理由はよくわからないが、実家が居心地よく、結婚するインセンティブが働かないのではないかと。独身で自由な暮らしを謳歌している人が多い印象はある。出生率が下がるのは豊かな証拠でもある。しかし、将来の 8050 問題が心配だ。

(総合計画・創生戦略について)

- ・どこも同じだが、中心部に人が集まり、周辺の高齢化率が高く、空き家が増えている。
- ・産業振興計画を作って、産業団地の整備を進めている。進出予定企業の話では、それなりの雇用を予定していると聞くと聞くと、女性の雇用は難しそうだ。
- ・ものづくりに若い女性が関心を持つようにしないといけない。女性にとって魅力的な職場を作る必要があり、魅力的な職場であるように見せる方法も考えないといけない。
- ・市内の中堅企業の人材がほしいが、法学部を出たような学生は就職してくれない。加西より東の大学卒だと、加西には戻らない。皆、東の方に目が向いている。
- ・I ターンは少ない。新規就農には力を入れているが、入ってくる人の数は多くない。
- ・農業の大規模施設園芸のモデル団地があるが、雇用者数は 80 人くらい。あの場所はそれが精一杯だが、ハウス栽培をやりたい人が集まる地域にしていきたい。
- ・三洋電機の創業の地で、ものづくり精神が未だに根強い。そういう土台の上に、AI・IoT

や農業をどう組み合わせるか。今までの単なる延長線ではいけない。

- ・三洋電機に鍛えられた企業が多く、三洋から自立して自社ブランドを磨いた企業が市内に残っている。今大きな存在になっている伊東電機もその一つ。

(今後の方向性)

- ・市の中心部にある旧北条町役場の庁舎跡に、多文化共生拠点となるセンターと日本語学校を整備できないかと考えている。ベンチャーのスタートアップ支援施設を作るというアイデアもある。その通りにはホテルができて、周囲には空き家がたくさんある。アクセスもよいので、市の中心部として機能するエリアにしていきたい。
- ・加西のように都市でも田舎でもない地域を、県のビジョンでどう位置づけていくのか。やはり多自然地域の区分で、ゆったり暮らせる地域といった方向性になるのか。ヨーロッパなどでは、田舎でも豊かな暮らしが営まれていると思うが、そういう暮らしができるようにするために何をしていたらよいのだろうか。
- ・市単独での取組には限界があるが、今進めている定住自立圏や連携中枢都市の枠組みでは効果的な取組がしづらい。更なる合併をして大きな枠組みを作るしかないのだろうか。しかしそれでは、周辺が更に寂れるだけだろう。
- ・定住自立圏は細かい変更でも議決が必要。実務レベルの裁量の範囲が狭い。取り組むことを絞り込んで、一つひとつ実を上げていくべきだが、税務事務の共同化やゴミ処理一つとっても、それぞれの市町の考え方があって、なかなかまとまらない。

<加東市>

(外国人の状況)

- ・日本人は自然減・社会減だが、外国人が増えて人口が維持できている。外国人は昨年比300人増の1,650人。外国人増加率全国トップクラスと聞いている。うち1,149人がベトナム人。ベトナム人は真面目で器用。地域の評判もよい。ちゃんと挨拶をする。ゴミ出しなどの地域のルールを知らない時はある。
- ・工業団地で多く働いており、数は一つの会社が突出しているが、会社がきちんと指導している。場所によって違うゴミ出しの曜日など、会社では面倒を見切れない部分もあるので、その部分は市でも工夫をしていかないといけない。
- ・市役所に翻訳機を入れた。これで円滑にコミュニケーションできるようになった。ベトナム人は数人のグループで来庁して、うち1人ぐらいいはカタコトで日本語をしゃべる。
- ・ベトナム人からしたら定住ではない。どれだけその会社に在籍できるかが勝負。1年から3年経てば帰国し、入れ替わっていく。一時的であっても市民に変わりはないので、気持ちよく帰ってもらえるようにしないとけない。企業によっては居続けてほしいということで日本語教育をきちんとしていっているところもある。
- ・広報紙等の必要な情報を翻訳して提供しているが、翻訳できる人がなかなかいないし、費用がかかる。やしろ国際学習塾で日本語学校をしているが、教え手の確保が困難。ベトナム人と日本人がそれぞれカタコトの日本語とベトナム語と身振り手振りでやっている。県の国際交流課に在日コミュニティとのつなぎなど支援をお願いしている。
- ・彼らは車を持っておらず、歩いて生活できる環境でもないのに、自転車を使っている。警察と一緒に交通安全大会をして、自転車講習をしている。
- ・住むところはたくさんある。滝野社を中心に新しいアパートがどんどん建っている。都市計画の中で広めに市街化区域を設定したところに戸建て・アパートが建つのがここ20年の動きだが、周辺市町の人口減少が進む中で、今後は流れが変わるだろう。人口を維持するためには、加東市を面白い街にしていけないといけない。
- ・「どこにあるのか分からない」と言われるが、京阪神から車で1時間のアクセスである。遊びに来る人も住んでいる人も楽しい地域にするため、県のスポーツサイクルの事業や市でもフットパス自転車版を考えたい。

(人口の動き)

- ・滝野1万2千人、東条8千人、社2万人。中心的な市街地のない滝野の人口が一時期減ったが、住宅需要により今は回復。
- ・東条が少しずつ減っていて歯止めがきかない。東条は山田錦の生産地区だが、生産者の大半が60歳以上。山田錦を守るためにも東条の人口を減らしてはいけないが、農業では採算が合わない。そこで、新しい雇用の場として工業団地を整備したい。農業と兼業できるような雇用が生まれたら山田錦も守れるはずだ。
- ・各家の跡継ぎがない。空き家ばかりだ。商店も次々となくなっている。30年先のビジョンなら、その辺りをどうするかを考えないとけない。コンパクトシティとして住民を集めていくのか、自然体に任せるのか。

(今後の方向性)

- ・ 教育に力を入れる。子育て世帯を集めるなら教育だ。学力は全国平均並みと聞いているが、小中一貫校化して教育の魅力を高める。小中一貫校の成功事例を作り出したい。
※加東市の小中一貫校は、社中学校と同地域の5小学校で構成され、児童・生徒数は約1,200人。
現在の同中学校周辺での建設を計画している。2024年春の開校を目指す。
- ・ 社高校と小野高校のどちらを選ぶかという話もある。市としては、加東市で育った子は社高校に行ってほしい。ともかく教育が地方創生の一丁目一番地。力を入れている。
- ・ 健康政策にも力を入れている。農家の収入を増やすという狙いもあり、もち麦（大麦の一種）を食べて健康になろうという運動を行っている。社高校生活科学科の生徒たちがマルヤナギと一緒にもち麦の商品開発に取り組み、注目されている。県の加東農林振興事務所も力を入れており、大麦の生産を増やしていきたい。
- ・ 製造品出荷額が北播磨でトップだが、加西や小野とつながっているから、雇用の場は必ずしも市内でなくてもいい。将来的には工業団地の整備を考えていきたいが。
- ・ ホテルを誘致したい。ホテルがないので、お客さんが来ても姫路のホテルまで迎えにいかないといけない。加古川線を使ってくれとはとても言えない。
- ・ 市町ごとに目指す将来像が違うので、どうやって整合を取るかが難しい。東播磨と北播磨で一つのビジョンとなると、臨海部とこの辺りは全然違うので、いろんな絵を描かざるをえないだろう。
- ・ ビジョンで何を変えていくかを明確にしてほしい。一つ大事なのが広域公共交通をどう充実させていくか。通勤を便利にしたら、人は残るはず。
- ・ 加東市は中心がどこにあるのかはっきりしない。そこで県の社総合庁舎周辺にバスターミナルを整備し、中心にしていきたい。バス乗り場がバラバラなので、それらを一カ所に集めて、市内の東西南北、神戸・大阪・明石へ行ける結節点にしたい。

<多可町>

(人口の動き)

- ・平成30年は247人の転出超過。人口はビジョンと比べても非常に減っている。出生数も100人を下回る状況が続いている。学校の統廃合を前倒しで考えないといけない。
- ・転出先は西脇、加東が多い。皆、南へ出て行く。転入も西脇、加東からが多い。25%くらいが西脇、加東で、大きくなって帰ってくる人たちだ。一旦西脇に出て、アパート住まいの後、家を建てるために帰ってくる。ただ、同居を好まず、同じ敷地内に別住宅を建てるパターンが多い。町としても、そういう流れを後押しするため、1,000万円以上の建設費に30万円補助する近居支援をしている。
- ・男女とも20~29歳の転出者が多い。就職で帰ってくる人が減っている。女性が出て行くので、出産する人がいなくなって、出生率が下がっている。晩婚化も進んでいる。産み始めのスタートが遅くなっている。25~34歳の女性の有配偶率が県平均より低い。
- ・少子化対策の施策は、近隣市町と比べても劣っているわけではない。やれることは全部やっている。近隣市町より手厚いくらい。でも出て行ってしまふ。
- ・外国人が年々増えている。今300人弱くらい。製造業の現場に入ってきている。元学校施設が外国人の寄宿舎になっている。民間賃貸に入っている人もいる。皆、定住には至らない技能実習生だ。大体単身で来るから外国人の子どもはほとんどいない。
- ・国籍はベトナムが多い。中国は最近少なくなっている。ミャンマーも増えている。
- ・空き家に入ってくる外国人が、集落の税金である「支配割」を払ってくれない。区長も知らない間に入ってくるので、事前にそういう話ができない。

(総合計画、創生戦略の状況)

- ・第一期の目玉は、ラベンダーの6次産業化。第二期では子育て支援に重点化。医療費の無償化はもうやっているなので、小学校低学年の教育の充実を進めたい。
- ・教育には、人口を直接引っ張ってくる力がある。教育の魅力で若い世代を呼び込み、5年後の人口を確保するという戦略。2025年の人口目標は18,000人としている。
- ・町単独で小学校で低学年一クラスに先生を2人付ける。大学に行く子どもが多いので、出て行くのは仕方ないが、また帰ってきたくなる環境を作らないといけない。
- ・町内には小学校が5つ、中学校が3つ。中学は学年クラスが1つになってきている。小学校は八千代がもう統合済み。他の地区も統合を始めないといけない。
- ・Iターンは年間5件程度。飲食店などをする人じゃないと移住は難しいだろう。
- ・多可高校の学生を対象に企業紹介をする機会を年2回ほどやっている。企業の展示と、企業の現場へのバスツアー。それでも町内企業の人手不足は深刻だ。
- ・問題は交通が不便なこと。公共交通はバスしかないが維持が大変。ほとんどの人は車。高齢者でも免許を返納せずに乗れる限りは乗るとい人が多い。だから走りやすい道があることが重要。西脇などに通勤する人のためにも道路整備が必要。

(地域の将来展望)

- ・小規模集落が増えている。岩座神が頑張っているが、子どもがいない。一番若い人が60歳。若者は皆出て行ってしまった。

- ・ 小さな拠点の形成やコンパクト化も含めて地域の維持を考えていかないといけない。
- ・ 行政が全てはできない。地域の人が地域の通信作りなどをする。行政はそれを支援していくといったふうにしていかないといけない。
- ・ うちの場合、車が乗れなくなったら即デイサービスとなる。その中間がない。高齢者にできるだけ安全運転してもらうことに加えて、困っている人は元気な人に乗せていってもらおうとか、実費で乗り合いをしてもらうといったことをやっていかないといけない。
- ・ 70になっても働くのが普通になっている。シルバー人材センターなどを使って、一杯いっぱいまで働こうとする人が増えている。デイサービスの運転手などをパートタイムでやっている人が多い。
- ・ 退職して悠々自適という感じの人は、公務員退職者とか上層の雇用者だけ。それ以外は働いている。年を取っても働かないといけない人がますます増えるだろう。
- ・ 30年後の多可町は人口半減どころではない。1人、2人しかいない空き家だらけの村が出てくるだろう。
- ・ 賃金の低さが、若者が出ていく一番の理由。加東の工業団地に行けば賃金が上がるとなれば、ガソリン代を払ってでも、賃金が良い方へ行く。西脇工業の卒業生も、加古川などの大企業に取られてしまう。給料では勝負できない。
- ・ 多可には知名度のある企業がない。有名なブランドを扱っていても、下請けなので、契約の関係で名前を出せない会社が多い。
- ・ ラベンダーの次の展開で、クアオルト事業を考えている。クアオルトはドイツの言葉。簡単に言えば森林浴。町内外から来てもらってウォーキングしてもらって健康になってもらう。認知症予防をする。生命保険会社なども巻き込んでやっていきたい。
- ・ 八千代のエーデルささゆりを拠点にクアオルト事業を展開。新たに社団法人を立ち上げた。クアオルト事業の全国大会もやる予定。しっかり情報発信していきたい。
- ・ 「敬老の日」発祥の地であり、山田錦発祥の地であり、杉原紙も有名だが、町としての知名度は低い。とにかく知名度を上げないことには外から人が来てくれない。
- ・ 多可町出身の学生に聞くと、コンビニがなくて不便という。でも、こんなに良い自然がある、杉原紙などの資源もあるのに、そうしたものに子どもたちが誇りを持ってない。それが良いものだという価値を共有できていない。
- ・ ふるさと教育の副読本を配っているが、高校生になると考えが変わる。1回は外に出たいという子がほとんど。遊ぶところがない、商業施設もない、なので外に出たいと。
- ・ 土地利用のネックは、農地転用の許可がまず出ないこと。届出くらいの感覚でできるようにならないか。農振除外も規制緩和も時間がかかる。一筋縄ではいかない。そんなことをしているうちに、人が他へ行ってしまう。それで人口減少が更に進む。
- ・ クラインガルテンは始めてから20年経った。入居者数は少し減ったものの、まずまず。フロイデン八千代は町の施設だったが、20年経ったので、農地に戻すか継続かを議論し、地元で株式会社を立ち上げてもらって継続する方向。そこは空きがない。家賃が安い。相場が年50万円ほどのところ、八千代は年30万円ほどで済む。
- ・ ブライベンオオヤとブルーメンやまとは空きが10軒ほどある。フロイデン岩座神は、料金は高めだが、今のところ満室。立地条件が他とは違うが、こだわりを持つ人に人気。

<姫路市>

(人口の動き)

- ・社会増減は H30 : -436 人 (全国ワースト 9 位) から改善し、H31 : +109 人となった。
- ・自然減の拡大はやむを得ない。高齢化で死亡が増え、出生数は減り続けている。出生率は 1.55 と高く、5 年前から変わっていない。
- ・周辺から人を集めて大都市に送り出している。転出先の 1 位は神戸市。2 位が大阪市。3 位が東京。転入元は周辺市町が多い。周りから吸い取らないようにしたいのだが。
- ・10 代後半、20 代の転出が多い。市内に大学が 4 つしかなく、進学で出て行ってしまふ。
- ・東京・大阪の雇用が旺盛なので、若者の戻りが減っている。魅力的な仕事が多いのだろう。姫路の企業は四国や九州の大学から採っているが、全体に人出不足だ。
- ・社会増減の改善は、ほぼ外国人によるもの。韓国・朝鮮が多かったが、ベトナム人が増加中。市川沿いに集まっている。日本人は、男性はまだ戻ってくるが、30 代女性が出て行ってしまふ。子育てのためなのか、独身だから出て行くのか、よくわからない。
- ・独身男女を比較すると、姫路市は男性が女性より 6,000 人くらい多い。男が余っている街だ。神戸は女性の方が多。神戸方面に女性が吸い取られているとも言える。
- ・女性にとって魅力的な職場が少ない。姫路はものづくりの街。工場はあるが、本社機能が弱い。サービス産業も大阪や神戸に比べて弱い。産業構造を変えるのは難しいので、本社機能の誘致を進める。女性の QOL 向上のため、子育て支援にも力を入れる。
- ・臨海部で工場の増設が続いているが、工場ができて独身男性しか来ない。工場立地施策が一昔前のままになっている。女性の働き場を作らないといけない。
- ・市内では北部が減り、南部が増加。新駅や区画整理によるマンション開発などの影響。ただ、北部から直接南部の駅近に行くのではなく、親の面倒を見る必要があるといったことで、ちょっとずつ移動している。神河から福崎へ、福崎から香寺へ、香寺から市の中心部へ、その次は明石へ。その次は神戸・大阪へと、世代が代わるごとに移動する感じだ。全体の人口減少はあるが、問題は市域内の人口偏在だ。

(総合計画、創生戦略の方向性)

- ・大きな課題は、若者の流出、年齢の偏在、地域の人口偏在の 3 点。
- ・観光客が伸びて賑わっているが、出生率などは改善していない。課題は若者、特に女性に姫路の魅力を伝えること。質の高い生活ができると PR しないとけない。
- ・「ハイスクールアクションプロジェクト」として高校生が企業訪問し、魅力を DVD にして伝えたり、グループワークで企業の魅力を伝えたりする取組をしている。姫路の場合は大学生では遅く、高校生の段階で地域の魅力を PR することに力を入れている。
- ・人口の取り合いはしたくない。播磨内の他の市町が倒れて姫路だけが建つことは有り得ない。それは砂上の楼閣だ。播磨あつての姫路であり、同様に姫路の活性化は兵庫・関西の活性化につながる。そういう思いで連携中枢都市圏に取り組んでいる。
- ・地域コミュニティの再生・維持が地域の活性化だ。人口が偏在しているからといって、人口を増やす必要があるわけではない。大事なものは、地域コミュニティの維持だ。
- ・コミュニティの単位は、いろいろ試したが、やはり小学校区単位が圧倒的にいい。

- ・北部の夢前・安富では農業や自然を活かして活性化しようという方向性。塩田温泉があったり、安富では案山子の集落が有名で、人口より案山子の方が多かったりする。
- ・地域交通が重要。試験的にコミュニティバスも始めた。夢前ではデマンドタクシーの本格稼働に向けて準備中。国交省が提唱するコンパクトプラスネットワークの考え方で、地域コミュニティの維持と交通環境、特にラストワンマイルの確保に取り組む。
- ・人口対策の都市間競争に陥らないようにしないといけない。姫路は播磨全体で一緒に頑張ろうというスタンス。姫路一人勝ちにならないようにする。東京という1位はそのままで、2位3位など下位同士で潰し合っても仕方がない。
- ・姫路は播磨の人口のダムだ。人口をステイさせ、トリクルダウンさせる。しかし現状は東京に送るポンプになってしまっている。きちんと機能を果たさないといけない。
- ・姫路の人的・経済的パワーを高めて、そのパワーを周辺に波及させていく、活かしていくことが次期戦略の課題。姫路駅前が良くなっただけで終わってはいけない。
- ・総計は2030年までだが、審議会委員からは10年先を見通せるのかと言われている。実施計画で常に見直していく。先の見通しはなかなか難しい。特に技術関係は分からない。

(地域の将来像)

- ・創生戦略を総合計画にビルトインし、総計と戦略を一体化する。人口推計では2030年に51.8万人だが、既に53万人になっている。人口推計はあくまで最低ラインの数字。
- ・昼夜間人口比率が下がり続けている。大学進学時点の流出が増えていて、市外の大学に行く人が増えている。市内の大学の定員が減っている。交通が便利になって新幹線通勤も増えているようだ。新快速も快適に大阪まで通勤できるようになった。
- ・空き家比率は全国より高い。直近だと15%、全国平均は13.6%。空き家があっても、仏壇があるから売らない。仏壇が空き家活用の本当の引っかかりになっている。
- ・地方は若い世代が将来の自分の姿を描きにくい。夢が持てない。夢を持とうとすると都市部を目指す。その辺りをどう改善すればよいのか。模索しているが、難しい。
- ・姫路にしか住んでいないと、姫路には何もないとなる。若い人が夢を見られる街にしないといけない。それが経済なのか、家庭なのか分からないが、そういう街にしたい。
- ・自治体の計画は内向きのものが多いが、わが街のことばかり言っても仕方が無い。姫路のまちづくりが日本や兵庫の中でどういう役割を持つのかを考えて作っていききたい。
- ・若者が高校生の頃から起業家マインドに触れる事業をやりたい。ロールモデルとなるメンターとの出会いが大事。でも東京などに連れて行かれてしまうだけでは困る。
- ・保守的なシニア層が若者を潰すという話もよくある。若い人が何かをしようとする、まず地域の高齢者との軋轢が起こる。最終的な落としどころとしては、SNSでの情報発信の仕方など若い人のノウハウを高齢者が「教えてくれ」となるとうまくいく。
- ・若者には自治会がミステリアスなものに映っている。外国人にもそうだろう。地域の側も変わらないといけない。女性が役に当たるとき、介護だと役が免除されるが、仕事だと免除されない。未だにそういう状況。現状は働きながら暮らしやすい街になっていない。既存のコミュニティの力が強すぎる。ニューコミュニティ系の団体が必要だ。
- ・職員が自分の仕事にプライドを持てるようにすることがとても重要。そのための総合計画にしていけないといけない。

<市川町>

(人口の動き)

- ・近年自然減、社会減が続いている。転入は半数が姫路から、次いで福崎からが多い。人口が南下している印象はある。転出は20代がダントツに多い。全体の6割を占める。
- ・転入者は3歳～就学するまでの子どもを抱えた世帯が多い。家を建てるタイミングとか子どもが生まれたタイミングとかで帰ってくるのではないか。
- ・外国人も多い。現在140名ほどいるが、年度当初から比べても15人ほど増えている。製造業の技能実習生でベトナム・中国籍が多い。数年前は100人ちょっとだったのだが。
- ・事業所に聞くと、日本人を募集しても応募がなく、海外に人材を求めざるを得ないという状況。外国人はバラバラに住んでいる。企業がハイツなどを借りている。
- ・町内の人口移動は、ハイツから新築の家に移るというのはある。
- ・仕事も買い物も福崎に行く。事業所も福崎が多い。姫路への通勤者も多い。播但線でも30分あれば行けるので。車で行く人も多い。全体的に人口は南へ向かう流れだ。朝は多少渋滞するが、夕方はばらついている。

(総合計画、創生戦略の方向性)

- ・総合計画は10年計画の4年目。来年度に後期分の見直しをする。
- ・市川町の将来像は、高齢者を大事にする地域。若者ばかりにフォーカスせず、高齢者の知恵や経験、伝統などを次世代に継承し、若者がそれを守っていくという関係を大事にする。地域の絆を大切にす。
- ・総合戦略はバランス型だ。高齢者向けもあるし若者向けもある。教育も仕事も農業もある。全体的に市川町を元気に、という方向性だ。
- ・鶴居地区では、地域活性化協議会で高齢者が集まって地区を盛り上げていこうとしている。鶴の恩返しの元になった場所があるとか、良質な土でおいしい農作物ができるとか、JA跡地を改修してカフェを開いたり、マーケットをしたりしている。鶴居はお店が無い地区なので助かっている。
- ・買い物に特化した買い物バスを、村の中にも入っていける10人乗りの車両で、週4日走らせている。エリアを分けているので、住民から見ると週2回だが。このバスに加えて、コミュニティバスを週4回、これもエリアを分けているので住民から見ると週2回、走らせている。コミュニティバスの終点は病院にしている。
- ・福崎へ買い物に行けるように、市川と福崎を結ぶバスも運行している。福崎も市川もバスは単独で走っているが、時刻を合わせて、コミュニティバスを中間で乗り換えられるようにした。これを「連携コミバス」と呼んでいる。全国的にも珍しい。利用者は、市川から福崎へは結構いるのだが、福崎から市川へは、ほとんどいない。
- ・次期戦略では高齢者関係を強化する。ゴルフのプログラムで認知症に効くものがあるので、それを取り入れる。町内に2つあるゴルフ場を活かす。
- ・ゴルフの関係では、子どもたちの地域の誇り醸成事業として、クラブ活動でゴルフ体験をするほか、ゴルフクラブ製造工場の見学をしている。今年度は、ゴルフ発祥の地の絵本を作成した。

- ・ゴルフの情報発信拠点もつくる。今まではそういう場所がなかった。市川産のアイアンを実際に打てる場所と合わせて、市川の特産品を紹介できるような施設にしたい。
- ・甘地駅周辺の環境整備を進めている。去年は基本構想を作った。今年度と来年度で基本計画を作成予定。去年は団体や利用者の意見を聞いたが、駅のトイレが非常に利用しづらいという声が多かった。鶴居駅のトイレは前倒しで来年度新設する。甘地駅は2年後に下水が通り次第整備する。県の土木事務所と一緒に検討しているところだ。
- ・播但線は福崎までは結構本数がある。それを甘地や鶴居に延ばして欲しいと要望しているが、実現できてない。そこで姫路から福崎行きの電車に乗っても、甘地や鶴居に帰れるバスを社会実験中。福崎駅でバスが待機して、市川へ帰れるようにしている。利用者は平均2人くらいで、22時30分頃に出る。学生が塾帰りに利用しており、姫路発が22時発として、その時間帯の福崎行きに乗っても市川へ帰れるようにしている。
- ・町外に通勤している人に市川に住み続けてもらうため、若者遠距離通勤者助成事業をしている。ただ財政的に厳しく、今のところ、50 km以上遠方でないと対象にしていない。年齢も30歳以下。明石なら50キロ以上離れているが、加古川・姫路は対象外だ。姫路を入れると対象が多すぎて財政が持たない。神戸に通勤している人もいる。
- ・勢賀（せか）地区では農業が盛んだ。オーガニックに力を入れており、地域おこし協力隊も入って六次産業化を進めている。移住者もIターンが多い。しかし貸せるような空き家が無い。Iターンの人たちは気に入ってくれており、勢賀に住みたいと言う。勢賀の中でも笠形は人気だがここも空き家がない。
- ・農業に力が入っているが、できれば工場誘致をしたい。用地の問い合わせがしょっちゅうあるが、誘致できるだけの規模の土地がない。もったいない話だ。
- ・Iターンが年10件以上ある。空き家バンク経由の人が多く、計30数名入ってくる。

(地域の将来展望)

- ・人口は20年後には6,000人台になる見込み。住みたくないと思われたら減少はさらに加速する。住みやすい町になることが大事だ。利便性はそれほど必要ではないと思う。
- ・役所も、人口は減るのに職員の仕事は減らないという状況を変えないといけなない。AIやロボットを活用して定型業務は減らし、人間は住民とのコミュニケーションや提案業務に特化するといったことが必要だ。
- ・住民は買い物も遊びも、それほど困っていないと思う。みんな不便と言うが、実際はそれほど不便な地域ではない。便利さを追求するよりも、大事なのは、子どもが誇りを持つ地域にすることだ。高齢者の話を聞いて困りごとに対応したり、子育て環境を着実に整備したりしていくことがやはり大切だ。
- ・そうは言っても、大きなスーパーが来てくれたら、と思ったりもする。
- ・子どもたちには、ふるさとを大切にしてもらいたい。それで、ふるさと学習にも結構力を入れている。教育委員会で副読本を作って活用している。
- ・稲わらで作った干支の像が有名になっている十柱神社の住民グループのように、地域づくりのキーとなる人たちを応援していくことも大事だ。

<福崎町>

(人口の動き)

- 2060年の福崎町の人口は人口ビジョンでは14,612人で、これを16,342人へ+1.7千人するのが目標。町人口の動向としては、自然減がかなり多く、出生数が減っている。
- 社会増減は、転入が上回っている。H29は転出が多かったが、概ね均衡を保っている。理由は住宅開発と外国人の増加。ベトナム人など東南アジア系が増えてきている。技能実習生である。自然減を住宅供給と外国人でカバーしている状態だ。
- H17国勢調査で町人口が2万人を超えた。これは学生の影響。姫路学院女子短期大学が2000年に近畿医療福祉大学(2013年に神戸医療福祉大学に改名)となり、学生数が増加。今も大学はあるが、学生数は半分以下になっている。最近少し増えているようだが。
- 外国人数は5年前が340人。その後増え始めH28:400人超え、H29:450人、H30:558人、令和2年1月末:576人という状況。
- 市街化区域内農地が多く、ミニ開発が続いている。すぐに売れるので、今後も開発は続くだろう。交通の便がよいことと、今やどこでも同じだが、子育て支援で小学3年生までの医療費無料に加えて、高校生までの入院費無料もやっている。子育て支援策は充実している方だと思う。交流人口も増えている。
- 転入者は、加西、市川、姫路からが多い。姫路といっても旧夢前・香寺から入ってくる人だろう。大きく北側から入ってくる傾向がある。転出先は神戸と姫路の都市部。県外からの転入は大阪からが多く、転出先も同じ傾向がある。出ていく年齢層は大学生、若い人。大学を卒業して町外、県外で就職する。
- 転入者は住宅を買うファミリー層がメインで、あとは大学生。ファミリー世帯の勤務先は姫路方面と町内。3か所の工業団地で約4,500人が働いている。うち8割は町外からの通勤者。うち半分が姫路から。朝は工業団地周辺の道路の渋滞がすごい。
- 外国人は工業団地の大きい企業で働いている。雇用は数社に固まっている。1社に100人はいるだろう。外国人は企業が持っている寮に住んでいる。寮は高岡地区などに多い。特定エリアに集住しているが、住民からの苦情はなく、困っていることは特にない。
- 住宅開発は事業者次第だが、市街区域内にまだ田んぼがたくさんあるので、当分続くのではないかと。ミニ開発で平均20軒くらいの分譲ではあるが、まだ人口は増えるだろう。

(総合計画、創生戦略について)

- 総計の後期計画の見直しを行い、現在、次期戦略の作成を進めているが、人口ビジョンでも戦略でもあまり背伸びをしないというのが当町のスタンス。無理な目標値は設定しない。例えば、合計特殊出生率は現在1.6で、目標は1.8なので、実現性は低い。
- JR福崎駅前整備をH26から5年計画で実施した。これが第1期戦略の目玉で、ひとまず終わったところ。今後はソフト的な施策がメインになっていく。今後の大きな課題は、公共施設の更新と長寿命化。修繕費が年々増えて財政を圧迫している。新しいことをやるより、メンテナンスをきちんとやる方に資源を回さざるを得ない。
- 3つある工業団地のうち1つで拡張事業を進めている。来年度から造成工事に入る。わずか5haの拡張だが、それなりに資金を投じている。さらに整備すれば埋まるのかもしれない。

れないが、今のところこれ以上の整備は考えていない。

- ・子育て支援に終わりはない。学童保育が手一杯なので、それをどう拡充するか。働く母親への支援を充実させる必要がある。来年度は病児保育をやる。出生を増やすためにはまず結婚・出会いが大事になる。それをどうしていくかが課題。
- ・妖怪コンテンツ（河童）で観光客が増えている。H25まで20万人台だったが、河童の設置から増加が始まり、昨年度は40万人を超えた。妖怪コンテンツは、一過性のものにせず、取組を続けていこうということでやっている。
- ・河童のある辻川山公園内の「もちむぎのやかた」の利益が急増している。町内の店舗に妖怪ベンチを設置する取組も進めているが、ベンチを置いた店舗の利益が平均1.2倍くらいに上がっている。お客さんが来たら写真を撮るだけでなく買い物をしていくので。SNSでよく拡散されるし、うちも置いてくれという声が多く、続けていく予定。
- ・このブームはいつまでも続かない。次にどうするかも考えないといけない。
- ・福崎町は背伸びした施策はやらない。全体を調和させたやり方をされていて、何かに特化した施策はやってない。あえて課題を挙げるなら財政が弱いこと。大きな事業をやろうとしても、財政がついていかない。
- ・空き家が、市街化調整区域だけでなく、市街化区域でも増えている。空き家バンクを一応やっているが、実績は年数件。移住・定住にはあまり力を入れていない。
- ・福崎町は移住・定住を増やそうと補助金を出すようなことはしない。長続きしないし、そもそもお金が出るから移り住む人などいない。移住する人は、その町の魅力に惹かれて行くのだから、お金の問題ではないはず。なので、そういう無駄な施策はしない。10万円補助してくれるから、引っ越すかと自分自身に問うてみたらわかること。
- ・農業の課題は、営農組織の高齢化。広域化を考えないといけない。
- ・健康食として注目を集めている「もち麦」の栽培が高齢化で後継者不足となっている。収量を減らすわけにはいかないのだから、面積は少ないがたくさん収穫できるように県の支援を受けながら工夫している。もち麦は根強い人気がある。新しい「フクミファイバー」という品種ができたので、これで6次産業化をやっていきたい。
- ・農業の問題は、補助金だけで、農家が補助金漬けになっていること。そこから卒業して自立する道を探らないと未来がない。福崎では「フクミファイバー」の6次産業化を自立の手段にしていきたい。補助金がないからできないではなく、自分たちで自立する手立てを考えないといけない。

(地域の将来展望)

- ・人口は減っていくだろう。しかし、いつまで人口の話をしているのか。そういう発想自体を変えないといけない。大体それは国が考えることなのに、地方に人口を取り合う施策ばかりやらせている。こんなことに何の意味があるのか。地域間で競わせて、勝ち組の街に人が集まるという競争の先に何があるのか。
- ・一つの自治体の人口が増えると、周りの自治体の人口が減る。給食費無料といった看板で人を集めるようなやり方は長続きしない。そういうところから変わらないといけない。

<神河町>

(人口の動き)

- ・転出超過が止まらない。2013年に出生数が40人台まで減ったので、住宅施策を精力的に行い、出生数を70人台に回復させたが、また下がっている。20代・30代の女性が増えない。大学に行くと帰ってこない。
- ・転出先は姫路、朝来が多い。要因は転勤、就職、結婚。転入元は市川、加古川が多い。加古川は一時的なものだろう。市川は一時期アパートがたくさん建って人が流れたが、家賃補助を始めると神河に帰ってきてくれた。
- ・住宅補助で新婚世帯などをつなぎとめている状況。谷の方は人口が減少しており、利便性の高い町中に人が集まっている。新興分譲地は15年ほどかけて埋まった。
- ・外国人は合併時(2006年)38人が現在は64人と倍になっている。町内企業が人材募集しても集まらないので、海外の労働力を求めている。フィリピンとカンボジアの都市と姉妹提携を結ぼうとしている。労働者だけでなく、物産も含めて提携する予定。外国人就業環境を整備しないといけない。インバウンドの受入環境整備も進めている。
- ・食品製造や輸送の会社に外国人が入っている。フィリピンから介護労働者も入ってくる予定。募集しても人材が集まらないので、各事業所で動いて技能実習生を入れている。
- ・外国人の住まいは民間賃貸と空き家。空き家は企業が買い取って住居にしている。
- ・空き家バンクは着々と進めている。成約件数は年平均12件ほど。8割はIターンだ。毎年30人から40人ほどが移住してくる。長谷地域にコワーキングスペースができて、若い子が入って仕事をしている。そういう若い子の何人かが移住してきている。
- ・長谷地区では、町が空き家を所有者から10年間借り上げて貸し出す事業を始めて3件成約した。家賃をもらってオーナーに払う。中間組織を入れずに町が直営でやっている。借り上げて改修するには800万円ほど資金がいる。耐震補強で大分お金がかかる。
- ・空き家お片づけ事業もやっている。片付けに20万円補助する。町内の指定業者の利用を前提にしており、指定業者なら廃棄にもある程度融通が利く仕組みにしている。効果が出ていて、朝来市が真似している。UJIターン向けの引っ越し補助もしている。
- ・各区長に空き家の照会をしていたが、データ整備ができてきたので、今はコーディネーターを入れて空き家を紹介している。田舎は仏壇が多いのが悩みだ。お墓もあるし、盆・暮れの利用で手放せない人が多い。

(総合計画、創生戦略の方向性)

- ・次期戦略は、まだ試案だが、①豊かな自然を活かした仕事創出、②交流から定住、③出生・子育て支援、④安心な地域、が方向性。
- ・創業支援が効果を出している。企業誘致も進めているが、仮に大企業が来ても地元雇用に必ずしも結びつかない時代だ。サテライトオフィスやテレワーク人材の誘致に力を入れる。起業者を呼び込み、その人が、他の人を呼び寄せるような展開を期待している。
- ・森林環境税を活用して、間伐などの仕事を増やしたい。新規就業者100人を目指す。
- ・関係人口を増やす施策も進めたいが、やることは基本的に変わらない。
- ・病児保育も福崎・市川と合同で始める。子どもを預けて仕事ができる環境を整える。

- ・シングルマザーの移住支援もしている。保育所では0歳児なら3人に1人は保育士が必要だが、保育士の確保が難しい。保育所が無いと移住もできない。ファミリーサポートのように、子どもを預かる人を派遣するようなことができないかと考えている。
- ・人口が5,000人になっても、なんとか維持できるようにしないとイケない。長谷、越知谷、寺前、大山、栗賀という5つの旧村単位に拠点を作って、その単位で課題解決する仕組みを考えている。朝来市が合併時に作ったような地域協議会が現在ない。
- ・この3月に小学校が統合して3校になる。中学は1校。高校は県立神崎高校のみ。神崎高校で日本遺産をテーマに高校生フォーラムをやったが、前向きに取り組んでくれた。
- ・長谷地区で、自治会が中心になって、木曜日に買い物移動支援の車両を動かしている。来年度からは、実験的にデマンド交通を入れようと考えている。コミュニティバスを運営しているが、デマンド交通でカバーしていく方向にしていきたい。
- ・コミュニティバスは神姫バスの路線を引き継いで、通学・通勤も取り込んだので採算は悪くないが、高齢者には不便な部分もあるので、もう少しきめ細かい対応をしたい。
- ・デマンド交通で出かけやすい環境を作り、高齢者に外に出てコミュニティと関わらましようという方向に持っていくのがねらい。
- ・病院にコミュニティバスが集まるようにして、その周辺にスーパーも集まっている。町内にスーパーは6軒ある。1万人ちょっとの町にはあるほうだ。長谷地域には地域が運営するスーパーもある。コープの戸配にも助けられている。

(地域の将来展望)

- ・地域ごとに拠点化を進める必要がある。40集落すべてを守っていくのは無理だ。集中するしかない。大きく4つの谷があり、インフラの維持に金がかかる。上下水も老朽化していて、更新が必要。すべてを維持し続けるのは難しい。
- ・人口減少に伴い町の財政規模が小さくなっていくので、公共施設の整理が必要だ。不採算な部分から順次やめていかないとイケない。何もしなければ共倒れになってしまう。
- ・住民の地元愛が強い。地元が寂れることを許さない。どこかに集中投資するといっても合意形成に時間がかかるだろう。かといって全部維持していくのは難しい。
- ・地区の役員の選出が難しい地域が増えている。ギリギリまで来ている地区もある。隣の地区と一緒に新しい協同体を作るといった発想が必要になってきている。
- ・ぽつんと山奥に一軒家という集落も徐々に出てくるだろう。奥地でも、家があったら、水道は引いておかないとイケない。
- ・下水は浄化槽でいいとして、上水をどうするのが問題。山水でいいならそれでいいのだが。未だに井戸水を使っているところもある。水の問題を技術でクリアできたら、そうした一軒家も維持していけるかもしれない。
- ・東京に人口が集中する一方で、田舎に住みたいという人も必ずいる。一人乗りドローンが出てきたりしたら、分散居住が現実的な選択肢になるのかもしれない。
- ・せっかくスキー場を作ったが、これだけ暖かいとどうしようもない。入込は例年の4割弱だ。人口降雪機でなんとか真ん中を滑れるようにして営業している。
- ・宿泊を増やせたらいいのだが。京阪神からは日帰り圏内だから難しい。

<相生市>

(人口の動き)

- ・転出超過傾向だが、H25：+8人、H27：+92人、H28：+33人など転入超過の年もある。外国人の流入の影響だ。転出は20代、30代が多く、40代になると若干ましになる。
- ・転出入ともに県内が多い。H30：転出995人、うち県内558人。転入764人、うち県内388人。県内で食い合っている。転出先は姫路、龍野、赤穂、太子が多い。姫路に対しては転出超過で、転出が転入の倍くらい。家が安いので上郡へ行く人も割という。
- ・近隣市町で人口を取り合っているとも言えるが、お互い様だろう。どこも40歳未満をメインに子育て施策をやっている。来る人も出ていく人もその年代が多い。
- ・市内での移動は、中心市街地である二葉小学校区が比較的新しい地区なのでそこへの転居が多い。農村部は増えない。以前から傾向は大きく変わっていない。
- ・市街地への転入は、新しい人たちが集まっているところに集まってくる傾向がある。駅から東側の地区で、10区画程度の小規模な住宅供給がある地域。大規模な宅地開発はなくて、小規模な分譲地ばかりだが、土地がなくなってきた、頭打ち感が出てきた。
- ・市街地の旧社宅の長屋の多くが空き家になっている。子どもが市外に出て行っている。道がなくて車が入らず、建て替えができない家が多い。区画整理は財政的に無理。駅前と那波で区画整理をしたが、まだ家が張り付いていない状況で、他に手を出せない。
- ・外国人は近年5～6%の伸び。人口比で1.2%から1.77%に上昇。大半が技能実習生だ。10～20人規模の事業所でも増えている。進学、就職、結婚で出ていく住民がいて、就職で入ってくる外国人がいる。結婚や就職で帰ってくる人もいる。変動の要因は、マイナスの時もプラスの時も同じで、年によって多い時、少ない時がある。
- ・外国人は昨年末で560人。毎年20人から30人増えていて、街中で目立つようになってきた。自転車で移動するので、よく目につく。昔とは明らかに国籍が違う。今までは韓国、中国だったが、ベトナム、ミャンマーなどになっている。
- ・市内のコーポ、アパートなどの賃貸物件を会社が借り上げて外国人に提供している。空き家を活用してくれたら一石二鳥なのだが。
- ・就業先はあちこちの事業所に入っている。出入りが割とあって、国籍も変わる。
- ・外国人が目につくようになって、逆に違和感がなくなった。貴重な人口なので、地域に溶け込んでいただくようしないといけない。2～3年の短期で、就業メインとはいえ。

(総合計画・創生戦略の状況)

- ・次期総合計画を来年度策定予定。次期戦略は総計に合わせて1年延ばす。現行総計はH23からのもの。子育て・教育施策に重点化して8年ほど取り組んでいる。
- ・現行総計でやってきた特徴的な施策は例えば、幼小中の給食無料化。
- ・子供が減るとその先も減ってくる。だから教育、子育てが一番のメインだ。教育・子育てが手厚い市という評価が浸透してきたのではないか。出生数200をキープしたい。
- ・造船で成り立っていた街であり、観光資源として確固たるものはないが、地方創生の交付金で駅前に案内所を作ったので、そこを拠点にルートづくりと観光資源の掘り起こしを進めている。観光にあまり取り組んでこなかったのが、苦勞しているが。

- ・ IHI の関連会社が多く、今でも製造業が中心。厳しいながらもやっているという状況。工場誘致できる土地がないが、造成してまで誘致するという発想はない。働く場所は広域で考えて、市内に住んでもらうという方向性で考えている。
- ・ 教育では、幼稚園のうちから英語に慣れてもらおうと外国人講師を雇って生の英語に触れてもらう機会を作っている。
- ・ 幼小中は、中学3、小学校7、公立幼稚園6、認定こども園・保育所7。10年前に統合再編を行った。500人の小学校から30人の小学校までである。
- ・ 小規模な学校もあるが、当分維持していく予定。1クラス30人の中学校があるが、離れていて統合しにくい。いずれはどうか考えざるを得ないがすぐには無理。学校には地域性あって、地域なりの考えがある。住民が納得しないと再編は進められない。

(地域の将来展望)

- ・ 人口減少は避けられないが、少しでも緩やかにしたい。2060年2万人で止めたい。
- ・ 現在の出生率は1.48。出生率を伸ばす対策として、3人目に3年間10万円ずつ渡す取組をしている。3人目以降だけ対象。第1子、第2子は1万円だけ。
- ・ 市内に産科がない。赤穂か姫路にいかないといけない。上郡、龍野、太子にも産科がない。何とかしてほしいと、ずっと県に要望している。市ではどうにもできない。
- ・ 新幹線の駅がある市街地の再整備を進めようと駅前に投資した結果、財政が厳しくなった。土地がなくて大規模工場が誘致できない。「住む街」という方向に舵を切っている。
- ・ 商店街はどうかしたいが、店舗自体に住んでいるので、貸店舗にもならない。
- ・ 市に大型の事業をする余裕がない。むしろ公共施設、道路・橋の更新が問題だ。まずそこをきちんとやらないと、呼び込むこと自体できない。
- ・ 夢を描きたいのは山々だが、現実がある。まずはそちらの対応をやらないといけない。定住の決め手は、街並み、街の環境であり、そこに手を入れたのが本音だが、実際には手が回らない。この10年くらいは我慢の時ではないかと思っている。
- ・ インフラの更新が一番の課題。道路、橋に加え、箱物の更新時期も来る。どうするかが次期総計の大きなテーマだ。大きいことはできないが、小さいことを着実に進める。
- ・ 観光は姫路プラスワンで頑張りたい。刀鍛冶がいるので、それを結び付けるなど。
- ・ 海を活用したらどうかとよく言われるが、湾だけが相生で外は赤穂市。公共ふ頭があって、昔、定期船を走らせていたこともあるが、長続きしなかった。
- ・ 免許返納した人から、バスがなくなっているのだからどうかしてくれと言われている。現状は、神姫バスに補助して路線を維持している。利用者の多いテクノ線があるおかげで他の路線が維持できている。コミュニティバスは1台1千万円かかるので、やっていない。1950年代くらいから開発されたニュータウンがあって、そこにバスを入れてくれと言われるが、市内のバスでもほとんど人が乗っていない状況で、それはできない。
- ・ 北部の方は店がないのでコープが移動販売をしている。若狭の方に1軒スーパーが残っている。矢野にはないが、車があれば10~15分で出てこられる。

<赤穂市>

(人口の動き)

- ・年 200～300 人ほど転出超過が続いている。転出入者アンケートでは、転出入の理由は仕事という回答が一番多かった。転出先は姫路、神戸が多く、転入元は姫路が多い。
- ・若者は進学、就職したら帰ってこない。親も帰ってこなくてよいと言う。「自分の息子は地元に残らず、外に出て行けるような人間になってほしい」といった声を聞く。市からは、いずれは帰ってくるように子どもに言ってほしいとお願いはしているが。
- ・市内の大学は学生の確保で一所懸命だが、学生数は 1,200 名弱で減少傾向。赤穂市はアルバイト先がないので、姫路でアパートを借りて通学している学生がかなりいる。
- ・大学生にアンケートをすると、みんな「若者向けの遊ぶ場所がない」「スタバがない」「アルバイト先がない」といった回答。高校生と同じ意見だ。
- ・赤穂市、上郡町と岡山県備前市の 3 市町で「東備西播定住自立圏」を形成している。かといって備前市との間で人の出入りが多いわけではない。H26 で備前市から 35 人転入、22 人転出。どちらの市にも工場がある会社があって、人の行き来がある。
- ・岡山から市内のイオンに買い物に来る人は、最近は少なくなっている気がする。
- ・外国人は大体 350 人ほど。多いのは韓国・朝鮮、中国。大きな増減はない。赤穂市は比較的外国人が少ない。大学はあるが、留学生も少ない。

(総合計画、創生戦略の方向性)

- ・交通の便が良くないという声が多い。JR は 1 時間に 2 本。この本数が増えたらと思うのだが。買い物も不便だという声もある。
- ・一方で住みやすいという意見もある。自然が豊かで、買い物も便利だと。昼間人口は上郡町に比べても少ない。赤穂は働きに来る街ではなくなっている。工場跡地も地盤改良が必要なので、企業も二の足を踏む。企業立地の話がまとまらない。
- ・人手不足で市内の事業所が雇用を増やせていない。事業所数はあまり減っていないが。
- ・観光は芳しくない。牡蠣のお祭りを始めたころはよかったのだが。牡蠣自体あまり増やすのは難しいと聞いている。なぜ増やせないのかは、よくわからないが。
- ・企業が立地しても人口が増えないのは、全国的なトレンドだろう。近年派遣社員がメインで、全国から募集して各地へ振り分けて借り上げアパートに住むので定着しない。
- ・神戸、大阪のベッドタウンになるには距離が遠い。国道 2 号バイパスが二車線になるので、姫路まで車で通えるようになって人口が増えるのではないかという思いはある。
- ・赤穂市はコンパクトな街ではない。市内交通は基本的に車である。バスも料金 100 円のコミュニティバスはあるが、乗っている人は少ない。高齢者もあまり乗っていない。
- ・市北部の交通空白地でデマンドタクシーをやり始めたが、全然利用されない。事前のアンケートでは利用希望多数だったのだが、いずれは使うという意味だったのだろう。
- ・免許返納者もいるので、コミュニティバスの運行は今後も続けていく。買い物などは市内で一通り完結する。赤穂市は坂道が少なく、自転車では動きやすい街でもある。
- ・忠臣蔵を活かしきれていないとは、よく言われるが、テレビで勝手に宣伝してくれるから、危機感をあまり覚えていない。ただ、テレビで忠臣蔵を見ても赤穂市だと思われて

いない。役者も標準語でしゃべるので、関東のどこかの町の話だと思われる。

- ・インバウンドは少しずつ増えているが、姫路城のついでで、赤穂に来て泊まってくれない。姫路に泊まる場所がなかったのだが、最近整備されてきたので、赤穂への入込がむしろ減るだろう。温泉旅館はあるのだが、少ないし、値が張る。
- ・北前船が日本遺産に認定され、坂越はとても盛り上がっている。ただ、地区自体が市街化調整区域なので家を建てられず、人口はなかなか増えない。
- ・市街化調整区域制度の全国的な見直しは行われないのか。農地が減るのは困るが、人を呼び込むためにも、調整区域の緩和が必要だ。空き家は増えるが、家の建て替えもできないので。新しい人が入って来にくく、空き家そのまま潰れていく。
- ・赤穂浪士ゆかりのお寺を改修して旅館にしている。そういうのをもっと増やしたい。
- ・北前船に加えて、赤穂の塩も日本遺産に認定された。減塩ブームではあるが、なんとかPRしていきたい。日本遺産はストーリーとして認定されるもので、塩も北前船も直接誘客や販売促進につなげるのが難しいが、なんとか活かしていきたい。
- ・観光は、受け入れる側の意識で左右される。定住相談会などでも過疎の市町村は非常に熱心だが、赤穂市のブースに来ると「力が入ってないな」と言われたりする。
- ・I ターンは多くない。御崎にガラス工芸の店や、赤穂緞通の勉強のために来ている人が少数だが集まってきている。御崎マルシェという催しも行っている。
- ・観光はPR方法が弱いので、デジタルマーケティングやSNSでPRを強化しないといけない。市民からは「忠臣蔵から離れてくれ」という人も結構いる。若い人は知らない。
- ・ハーバード大学の授業で赤穂浪士が使われたと聞いたことがある。しかし外国人に説明するのは難しい。仇討ちという概念が分かりづらいようだ。テロだと言われそうである。
- ・民間の広告代理店の人が市役所に来てもらっている。1人にはデジタルマーケティングを担当してもらっていて、もう1人は週1日だが、クラウドファンディングを担当してもらっている。クラウドファンディングは継続性が課題だ。
- ・世界のツーリストに「瀬戸内の島々」が注目されてきている。ちょっと足を伸ばしてもらって赤穂へ、兵庫へと人を呼び込むように考えていかないといけない。

(地域の将来展望)

- ・若い人がたくさんいる元気な街にしたい。働くところをどう作るかが問題だ。
- ・パソコン1台でできるような仕事をする人は、本当の田舎を希望する人が多く、赤穂は都会だと言う。海が見える街でもある。なんとか魅力を活かしたい。
- ・赤穂海浜公園でグランピングをするなどしたら結構人は来るのではないかと思う。市の野外活動センターはキャンプもできるが、施設が古い。魅力的な食事の場所をもっと増やさないといけない。

<宍粟市>

(人口の動き)

- ・15～24 歳の転出超過が続いている。進学・就職で外に出て行く人を止めるのは難しい。若者の転出超過に歯止めをかけようと、医療費無償化や自然を生かした移住の促進、空き家バンクなどを行っているが、他市町と競おうとすると財源のリスクがある。
- ・宍粟市は財政力が弱い地域であり、税収不足、企業の不足、交付税への依存がある。王した中でどう取舍選択して効果的な施策を打っていくかが課題。
- ・空き家バンクに力を入れていて、年間 100 人くらいが市外から流入している。25～29 歳が若干の転入超過なので、ここをいかに UJI ターンで増やしていけるかが課題。
- ・若年層が減っているので、出生数の落ち込みが激しい。自然減は横ばい傾向。高齢者数のピークは 2025 年頃と見ている。
- ・外国人が増えている。中国、ベトナム、フィリピン、韓国の順。ベトナムなどは仕事の関係で来ているのだろう。縫製関係がメインで、林業などには入っていないようだ。

(総合計画、創生戦略について)

- ・現在、創生戦略の見直しを進めている。これまで総合計画と創生戦略の委員会は別々にしていたが、一緒になる必要があるということで、条例改正して一つにした。
- ・H17 年に合併し、第一次総計のもと、まちづくりを進めてきた。H28 年から第二次総計が始まり、R3 年から第二次総計の後期に入る。戦略は総計と表裏一体なので、戦略を 1 年延長し、後期基本計画と一体的に策定する。
- ・後期基本計画の最重要課題は人口減少対策。特に若年層の流出抑制。地域資源の山と森を活用し、持続可能なまちをどう作るか、いかに次代につなげるかを考える。
- ・何とか人口 30,000 人を維持したい。「森から始める地域創生」をテーマに、「住む」「働く」「産み育てる」「まちの魅力」の 4 分野で総合的な人口減少対策を行っていく。
- ・最新の社人研推計値は 2060 年に 12,555 人で、前回より更に減った。広い市域の中に集落が分散しており、バス、医療、買い物など住む地域によって利便性に差が出てきている。さらに人口が減少すれば、市民サービスの維持が困難となる。将来の地域構造として、市民サービスを維持するために市民生活の拠点が必要と考えている。
- ・20 代後半で男性が少し転入超過となっている。大学卒業後、都市部で働いた後に実家に帰ってきた人で、基本的には U ターンだろう。女性は一旦出たら戻ってこない。
- ・社会減の実数が減っている理由は、一つは人口のパイ全体が減ったことで流出する人自体が減ったこと。もう一つは空き家バンクの取組が功を奏していること。
- ・昨年度は 34 世帯が転入。若い人でも田舎に残りたいということで、勤め先は市外だが市内に住んで通勤するという人も一定いる。
- ・空き家バンクによる転入件数は、昨年 14 件。利用者は県内の人が多い。宍粟市は空き家が増えており、マッチングが奏功しているようだ。
- ・人口流出を止めるために 3 つのダムを作る。一つは旧町単位。旧町の役場周辺に公共施設の集約化を図って人が集まる機能を担保し、そこを拠点に地域を活性化させる。そこで無理なら 2 つ目のダムとして市役所周辺で人口を止める。ただ鉄道がなく、働く場も

少ない。その次は姫路を中心とした西播磨圏域を第3のダムとして人口を止める。

- ・市北部から姫路まで1時間半かかる。若い人への定住支援をしているが、大多数はどうしても南部の都市部に近いところに居を構える。
- ・雇用については地元企業のPRを開始した。西兵庫信用金庫とも協定を結んだ。高校生への企業紹介を実施している。市内で働く場が必要だ。
- ・森林大学校がオープンし、40歳まで入学できるので、そのまま林業関係に定着する人もいる。ただ、林業の就業者数は全体で数百人規模と少ない。県内では多い方だが、全体の数としては限られている。働く人数は素麺製造の方が多。後はサービス業。
- ・播磨科学公園都市圏域定住自立圏（たつの市・宍粟市・上郡町・佐用町）で姫新線の利用促進を行っている。新宮駅を拠点としたパークアンドライドで足の確保をするという取組。大学生の通学や西播磨地域への通勤に助成も行っている。
- ・宍粟市は面積が広く、拠点を山崎だけに持つと距離感がある。地域で生活してもらうには、地域で完結する必要がある。地域・農地・伝統は人がいてこそ守れる。人がいなくなると守れない。拠点で人口を維持して、人口を守る、地域資源を守るということをしていけないといけな。
- ・開業医は南部に多い。北部には市の診療所はあるが、開業医がないところもある。医療は大切な資源で、なんとか安心の医療資源を担保することが必要。
- ・JAのコープが3店舗撤退してしまった。個人商店のない波賀町は買い物に困っている。買い物環境を整えられないか考えている。医療と買い物は課題だ。
- ・やはり常設の店舗がほしい。高齢世代はスマホを使えない。自分で商品を見て買える、常設のお店が望まれている。
- ・市内のバスは200円均一で乗車できるようにし、民間の路線バスをネットワーク化し、西播磨圏内の通学ネットワークも整備している。コミュニティバスは人材の確保が難しいのでやめて、路線バスに切り替えた。路線バスの方が、少し持ち出しが多い。
- ・市内に3つ高校があり、伊和高校は各学年が一クラス。高校生が一クラス40人減ったら年間1万人以上の公共交通利用者減少になる。市としても県立高校の支援に力を入れなといけな。千種は中高一貫で魅力づくりを行っている。
- ・小規模集落が増えている。無人化した集落もある。消防組織すら維持できない。集落内の地域活動が困難で、特に北部はその傾向が顕著だ。自治会も維持できない。
- ・自治会単位の活動が困難。もう少し広い単位にしないといけな。コーディネーターを配置して事務局機能を持たせ、自治会でできないことは、より大きな単位の小学校区で対応するようにしていく。みんな自分たちの地域に誇りを持ちたいと思っている。
- ・木育に取り組んでいる。子どもが木に触れる機会が少ない。木に溢れた環境を整え、町中を学習の場にする。木製品の作製や、森に関連するイベントをする人たちも出てきている。森林環境税も活用しながら、木育を学校教育に取り入れる。これまでは木を切って製材するだけだったが、付加価値を付けていきたい。自然の中で子育てできる環境を売りにしていく必要がある。
- ・日本酒や発酵食品の発酵文化もある。地域と企業が協力しつつ、発酵文化を発信する取組も進めていきたい（播磨国風土記の一節から「日本酒発祥の地」と呼ばれる）。

<たつの市>

(人口の動き)

- ・ 人口は毎年 500 人減少。社人研推計に比べて下振れしている。2015 年の国勢調査人口は思っていたよりも悪かった。近年社会減が激しく、それが下振れの原因だろう。
- ・ 市内に大学がないので、10 代後半の転出者が多い。他の市町だと 20 代前半で戻りがあると思うが、当市は戻りが少ない。それが人口減の主要因だ。
- ・ 姫路、宍粟からの転入が多い。転入者向けの住宅取得奨励金として 50 万円を助成している。転入者の半分は姫路市、あとは隣の太子町だ。転出先も姫路が多い。姫路との関係では、トータルで転出超過になっている。
- ・ 転出入は地域差が大きい。南の JR 沿線は転入が多い。やはり鉄道があるのが強い。
- ・ 30 代の子育て世代は転入超過。駅の周辺で民間ベースの住宅造成が続いており、ファミリー層の転入は多い。市内に住んで、姫路や神戸に働きに出る人が多い。住宅助成は 40 代まで行っているが、助成の対象は駅周辺が 4 割ほどだ。
- ・ 臨海部に製造業が多いが、姫路に比べると働く場所が少ない。播磨科学公園都市には期待しているが、最近では工場ができるといっても無人化した工場が多いので、必ずしも雇用につながらない。事務系がないと女性が就職できない。
- ・ 姫路を中心とした連携中枢都市圏や播磨科学公園都市圏域定住自立圏を構成しており、定住自立圏では車と姫新線を組み合わせたパークアンドライドを進めているが、なかなか人口の流れを変えるには至らない。
- ・ 外国人が増加傾向。10 年前は 400 人くらいだったが、現在 650 人。人口比率は 0.9%程度で、まだ県平均よりは低いが。ベトナムが一番多い。職業は工場勤務が基本的に多い。パナソニックや素麺の箱作りなどに従事している。あとは介護事業所。ここ 3~4 年で一気に増えてきた。特にベトナムとインドネシアが顕著だ。

(地域の将来展望)

- ・ 地場産業の振興が一つの課題。醤油では、醤油の材料になる大豆を契約農家が大量に作ったりしているが、今のところ目立った動きはない。素麺は組合でしっかり対応している。醤油の需要が少し減っている。醤油や皮革など昔ながらの産業は厳しい。
- ・ 素麺の新規参入は難しい。組合になかなか入れない。免許制のような感じで、各家庭単位の組合員が生産している。近年は、台湾やアメリカなど海外への輸出も行っている。防災食やインスタントラーメンに活用したりもしている。
- ・ 素麺は組合の統制が強く、広がりはあまりないが、ブランドを維持する戦略でもあるのである程度致し方ない。なかには他業種を経験した跡継ぎが異端児的にいろいろ意欲的な取組をしているところもあるが。
- ・ 産業振興でどんな施策を打っていけばいいか、正直困っている。地場産業同士の連携、民間と行政の連携など、いろんな連携での振興策を戦略に取り入れていきたい。
- ・ コンパクトシティも進めていかないといけない。デマンドタクシーを運行しているが、それもいつまで持つか。市街化区域が市域の 1 割ほどしかないが、人口は、市街化区域と市街化調整区域が半々。極端なコンパクトシティは周辺部を置き去りにしてしまうの

で難しい。周辺部は買い物が不便になっている。公共交通としては、縦軸をコミュニティバス、横軸をデマンドタクシーでつないでいる。

- ・デマンドタクシーは12台で市内全域をカバーしており、一日約200人が利用。65歳以上は料金200円とし、免許返納者にはチケットも配布している。合併前の旧町域を基本に運行していて、病院へ行って、買い物に行って帰るという利用パターンが多い。大字単位・旧町単位なら運用できるが、それ以上の運行が運輸局の規制でできないので、緩和してほしい。これでも最大限配慮したと運輸局は言っているが。
- ・旧町単位の運行になってしまうので、南部の市民病院へ行くのに、北部の人はデマンドバスを乗り継がないといけない。市民からは、事情は分かるがそれぐらいはやってくれよ、という声がある。

(地域の将来展望)

- ・農業は新しい取組ができる分野だ。当市は小規模農業が多い。今、担い手が減っているが、どうやって新しい担い手を育てていくか。例えば刈り取りなどの単純作業を主婦グループなどに手伝ってもらって農業に興味を持ってもらって、将来的な担い手の候補にしようという動きもある。
- ・地場産業の醤油は跡継ぎの確保が課題。コンピューター化も進んでいるが、どうしても人間が対応しないといけないところもある。店を子どもに継がなくてもいいから、また店自体も継がなくていいから、場所を継いでほしい。

<太子町>

(人口の動き)

- ・ 人口は全体では緩やかに減少しているが、町内で地域差がある。市街化調整区域では、ほぼ減という状態。市街化区域では、増えているところと減っているところがある。
- ・ 県住宅供給公社に造成してもらった鼓ヶ原団地は人口の減りがすごく、また高齢化率が高い。市街化調整区域だが、昭和 50 年頃に造成されたところで、町内で一番高齢化率が高い。調整区域のオールドニュータウン化は課題である。
- ・ 23 歳から 28 歳までの転入はそこそこある。結婚を機に転入してきて居を構えるという層が割といる。大学入学と同時に出て行く層、卒業と同時に出て行く層も多い。
- ・ 結婚した女性が実家のある町内へ旦那を連れて戻ってくるパターンが割とある。町内ではなかなか働くところがないので、ベッドタウンとしての施策をどう打っていくか。
- ・ 町内で買い物もできるし、最寄りの JR 網干駅は、駅自体は姫路市域だが、新快速の発着駅で、神戸方面へ通勤している人も多い。新快速で座っていけるという強みがある。
- ・ 通勤のために住む人が増える傾向にはあるが、太子町は知名度が低く、まず町を知っていないと候補にならない。奥さんや旦那さんが縁のある人だと便利だとわかっているし、住む傾向がある。愛着とか縁をつなげるのがポイントだ。
- ・ 町内の産業はサービス業や賃貸業の比率が高い。人口は賃貸アパートの住民が増える傾向にある。新築戸建ては、年間 120 軒、この 5 年だと 740 軒が建っている。
- ・ 転入者は周辺市町からが多い。宍粟市から来るのは、姫路や神戸に通うため網干駅から通勤する人。やはり網干駅の存在が大きく、駅近くはまだまだポテンシャルがある。
- ・ オールドニュータウンで自治会館を建て直したいがお金がない。一時避難所としても使うのだが。それと買い物支援も課題。JR より南には商店等がないので。
- ・ 町内に県内最大規模のユニクロがあって、話をして町の紹介ブースを置いてもらった。このような取組は初とのこと。あすか祭りも、ユニクロでチラシを見た人がデザインを描いてくれたりした。国道 179 号沿線が賑わっており可能性がある。町外の人にいかにか太子町を知ってもらうかが大事。
- ・ 団塊の世代が非常に多い。オールドニュータウンに居を構えているのは団塊の世代だ。新日鉄・東芝の団塊の世代が家を建て、年を取り、2025 年に後期高齢者になる。どう対応していくのか、介護の体制が大きな課題。その世代が亡くなった後どうなるのかも考えないといけない。要介護認定率は今のところかなり低く、元気なお年寄りが多い。どう社会保障費を抑えていくのかが問題だ。
- ・ 外国人は 2019 年 6 月で 260 人。ベトナム人が多い。介護施設で技能実習生を受け入れている。姫路の介護専門学校へ行って、太子町内のシェアハウスで暮らしているようだ。フィリピン、インドネシアも多い。東芝に入っていた中国人は、最近はいないようだ。

(総合計画、創生戦略の方向性)

- ・ 太子町は、都会と田舎のよいところを併せ持つトカイナカ。ある程度の店はある、ちょっと行けば姫路がある、神戸や大阪へも行ける。利便性がよい。都市計画税もない。また、姫路より地価が安い。

- ・姫路という名前だけで地価が上がる。太子町は知名度が低く、郡ということもあり、市境をまたぐだけで、やはり安くなる。逆に、お買い得感があるということ。
- ・東芝が立地しており、レクサスの部品を作っている会社などもあるが、工業地帯ではない。事業所数が900くらいで年々減っており、商工会の加入率も下がっている。事業所を誘致したい。商業も伸ばしていきたい。
- ・起業・創業は多くない。創業塾を2年前から始めて2件ほど成果は上がっているが。
- ・総合計画と戦略は一体的に組み立てている。笑顔を伸ばしていく、人が戻ってくる町、がテーマだ。SDGsも入れている。総合戦略の柱は、ひと、魅力、安心、仕事づくり。これに沿って各部署が施策を進める。町の魅力をアップして移住、定住してもらう。2045年には人口目標として約32,400人をめざす。
- ・現在の人口は、5年前の人口ビジョンの目標値を上回っている。今後社人研推計を上回っていくことを目指したい。近隣市町のベッドタウンとして発展していく方向性だ。
- ・人口としては維持できて、ギリギリだが戦略の上を行っている。ただ、戦略の内容自体は他市町と似通ったもので、戦略が人口維持にどれほど効いたかはわからない部分もある。いろいろな要因があって達成できたのではないか。戦略が奏功した部分もあったし、そうでない部分もあった、という感じだ。
- ・創業はなかなか人口増には結びつかない。町バルの企画なども考えたが結局やらなかった。今回の戦略改定では、担当部署がやりたい事業をやっていくことを重視する。
- ・今考えているのは、子育て施設の整備。町内に大きなものがない。昭和50年代に建った都市公園内の児童館をどうしようかと議論している。子育て学習センターを幼稚園の跡地でやっていたが、民間保育所になったので、学習センターが追い出されて自治会の公民館の中に間借りしている。ちょうど農協の跡地を使いませんかと声がかかったので、そこで、その辺りの機能を合わせた子育て支援施設を整備できないかと検討中。
- ・網干駅と太子町は近いのに、その近さが認知されていない。太子町が便利なまちだともっとPRしないといけない。陸上競技場を備えた、太子町で一番大きな総合公園も完成間近である。JR網干駅の西側に車両基地があり、JRと連携してふれあいフェアをしている。町外の人がたくさん訪れるので、その機会を生かすことも考えたい。
- ・町外の近隣市町に家を建てた人の家にアンケートをポスティングして、なぜ太子町で建てなかったのかという分析をする取組も進めている。知名度さえ高まればもっと人が集まるという思いがある。相生市のようにCMにお金をかけるなどイメージ戦略もしていないといけない。
- ・聖徳太子はお札から消えてしまったし、歴史の教科書からも消えつつある。ただ、没後1,400年をもうすぐ迎えることもあり、地域活性化にどう活用していくか考えている。宮本武蔵由来の町でもあるが、PRの仕方などが他市町に負けてしまっている。

<上郡町>

(人口の動き)

- ・総人口は1997年に減少に転じた。老年人口が増加し、高齢化率が3割超となっている。
- ・自然増減、社会増減ともに減少で、社会減より自然減が大きい。2018年の自然減は152人、社会減は115人で年267人の減。この10年ほど同程度の減少が続いている。
- ・出生率は県平均より低い1.18(H27)。人口移動は20～29歳の転出が最も多く、60～64歳の転入も比較的多い。転出先は県外、県内が半々で、県内の半分が赤穂、相生、姫路。男女の転出数は同じくらい。H30は女性の転入数が少なかった。
- ・赤穂、相生、姫路との間で人口移動が多く、H30年度は全体の1/4程度。それ以外の地域との転出入がやや増えているが、5年前と比べて、大きな傾向の変化はない。
- ・岡山との県境を越えての交流は少ない。神戸・阪神間へ1時間半程度で通勤、通学できる。皆、東を向いていて、人口も東側へと移動している。
- ・町内では、中心部の山野里と竹万の居住者が増えている。市街化区域に編入したイオンタウン周辺の住宅建設が増えている。役場の川向かい(千種川の左岸側)が旧市街として栄えていたが、商業施設が山野里周辺に集まった結果、今では閑散としている。
- ・外国人はH31.4で135人(前年比+22人)。人口比0.9%。世帯数は97世帯で1.5%。ここ数年増加傾向にある。国籍別ではベトナム52名、フィリピン30名、韓国27名。
- ・増えている外国人は技能実習生だ。テクノの事業所に多い印象があるが、1つの事業所に集中しているわけではない。農業法人、メガソーラーの工事現場など、人手不足の業種に外国人が入っている。彼らの多くは中心市街地周辺に住んでいる。

(総合計画、創生戦略の方向性)

- ・人口ビジョン・総合戦略は今年度で5年間の期間が終わる。総合計画の改定を来年度予定しているので、人口ビジョン・総合戦略を1年延長し、総計の期間と合わせる。
- ・現行の戦略では、①雇用、②結婚・子育て、③移住・定住、④街づくりを主な柱としている。特に力を入れているのは、子育て。働きながら子育てしやすい環境を作るため、教育機関を再編し、幼稚園は認定こども園化して6園を3園に、小学校7校を3校に、中学校は1校に統合した。行政経費の効率化を図りつつ、子育て支援環境を整える。
- ・移住・定住では、ワンストップの相談員を置くことで役場内の連携を図っている。空き家を活用した移住は増えてきている。2018年は、社会減が若干改善した。
- ・いきなり移住という人は少ないので、駅近くの公営住宅の空き室を移住体験住宅として提供し、移住につながるケースが増えている。県版地域おこし協力隊も活用している。後継者を探しているブドウ農家と隊員のマッチングがうまくいき、活動が始まった。
- ・合併せずに来ている中で財政的な課題が大きい。投入できる財政資源に限りがあるので、将来の負担を減らすため、施設の合理化を図っていくことが大事だ。
- ・産業振興では、創業支援と工業立地促進のための固定資産税減免と奨励金制度をやっている。空き倉庫の問い合わせがあるので、空き家以外の空き店舗、空き工場、空き倉庫の情報を発信するマッチングサイトを作った。使いたい人と売りたい人・貸したい人を

マッチングし、そのままにしていたら荒れていく場所を活かして産業を育成したい。

- ・問い合わせは物流系が多く、大規模な用地の希望が多い。工業団地がすべて売却済みとなり、大きな土地がないが、民間部分で拾い切れていない部分もあるので、それらを掘り起こして受け皿をつくっていききたい。今さら工業団地の造成は難しいので。
- ・空き家バンクの成約は年 10 件程度。ほとんど売買。所有者からすると処分してしまいたい。利用者は子育て世代が多い。東京から来た人もいる。60 歳以上の人の利用も多い。
- ・鉄道駅があり、街にも出やすく、それなりの田舎暮らしができるのがうちの売り。家庭菜園くらいの農地付きの物件が人気。そこで去年、農地の取得下限面積を 1 m²以上に下げた。外から来る人の大半は、農業経営をするわけではない。そんな人が小さな農地を取得できるように、空き家バンク経由の人限定で緩和措置をした。少しでも耕作放棄地を減らしていきたい。やってみて、もう少しほしいとなったらいい話だ。
- ・売買の相場は平均 500 万円くらい。70 坪、80 坪の土地で数十万円といった事例もある。
- ・町域が手のひらのような形で、谷から中心部に出ないと生活が困る。生活機能が集まる中心部に周辺部の方が楽に移動できる手段を確保して生活の利便性を上げたい。
- ・路線バスは限定的。1 つ目はテクノ行。県立大付属への通学生がメイン。2 つ目は、赤穂方面に出るバス。3 つ目は大和団地（高田台）行。その隙間にコミバスを走らせ、足りないところはデマンドバスで対応。交通空白地はないが、複雑で利用しづらい。もっと分かりやすい交通体系にしようと、再編計画を考えている。
- ・公共交通は一部の慣れた人が利用しているだけ。自動車依存が大きく、公共交通に乗り慣れていない人が多い。高齢者の交通事故が増えていて、免許返納を促すために公共交通の回数券を返納者に交付している。JR にイコカが入ったのでイコカも交付して、町内は回数券、町外はイコカで移動してもらおう。通院などは町外に出る人が多いので。

(地域の将来展望)

- ・中心市街地とそこに集まる谷筋という地域。昔は、それぞれの谷に旧村があった。小規模集落の元気作戦に取り組んだこともあるが、人が減っていて、それだけの労力をかけるところまで至らない。コミュニティがあって、住民は市街に下りることまでは希望していない。都会に出た子どもと一緒に住もうと呼んでも、ここがいいと。人が少なくなってもここでできる限り生活したいという人が多い。つまり、このまま行くのだろう。
- ・戦略の 5 年で人口減少に歯止めがかかっていない。人口が減っても活力を失わない、住民が幸せに暮らせる、そういう地域づくりをしていかないといけない。人が減っても元気な人がいれば生きていける。そう辺りが次の戦略のポイントになる。
- ・自治会が 108 あり、その校区単位の連合が 6 地区ある。役員のなり手がなく、一人がいろんな役を兼ねていて、負担が大きくなっている。行政だけでは地域を支えきれない。地域自ら課題解決できるところは解決してもらおうようにしていかないといけない。
- ・産業やインバウンドまでは、なかなか考えが及ばない。町だけではやり切れない。観光では大きな資源がない。広い播磨の中での一つとして情報発信していく。
- ・安全安心の根幹である医療では、町内に総合病院がない。定住自立圏、連携中枢都市圏で医療を確保する。赤穂には 2 つの総合病院、市民病院と赤穂中央病院との間で、JR 上郡駅から赤穂中央病院経由、赤穂市民病院行の圏域バスを運行していて、利用者が多い。

<佐用町>

(人口の動き)

- ・ 現行の戦略の計画期間はH27～31で、今年度で終了。現在策定中の人口ビジョン、総合戦略は、総合計画の終期に合わせるため、期間をR2～8年度の7年間とする予定。
- ・ 町全体の人口ビジョンは、町民にはなかなか「自分事」化しにくいので、旧小学校区域の13の地域づくり協議会の単位で分析を行って住民に提示した。
- ・ H27国調17,510人が昨年12月1日で15,923人、5,985世帯まで減った。65歳以上人口はS60からH27へ1.5倍に増え、65歳以上が38.4%という少子高齢化の状況だ。
- ・ 過去から一貫して死亡者数が出生数を上回っている。社会増減はH10以降、転出超過。転入者は20年間で半減。社会減の減少幅が大きくなっている。
- ・ 男女とも15～19歳の転出者が多い。中高卒業後町外に進学し、戻ってこない。女性は特にその傾向が強い。55～59歳の転入は超過傾向。Uターン、Iターンの動きが一定ある。
- ・ 町内では旧上月の減少率が高い。逆に減り幅が緩やかなのは旧南光・佐用。佐用は、町の中心で商業が集積し、地理的にも開けた場所で日当たりが良い。災害の心配の少ない丘陵地があり、民間の宅地開発が進んで町内から若い世代が移動している。
- ・ 旧上月は元々人口が多い地域だが、北部の交通が不便。一時は工業団地周辺で宅地開発が行われたが、今は、そこの人口が減っている。小学生の数も一番減っている。
- ・ 姫路、龍野への転出が多い。子どもの教育の環境が違ふし、親が調子悪くなってもすぐに帰れる。龍野だと、土地の値段もそんなに変わらないので、余計に転出が進む。
- ・ 外国人は少し増えた程度か。久崎小学校跡地に、民間経営の佐用日本語学校ができた。日本で進学、就職する外国人が1年半から2年のカリキュラムで日本語を学んでいる。20名弱の学生がいる。その他は、町内の企業が技能実習で外国から実習生を招いている。
- ・ 日本語学校の学生は町内の空き家、3棟くらいに分かれて住んでいる。

(総合計画、創生戦略の方向性)

- ・ 空き家バンクに取り組んでいる。成約がH28:8件→H29:14件→H30:19件(48名)と増加しており人口減少の緩和に貢献している。物件を掘り起こせば、もっと増やせるはず。町(商工観光課)が間に入って相手を見ながらうまく対応しているのでトラブルは少ない。地域のルールを理解して入ってくる人なので、出す側も安心して出せる。
- ・ 空き家の供給が足りない。空いていても、墓も仏壇もあるということで、きれいに管理されている家が多い。もう一つ世代が進まないと、流動化が進まない。
- ・ 利用者はリタイア世代が多いが、若い世代もいる。平福で喫茶店を開業した人は、大阪から来た人。地域活動にも積極的に参加。他には農業する人も結構いる。
- ・ 閉校した学校の跡地活用を進めている。光熱水費は負担してもらうが、10年間無償貸し付け。日本語学校の他は、施設園芸、サ高住、一般の民間事業所。入ってもらって雇用を生み出してほしい。ドローンスクールも開校した。
- ・ 施設園芸は「佐用まなび舎農園」。竜野に事業所のあるIDECと町が半々で出資して有限責任事業組合を作り、姫鳥道の残土処分地でメガソーラー事業をやっている。農業もやるうということで、トマトを始めたが、経営状況は厳しい。台風災害でできた残土処分

地に 10M クラスのメガソーラーも昨年稼働。それで独自財源を確保しながら農業、子育て支援にお金を回していこうとしている。

- どの市町もそれなりにやっていて、ユーザーからすると差が見えない。それぞれの市町は財政に負担をかけてぎりぎりまで頑張っている。うちは裕福な町ではない。他に引けを取らないということに留意してやっているが、奪い合いには未来はない。
- 佐用餅大豆が国の GI（地理的表示）の認証を受けた。大豆では初めての認証。来年度から地方創生推進交付金を使って活用を図っていく。
- 平福の活性化も課題。利神城は一昨年国史跡になったので地元と一緒に頑張っていく。
- 表に見えない部分だが一番大事なのが、道路、上下水道、情報通信の維持。国は地方創生で田舎へ誘導しようとしているが、過疎・中山間地域の水道料金は高い。意外と知られていないが、公平であるべき水の値段に大きな地域差がある。安いので有名な赤穂市は 1,000 円。うちは 3,000 円。将来的に公営企業化するとすると、1~2 万円になる。
- テレビもそう。町民は月 500 円払って民放テレビを見ている。民間が整備してくれないので、町が光ファイバー網を張り巡らして民放テレビを見られるようにしている。
- 公共交通サービスも行政がやらざるを得ない。今「きよさよサービス」として、月水金・火木土のグループに分けてデマンド交通を動かしている。町内 300 円で町内どこへでも行く。加えて、障害を持つ方などは曜日限定だと困ることもあるので、タクシー利用助成もしている。上限はあるが半額助成。コミバスは 2 路線で運行している。
- デマンド交通を毎日運行してくれという要望があるが、お年寄りには毎日外出するわけではないので十分ではないか。タクシーが圧迫されるのでバランスをとってやっている。

(地域の将来展望)

- 旧小学校区単位の地域コミュニティの見直しが必要だ。行政では手が届かない部分の対応を地域づくり協議会が担うが、街中と中山間では課題が違うので、それぞれの地域づくり協議会で自立的に動いてもらいたい。そのために組織の作り直しが必要だ。
- 自治会とは別に協議会を立ち上げて 13 年くらい経ち、マンネリ化したり、一部の役員に負担が偏ったりしている。役場の支援体制も課題。一度振り返って、みんなが活動しやすい体制にしようとして昨年度から見直しを始めた。4 地域で先行してやっている。
- 人口減少の動きは止められない。その中でも何とかやっていける町を目指す。
- 元々農地に引っ付いてバラバラに人が住んでいた地域。ただ、施策として集住を進めることはなくても、自然と中心部に人口も利便施設も集まってきている。適正な集中は縁辺部に住む人にとっても便利。機能が集中していて縁辺部の人にとっても便利という意味でのコンパクトシティが「小さな拠点」の考え方なのではないか。
- 工場誘致できそうな土地がない。水も不足している。農業をされている方が多い。農業を大規模化するのは一つの方向性だが、コツコツしている人の農業も大事。健康維持、生きがいなど、生産性とは違う部分で大切にしないといけない。
- 企業誘致はしたいが、土地の問題、水の問題がネック。京阪神から見ると、ここまで来なくても山陽道、中国道沿いにいくらかでも良い場所がある。また、町内の企業は人手不足で困っている。就職希望の高卒 1 名に対して、町内の企業 8 社から手が上がるような状況。今ある企業も人の確保に苦労しているようなところに企業は来ない。

<豊岡市>

(人口の動き)

- ・有配偶女性の減少により出生数が急減。結婚さえすれば、生む子どもの数は比較的安定しているので、若い女性さえ帰ってくれば子どもの数は下げ止まるのではないか。
- ・本市独自の指標「若者回復率」(10代の転出超過数に対する20代の転入超過数の割合)が2010年男34.7%、女33.4%→2015年男52.2%、女26.7%となっており、男性は帰ってきているが、女性が帰ってこない。これはジェンダーギャップの影響ではないか、豊岡は女性を大切にしていないのではないか、という分析をしている。
- ・例えば法事があると男は酒を飲んで騒いでいるが、女は炊事場で料理してお酒を出す。そんな地域に誰が帰りたと思うだろうか。そういうところを改めて、女性が生き生きと暮らせる地域を作らないと人口減少は止まらないのではないか。
- ・女性の働く場所も、女は事務的な仕事が合うだろうということで、逆にそういう選択肢しかない状況がある。こうした状況を変えるため、「ジェンダーギャップの解消」を打ち出して、地域、企業一緒になって、若い女性が帰りたくなる、住みたくなる地域を作っていこうとしている。
- ・人口は、但東の減り幅が大きく、竹野は頑張っている。出石は上がったたり下がったり。全体として旧豊岡に人が集まってきている。市としては、旧市町間の較差解消よりも、市全体として若者に帰ってきてもらう取組を進め、その中で、旧市町ごとに、それぞれの特色を出して頑張っていこうという作戦で動いている。
- ・転出先は京阪神が多く、転入元は5割が県内、2割が但馬2市2町。新温泉の人が結婚を機に豊岡に住むといったパターンが多い。但馬の市町の人口減少が転入減に直結する構造なので危機感を持っている。

(外国人の状況)

- ・現在人口の1%、約800人の外国人住民がいて、少しずつ増加している。漁業の実習生、工場が抱えている留学生などいろいろいて、これからも増えていくだろう。多様性を受け入れる共生のまちという視点からの取組が必要になってくると考えている。
- ・現在、神戸大学と共同で外国人住民の実態調査をしている。外国人住民の増加分の2~3割が若い女性で、工業団地内の派遣、インターンが多いところに注目している。
- ・国籍はベトナム、中国、フィリピンが多い。中国人は言葉も上手な人が多く、見た目にはわからない。在留資格も永住、技能実習など様々で、それらの違いがどうなっているのか、その辺りをきちんと調べたい。
- ・子どもの調査もしていこうという話をしていて、国籍は日本でも、両親のどちらかが外国人の場合に何かハンディはないのか、といった辺りを調べたい。

(総合計画・創生戦略の状況)

- ・教育者の東井義雄、冒険家の植村直己の精神を継ぐ街として、平成24年度に「豊岡市のちへの共感に満ちたまちづくり条例」を制定し、「小さな世界都市」を目指す基本構想を定めて、今のまま立ち止まっていたのは沈没するという危機感から取組を進めている。
- ・そのうち「人口減少」に対抗する取組を特出ししたのが創生戦略であり、その肝は「豊

岡で暮らすことの価値」を知ること、高めること、発信すること。特に子どもが本物に触れることのできる街ということで、世界の一流の芸術文化に触れる機会づくりに力を入れている。「ただでは東京に行かさない」という市長の強い思いがある。

- その関連で特色があるのは、社会増対策でもあるアーティスト・クリエイター移住促進の取組だ。平田オリザ氏の劇団の拠点が東京から日高に来る。演劇の街ということで、女優の河合美智子さんも移り住んだ。こうした動きを広げていきたい。

(今後の方向性)

- 現在次期戦略を検討中。「子どもを増やす」という言い方が、ジェンダーギャップ解消の切り口とも合っていないので、まずこうした表現を見直したい。
- ジェンダーギャップの解消が最大の課題。働き場がないわけではない。いったん仕事をやめると賃金が男性の半分になるといった賃金体系をどうするか。仕事をやめずに働き続けられる働き方をどうやって実現するか。その辺りの取組が重要だ。
- 専門職大学ができて、学生、教員、外国人と、これまでになかったような形で人が集まるようになる。我々の意識が変わるよりも先に現実が変わっていくだろう。
- 市の問題は施設の保有量が多すぎる。例えば小中学校。統合すれば、複式学級が解消され、教育の質も維持しやすい。一方で、通学が一層不便になり、逆に住みづらくなるという話もある。こういうことに一つ一つ取り組んでいかないといけない。
- 産業面では、企業誘致などより、働き方を変える取組の方が大切。かばんなどの地場産業、温泉などの観光産業、それと農業。そこで儲けられる人が育つ地域を作りたい。かばんだと革小物、財布などが売れていて市外から職人になることを目指して来る人がいる。こうした部分を伸ばしていきたい。
- 専門職大学の卒業生に、いかに地元で止まってもらうか。今のところ温泉、観光業への就職というイメージだけで、演劇が食い扶持になるイメージがまだ描けていないが、「深さをもった演劇の街」として、そこで稼げる仕組みを考えていきたい。
- この前やった演劇祭は、予想以上に盛況で宿泊者も多かった。平田さんが言うように、10年後には世界的な演劇祭になるように回を重ねるごとに発展させていきたい。
- 但馬全体で一緒にやっていくテーマも、専門職大学に絡めて考えていきたい。高校生のふるさと意識を高めることも大事で、それと合わせて次期戦略に盛り込みたい。
- 神鍋が外から若い人が入ってきて活性化している。パラグライダー、マウンテンバイクのダウンヒルなど事業者（アップかんなべの運営者である柊アドバンス）が頑張っている。竹野も地域おこし協力隊を中心にいろいろな動きがあって面白い。
- 市として産業全体でこれというものはないが、それぞれの地域の良さを伸ばしていくのが本筋だろう。日高は神鍋がアウトドアで街中は平田オリザさんを中心にした演劇。竹野は海。出石はそばと若い女性たちの活躍。城崎は温泉。但東がこれというものがまだないが、農家民泊で子どもたちを受け入れて、という方向性か。
- 豊岡駅前のシャッター街が変わらぬ風景になっている。小さな動きはあるが、大部分が住居で、大きな動きにならない。何かやるにしても、家賃が高い。この街中こそ危機感のなさという意味で、一番課題のある地域かもしれない。専門職大学の1年生は寮生活だが、2年生から周辺の空き家を借りて住むといった展開になれば面白いのだが。

<養父市>

(人口の動き)

- ・人口減少が加速している。昨年は自然減・社会減ともに約 260 人。社会減を 100 名に抑えるのが戦略の目標だが、策定当時の社会減約 180 人から大幅増加。
- ・出生も減少。その要因は未婚化・晩婚化と出産可能な若い女性の減少。婚活の取組も進めているがあまり効果は出ていない。
- ・社会減は、進学（18 歳）と就職（22 歳）時点で都市部へという流れと、自宅の購入（30 代）で近隣自治体へという流れ。自宅の購入は、より交通利便性の高い豊岡、和田山などを選ぶ傾向がある。一方、香美町から養父市へといった転入もある。
- ・転出者からは近隣自治体の方が子育て施策が充実しているという声もある。進学で一度市外に出た後、就職などで戻ってきた人がいても、子育ての段階で近隣自治体に逃げてしまうのが残念。
- ・若い人が家を購入する際、中心部に集まる傾向があるが、新築用の土地がないために、住宅購入時に市外に人口が流出している。農地を宅地に転用するのは、手間も時間も費用もかかる。そこで、市有地を民間に払い下げて宅地分譲を進める取組を 3 年ほど前に始めたところ、その地区だけは順調に人口が増えている。
- ・周辺部はなかなか人が入ってこないが、原風景が残っているエリアは空き家バンクを活用して移住者が入ってきており、移住者が地域に良い影響を及ぼしている。
- ・移住者は 1 年に 10 組ほど。設計、デザイン関係など手に職を持った人が多い。また、リタイア後のセカンドライフ的な移住者も多い。
- ・空き家バンクの利用は市民も多い。市外からの問合せは、東京からは少ないが京阪神地域からは多い。
- ・外国人に関しては目立った動きはない。100 人ほど外国人住民が住んでいる。企業から労働力としてのニーズはあるが、求人をしてなかなか集まらない状況。

(総合計画・創生戦略の状況)

- ・地方創生戦略は第二期を作成中。第一期の結果は芳しくない。これまでは農業をスポットに当て、「やぶぐらし」を PR してきた。
- ・進学で市外に流出するので、高校生までにふるさとのイメージを伝え、育成しておくことが大事。人口構造の若返りをしないといけない。
- ・市民にそれほど危機感がないように感じる。人口が減っても仕方ないかという感じ。危機感を持っているのは行政の方。区長のなり手がいない、祭りができない、農業の担い手がいない、地域の仕事が回らないなど、問題は多々ある。当事者意識を持ってもらえるように市民に働きかけていくことが大切。
- ・国の Society5.0 の動画のように、30 年後の養父をこんな風にしたい、そのためにこうする必要があります、といった啓発が必要と感じる。
- ・外から人が入ってこない地域が持たない。観光であれ何であれ、市外から来る人と養父市が一緒になってやっていかないといけない。例えばドローンを飛ばしているろんなことができる地域になるような取組を進めているが、それが普及する未来は実現可能なの

か。こういった分野を広げるのか、逆に絞るのか、考えないと行けない。

- ・ 人がいなくなった集落がある。無人化してそのままの状態になっている。人がいなくなった土地は原野に戻るだけかもしれないが、空間の管理という面から考えると、中心部に人を集めるまちづくりは良くない。集約した方が行政コストの削減にはなるが、まばらでも人がいる方が地域の保全につながる。
- ・ 集落単位の活動が難しくなっているため、旧小学校区単位に地域自治協議会を立ち上げて、支援策として包括交付金を1億円ずつ出している。
- ・ 国家戦略特区では、現在12社が農業に参入し、46haを耕している。不耕作農地が活用され、雇用創出の効果もある。ただ、市民生活レベルで効果は実感されていない。制度が全国展開されるようになり、もはや養父市だけが先進的なわけではない。
- ・ 特区では、テレビ電話による遠隔服薬指導も行っている。テレビ電話のメリットは患者の家の様子まで分かること。医師の働き方改革にもつながっている。
- ・ 特区事業で始めた自家用有償運送は区間が限定されているが、徐々に利用者が増えている。今年は半年で180件ほどの利用。初年度だった昨年は1年間で160件だった。公共交通を支える仕組みはこれからますます必要になる。

(今後の方向性)

- ・ 養父市は何で食べていくか。農業がメインだが、農業だけでは食べていけない。ほとんどが兼業農家である。新しい産業が生まれないと持たない。
- ・ Iターンで入ってくる人に多いICT関係の仕事は居住地の制約は少ないが、他自治体との取り合いである。また、どこでもできる仕事は、たいてい小規模だ。人口を増やすという意味では、大きな事業所が来ないとダメだが、市単独ではなかなか難しい。
- ・ 市役所と病院は雇用に大きく貢献しているし安定している。それくらいの規模の事業所がもう少しあれば。警察署が再編され、養父署が朝来署に統合される影響は大きい。但馬全体で見ても、警察職員の家族も含めて相当数の人口が減ることになる。そうは言いつつ、市も職員数を減らしているが、これも行革でやむを得ない。県民局は規模を縮小しないでほしい。
- ・ 人口流入という意味で専門職大学ができるのは大きい。学生が来て、地域にどんな人材が供給されていくのかを仕組んでいかないといけない。
- ・ 勤務地は豊岡市や朝来市でも、住むのは養父市と選んでもらえるように地域の魅力を高めていかないといけない。

<朝来市>

(人口の動き)

- ・市では定住促進課を設置して社会増に注力してきた。自然減は約 250 人だが、社会減は緩和傾向で、過去に約 200 人だった転出超過が昨年は 107 人になっている。移住補助制度を活用して移住してきた人は年間 100 人ほど。
- ・転入元の割合は都市部と近隣自治体が半々。豊岡、養父辺りから一定の転入がある。
- ・市内に住んで、市外に通勤する人が増えている。高速道路が整備され、姫路、福知山、豊岡が通勤圏になっている。昔は通勤補助を行っていたが今はしていない。
- ・社会減が 200 人から 100 人ほどになった要因は、住みたい田舎ランキング 1 位 (2018 年近畿版ランキング) になったこと。移住相談の電話がひっきりなしにかかってくる。やはりメディアの威力はすごい。養父市も 2019 年に 1 位を取っている。
- ・周辺部から市内に行く流れは顕著ではない。子どもが大きくなったので市内のアパートが手狭になり、周辺部の空き家へ移る、というのはある。
- ・生野は三菱マテリアルの工場閉鎖で一気に人がいなくなった。
- ・外国人は徐々に増えてきている。今後は外国人にも住みよい街にすることが大切。
- ・2007 年度に小学校区単位の地域自治協議会の立ち上げを始めて 10 年以上経った。和田山中心部などまだそれほど危機感のないところもあるが、イベント中心から地域で儲ける仕組みづくりに移行している地域が出てきている。

(総合計画・創生戦略の状況)

- ・新規就農者に対する支援を行っている。耕作放棄地が増えており担い手がない。農業の親方に付いて学び、自立して農業が始められるような取組を進めている。
- ・空き家、空き店舗の活用が重要。和田山駅前が空き店舗だらけになっているので、ここに特化した空き店舗活用の取組をしている。朝来に移住を考える人の多くは、駐車場があって、家庭菜園ができて、というイメージを持って来るので、そういう場所を確保できない駅前にはなかなか住んでくれない。そこを何とかしないといけない。
- ・市内にもたくさん企業があるが、人出不足という声をよく聞く。企業を誘致しようとしても働き手がいるのかと、企業が不安がって来てくれない。
- ・地元により企業は多いが、高校生が知らない。ここ 3 年ほど、生野高校、和田山高校の総合学習の一環でキャリアトークカフェとして市内企業との懇談の場を設けている。
- ・高校卒業で半分が市外に出ってしまう。大学卒業後に戻ってくるが、割合としては 1 割か 2 割。都会に出ても帰ってもらえるようにすることが大事。そのためにも高校生の時点で朝来市に魅力を感じてもらわないといけない。
- ・生野高校に観光グローバルコースがあり、姫路市や播磨町から生徒が来ており、寮も整備している。ただ、去年の入学者はゼロで、なかなか厳しい。

(今後の方向性)

- ・京阪神から 1 時間、海にも 1 時間という地の利を生かして移住者の受け入れを増やしていきたい。移住者は、農業を志向する人以外に、起業を目指す人もいる。朝来市ではそういう人を「ASAGOiNG (アサゴーイング) な人」と呼んで支援している。

- ・竹田駅近くの保育所跡をインキュベーション施設にした。そこで始めた事業が軌道に乗ってきた人には市内に店舗を構えてもらう。最初は細々とした商売だが、インターネット販売やイベントへの出店で販路を広げて頑張っている。こうした人をもっと増やしていきたい。
- ・空き家バンクも充実させていきたい。空き家への移住者は年間10件ほど。空き家は多いが、中に家財道具があつたりして、利用可能なものは少ない。地域の決まり事を理解してもらうことが大切で、移住者へは日役などの説明をしている。
- ・小規模集落の見通しは厳しい。問題は足の確保。朝来市は谷が多く、公共交通を走らせるといくらお金があっても足りない。乗らないと交通サービスはなくなっていくが、住民は乗らない。皆自家用車を使う。今後は有償運送対応も考えないと行けない。
- ・1970年代後半に開発された住宅団地で、国土交通省のグリーンスローモビリティの実験を行った。高齢化が進んでいるが、バス停から家までが遠いのが問題で、路線バスと接続してバス停から家までのルートをつないだ。いずれは自動運転で代替できるようになると思うので、検証を続けたい。
- ・高速道路が整備されるに連れて、和田山が通過点となっていく可能性はある。竹田城の入込数も一時期は年間60万人だったが、今は落ち着いて20万人ほどになっている。
- ・近年多いのは中国、台湾からの外国人観光客。観光地としては竹田城、生野銀山、神子畑選鉱場跡。神子畑は年1,000人程度の入り込みだったのが、今は1万人ぐらいにまで増えている。建屋が残っていたらよかったのだが。明延まで一円電車が復活したら面白いと思うが、民間の持ち物なので難しい。
- ・豊岡にできる専門職大学は、豊岡の施設ではなく、但馬全体の施設だと思っている。学生に朝来に住んでもらえるような環境整備もしていきたい。

<香美町>

(人口の動き)

- ・2016 年度から本格的に移住定住施策に取り組んでいるが、なかなか成果は出ていない。年間に生まれる子どもは100人を下回っている。人口ピラミッドは、若い世代が先細りしていて、非常にいびつな構造になっている。
- ・阪神間に加えて、近隣市町への転出が多い。香住から豊岡、村岡・小代から養父・朝来への転出が多い。結婚して新温泉町、岩美町へ転出する若者も多い。鳥取側の人と結婚すると、中間の岩美や新温泉に住む人が多い。岩美は、鳥取市街より家賃が安い割に、物件の選択肢も多く、よく選ばれているようだ。
- ・一番多いのは豊岡への移動だが、豊岡からは朝来へと移動している。但馬全体では、朝来が利便性の高さから選ばれる街になっている。
- ・町内の移動はデータがないが、多くはないと思う。若い世帯が結婚して、勤め先との関係で、その近くに移るといった流れは一定あると思うが。
- ・結婚、就職のタイミングで豊岡に移動する人が多いのは、若者向けのマンションが豊岡には多くあるから。村岡・小代には町営住宅はあるが、それ以外の賃貸の選択肢がほとんどない。香住には多少の選択肢はあるが、家賃が豊岡とあまり変わらないので、より選択肢の多い豊岡が選ばれる。
- ・外国人は、漁業、水産加工で一定の就労者がいる。住民数としては130人ぐらいだ。この10年で少しずつ増えている。漁業ではインドネシアの技能実習生が多い。水産加工では中国人が多いが、中国人がベトナム人に置き換わっているのが近年の特徴。
- ・また、漁師の奥さんでフィリピンの方が多い。10年ぐらい前にどっと増えた感じで、日本人と外国人の混合世帯が40世帯弱という状況。ただ、その後増えているわけではなく、総数としては、それほど多くない。
- ・Iターンはぼつぼつある。地域おこし協力隊を含めて年10世帯程度。Uターンも一定あると思うが、そちらは町の制度を利用されないのでは、数としては把握していない。
- ・Iターンは阪神間の人が多い。多くが空き家バンクの利用者。若い人とシニアに二極化しており、子育て世帯は少ない。住居だけでなく仕事も必要だが、漁協や森林組合に勤めたりするほかは、起業する人が多い。県のICT起業の制度を活用している人もいる。
- ・120集落中50集落が小規模集落である。一番小さいのは香住の本見塚の1世帯1人。次は小代の熱田が3世帯5人。熱田は集落移転事業を使って麓に下りた集落だが、一応熱田としての行政区を持って生活している。
- ・小学校区単位の地域自治組織の立ち上げを本町でも進めることになった。本年度から順次立ち上げていく。将来的には11の小学校区すべてに立ち上げたい。

(総合計画・創生戦略の状況)

- ・子どもがいないと次の世代が続かないので、持続可能な地域をつくるという意味で、「子ども」に焦点を当てて、子育て支援、若者定住などに力を入れている。
- ・戦略のKPIは半分程度達成したが、人口対策が進んだとか、定住が進んだということにはなっていない。KPIの見直しが必要だ。

- ・人口減は一律ではない。もっと条件の悪い山間部や離島の町で人口減が止まったり、増えたりしているところもある。やっぱりやりようではないかという思いがある。
- ・隣町同士で合併して1万数千人の町にはなったが、中途半端な規模だし、旧町ごとにカラーが違うので、逆に思い切ったことがやりにくくなった。旧3町を切り分けて個々に対策を打ち出す方が、面白いことができるように思う。
- ・豊岡も養父も朝来もそれぞれ個性を出して頑張っているので、うちも負けられないようにしないとイケない。近く同士で連携ということではなく、他もやっているというプレッシャーの中で競争を強いられている感じになっている。
- ・今、鳥取市の連携中枢都市圏にしきりに誘われている。新温泉町はもう入っている。鳥取は、鳥取市が20万人で周りが小さい町ばかりなので、鳥取市が中核市として世話役になって引っ張る広域連携をうまく進めている。但馬は、そういう形になっていない。
- ・香美町自身が売れていない。香住はカニで、美方・村岡はスキーだが、やはり香美町は海のイメージが強いので、その方向で勝負していかないとイケないのだろう。観光協会もまだ一本化できていない。3年後を目処に統合という話までようやく来た段階。
- ・神戸営業所はテレビに出たり、新聞に特集記事が出たりで、「香美町」の知名度を上げるのに効果があった。ただ、香住ガニのPRが効きすぎて、逆に値段が上がった。

(今後の方向性)

- ・香美町の主産業は、第一次産業。カニと但馬牛。この2つのA級グルメを生かして2次、3次と展開していく。但馬牛は若い後継者が増えて、大規模化が進み、頭数が増えている。これをもっと伸ばしていく。
- ・カニは、但馬漁協が資源保護の取組を進めている中で、あまり工夫ができない。周りの鳥取や、京都、石川はそれほど資源保護を言っていないので、その中でどうしていくのか、漁協もいろいろ考えているだろう。
- ・観光業も育てていきたいが、うちの観光業はほぼカニで成り立っている。カニが取れなくなると、一次産業はダメになり、観光業もダメになるというセットもの。
- ・かつての香住漁港は日本海側有数の漁港だったのに、近代化に乗り遅れてしまった。柴山、香住の両方の港を再整備して近代化し、遊休施設も活用していく。
- ・カニが核とはいえ、漁獲量を制限されているので、水産業全体で底上げを図っていくことが大事。その意味で後継者の確保をどうしていくかも大きな問題。
- ・条件不利のこの地域で阪神間と同じことはできない。低密度地域ならではの産業や、それを支える価値観を育てていかないとイケない。インバウンドに足を伸ばしてもらうために何が必要か。漁村の風景を見たいという人や、日本的な良さを生かした、ゆったりした暮らしを体験したい人はいるはず。まず、地元の人がそういう暮らしを謳歌して、それが地域のブランドになって、海外に打って出るといった形になるとよいのだが。
- ・田舎の波長があう若者が一定数いることは確かなので、そういう若者に選ばれる地域になりたい。今年来た地域おこし協力隊の若者は、大阪の大手プラントメーカーをやめて、木工をするために来てくれた。自分でものを作ったという実感を求めているのだろう。そういう価値観に応えられる地域をつくっていきたい。

<新温泉町>

(人口の動き)

- ・人口減少は、社人研推計通りの傾向を辿っている。転出が圧倒的に多い状況は変わっていない。転出先は隣接する鳥取市が最も多く、次が豊岡、神戸、大阪といった順。広域的には鳥取圏域が一番で京阪神が二番。この傾向は何年も前から変わっていない。
- ・外国人が増加傾向にあるが、全体で約140名と、まだそれほど多くはない。以前は縫製業に中国人が入っている程度だったが、今は様々な業種に広がって、特に浜坂では漁業に入ってきている。旅館業界も外国人の取込みに力を入れようとしている。
- ・漁業ではインドネシア人が増えている。縫製業では中国人が多かったが、ベトナム人が増えている。水産加工業では中国人が多い。
- ・農業は外国人を入れるどころか、壊滅のおそれがある。外から担い手を呼んでこようという気力もなかなか起こらない状況だ。
- ・社会移動の大きな傾向は変わっていないが、ここ1~2年の動きとして、子育て世代の転出が減少している。高規格道路が鳥取方面に延びていき、これまで通勤の関係で鳥取に転出していた部分が、新温泉町に止まっているのではないか。
- ・今は役場周辺から鳥取中心部まで30分程度だが、6年後に高速が全線開通すれば、さらに短縮される。感覚的には、鳥取は町内と同じ感じになるだろう。
- ・Iターンはまだ数える程度。湯村や浜坂の街中はしがらみが少ないが、集落になると、都会の感覚とはかなり違って、なかなか生活するに至らないことが多い。
- ・空き家バンクに取り組んでいるが、役場としては「挨拶もしないヤツが来た」と言われるのがつらくて、「集落の人とまず話をしてみてください」というところから入る。そうすると、そこで話が終わってしまうことが多い。

(総合計画・創生戦略の状況)

- ・主要産業である観光振興を通じて人口減少を抑制するのが目標。温泉で特色を出していきたいが、宿泊者は10年前から微増、近年横ばいで、うまくいっているとは言えない。
- ・もう一つの柱の農業では、水産、畜産の単価アップが全体の農業収入を押し上げており全体としては悪くない。ただし、カニ、但馬牛と特定のものが牽引している状況なので他産品も伸ばしていかないといけない。
- ・狭義の農業は、担い手不足と米の単価下落で厳しい状況。産業としての規模は小さくても、山間部の集落を中心に関わっている人口が多いので、影響が大きい。
- ・今は集落ごとに区長が中心となって活動しているが、いよいよ区長が立てられない地域が出てきている。集落支援員制度を活用してそうした地域を支援していく。
- ・2050年の推計人口6,000人は、出生率2.81の「奇跡の町」として有名な岡山県奈義町と同規模。人口何人であろうと頑張っているところはあって、要はやり方だと思う。
- ・小規模集落が点在する状況は30年後も変わらないだろう。数軒になり、やがて人がいなくなるという流れが進んでいくが、かといって、一つの拠点に無理に移転させるようなことは現実的に難しい。富山市のコンパクトシティが有名だが、そういう施策が合う地域と合わない地域がある。新温泉町が真似してもうまくいかないだろう。

- ・今無人化しているのは、街から離れた集落で、水道もその集落で完結する簡易水道だから、それを閉鎖するだけの話。町道の管理は、人がいなくなれば疎になるし、通常の除雪もしなくなるだろう。
- ・かなり以前に国の補助事業を活用して集団移転した後、通い農で維持されている集落があるが、今では通う人も1軒だけになり、いよいよその人がいなくなると、その地域は荒れ放題になるだろう。
- ・先祖からの土地を守らなければと思って住んでいるのは我々の世代までだろう。次の世代は、わざわざ不便な所に住む必要性を感じなくなって、生活するのであれば、それこそ鳥取でも良いということになるかもしれない。それがいつか、崩れるように一気に始まるのではないかと懸念している。
- ・大方圃場整備が終わっていてそれなりの農地がある集落でも、農地の維持ができないところまで来ている。

(今後の方向性)

- ・湯村、浜坂が観光で伸びれば、集落から出たいという山間部のニーズと合って、町が自動的にコンパクトに集約されていくのではないかな。
- ・漁業は、カニの底引き網が牽引しているが、単価が伸びているだけで、漁獲量は減っている。また、伸びているのは一部の大型底引きだけで、一人でやっているような小規模の底引きは伸びておらず、後継者もいない。本当はその辺りを伸ばしたい。
- ・漁獲量の減少の理由は、資源の枯渇であろう。カニも漁獲量を制限しているし、イカなどはもう獲れない。漁に出ても燃料だけ焚いている状態。北の海では、北朝鮮から漁業権を買った大型の中国船が根こそぎイカを獲っているとも聞いている。
- ・山陰海岸ジオパークも上山高原エコミュージアムも専門的なことをいくら言っても、一般の集客にはつながらない。もっと一般向けのPRに力を入れないといけない。
- ・ワーケーションをしたい人は、賑やかな雰囲気よりも、ジオパークのような落ち着いた環境を好むと聞いている。そうした新たな切り口で取り組みたい。
- ・それぞれの地域の基幹産業を支えるのに最低限必要な人口があるはず。人口減少はそこで一旦ブレーキがかかるのでないか。その下限の人口は、地域によって違うだろう。
- ・近くにどんな都市があるかも人口移動の大きな要素。新温泉町にとっては鳥取が大きな存在。山陰近畿自動車道が全線開通する頃には、北近畿豊岡自動車道も豊岡までつながり、但馬の交通が大きく変わる。国道9号の交通量が著しく落ち、湯村、八鹿、和田山などが通過点になっていく。豊岡への観光客は増えるが、人の動きは南北よりも東西方向になり、京都縦貫道を通るのが当たり前のルートになる。今はここからだ南に行って中国道に乗るか、篠山から抜けるか、どちらかのルートを使うが、全線開通すると、京丹後を通して京都に向かう流れに変わっていくと思う。
- ・湯村は浜坂インターから下道で10 km。いかに浜坂インターで下ろすかが生命線である。浜坂を但馬牛と温泉の力で拠点化していくことが大切ではないか。
- ・温泉はターゲット別の価格設定をしないと聞けない。今は良いものを出して、高い単価設定をしているが、例えば夏場はレジャーに来る若者向けのリーズナブルなメニューも考えていかないと聞けない。

<丹波篠山市>

(人口の動き)

- ・古民家を改修する人など、特化したポリシーを持った人の転入が顕著。空き家の入居も少なくとも100件はある。大阪にも比較的近いので、普段は大阪に住んで週末はこちらに来るといった週末起業のような人もいる。農家民泊も年2~3件開業している。地域おこし協力隊の応募も7~8人はある。
- ・東部から西部に人口が移動している。篠山口駅周辺への一極集中傾向がある。東部の人口減少が著しい。篠山口駅周辺では住宅開発が行われている。
- ・出生数が伸びない。2~3年前まで300人だったが、昨年は250人。その結果。毎年人口の1%、400~500人の減少が進んでいる。
- ・出生数の減少は、女性の年齢層が上がり、産む世代が減っているからだろう。つまり、すぐに回復するものではない。
- ・旧篠山産業高校丹南校跡に開校した篠山学園（介護士養成学校）にベトナムを中心に若い女性が100人くらい来ている。全寮制で、卒業者は必ずしも地元ではないが国内で就職する。この影響で近年続いていた100人ほどの社会減が、昨年は8人だった。
- ・他に目立った外国人の動きはない。人口4万人中の830人が外国人なので、人口シェア2%くらい。製造業での就業が多い。

(総合計画・創生戦略の状況)

- ・市では「住もう帰ろう運動」という定住促進事業と、19の旧小学校区中心にしたまちづくり協議会の活動支援に力を入れてきた。東部の京都府に近い地域の人口減少が著しく、定住促進の重点地区として住宅補助等を行っている。
- ・東部の多紀地区には、小学校に隣接して認定こども園を整備し、0~12歳まで一貫して子育てができるという形で定住対策を進めている。
- ・地方創生交付金を使った目玉事業が「農村イノベーションラボ」というインキュベーション講座の開設。JR篠山口駅で神戸大学と一緒にやっている。20代から50代までの人が、起業で成功している人の講義を聞きながら自分の起業プランを考えるという実践的な形式で行っている。現在5期目で、卒業生88名中22名が市内で起業。
- ・阪神間で昼間仕事をしている人が、電車一本で夜の講義に参加できるところが売りで、人口減少に歯止めをかけるようなものではないが、新しい人が入ってきて地域も刺激を受けており、一定の成果が出ている。
- ・イノベーションラボで事業承継の例はない。やるなら第二創業だろう。ゼロからスタートするよりはよいと思うので、商工会と一緒に発掘していきたい。
- ・観光系の取組が目立っている。観光客は目的によって動きが分かれており、篠山城跡にバスで来る団体客は短時間の滞在。河原町などの重要伝統的建造物群保存地区はゆっくり回る観光客が多く、インバウンドも少しある。中心部以外では福住。バルをしたり、空き家をカフェにしたりする取組が盛んになっている。
- ・気分的に元気になっている感じはするが、秋などの観光シーズン以外の入込は芳しくなく、地域経済への波及もそれほどではないので、現状に甘んじてはいけなない。

(今後の方向性)

- ・農業生産の持続可能性と、暮らしを守るというところをしっかりとやらないといけない。
- ・学区再編の影響で、市内の2つの高校の人气が落ちている。南部は三田に出てしまう。高校の時期の人格形成の影響は大きいので、ふるさと意識が消えていくのではないかな。高校の規模も昔の半分になっている。高校がどうなるのかという心配がある。
- ・企業は人材不足で悩んでいる。市内の新卒者に求人をかけても地元の企業に就職する人は少ない。いい企業はたくさんあるのに選んでもらえない。
- ・買い物弱者対策が必要。公共交通を使えない人の生活をどうするか。移動販売に取り組もうとしている。社会福祉協議会と事業者と話をしているが、サービスを始めたとして本当に使ってもらえるのかどうか。
- ・今ある農村を維持していきたい。集約は考えておらず、今いるところで住み続けられる方法を考えている。実際すべてを維持できるかどうかは難しい。30年後にはなくなっているところもあるだろう。
- ・自治会の運営も難しい。統合して役員の負担を減らしたり日役を手分けしたりもしているが、範囲が広がって手間もかかる。合併しただけではうまくいかない。仕組みを変えないといけない。
- ・区長の負担を減らすために自治協議会というハコを作って10年が経つが、これも、これからずっと維持できるのかという話になっている。器を変えるだけでは限界がある。自分たちの意識を変えることも含めて、20年後、30年後まで地域をどう維持していくかを考えないといけない。
- ・篠山口駅と高速 IC のある味間地区だけ人口が伸びている。宅地があると人は来るが、民間の分譲地がもう駅前くらいしかない。商業機能も味間周辺に集まっている。
- ・30年ほど前に整備された篠山口駅近くの高台の戸建ての団地は、高齢化が進み、住民の足の確保が問題になってきている。
- ・神戸大学との連携を始めて15年ほどになる。市内のまちづくり協議会ごとに学生が1年間の実習に入り、地域の手伝いなどをする。その人たちが作ったクラブの一つ「にしき恋」は、現在メンバーが150人ほどいて、活発に活動している。
- ・市からは県民局と一緒に学生団体に対して交通費の補助をしており、神戸大学以外の大学も地域に入ってきている。学生が来ると地域も刺激を受ける。そこから就農した人や市役所に就職した人も出ている。

<丹波市>

(人口の動き)

- ・出生数が減少。年 500 人程度の水準が、直近では 400 人くらいまで落ち込んでいる。下げ止まっていない。社会減も概ね 300 人の転出超過が続いている。
- ・丹波市には高等教育機関がほぼないので若者がいったん転出するのは仕方ないが、その後の戻りが弱いのを何とかしないとイケない。男性は比較的戻ってくるが、女性がほぼ戻ってこない。
- ・全県に比べると第二子の生まれる割合が高い。結婚して第一子が生まれると第二子、第三子とつながっていきやすいのが本市の特徴。
- ・転出先は大阪や神戸といった都市部が多い。丹波篠山や福知山への移動も多い。福知山市は若者が一旦京都市などに転出しても、その後かなり戻ってくると聞く。福知山市の出生率も 1.88 と高い。
- ・女性は阪神圏、または東京圏の仕事に興味がある。福知山、三田、西脇などの工業団地に就職する男性は多いが、女性は工業団地の仕事に魅力を感じていない。
- ・市内の動きとしては、周辺部から中心部の交通利便性が高い地区へ流れている。市内の 25 自治協議会で人口が増えているのは石生（イワ）地区で、若い世代の住宅が増加。
- ・目立った動きではないが、企業で働いている外国人が少しずつ増えている。主に中国人・ベトナム人。7~8 年前まで 600 人台だったが、現在 900 人くらいになっている。

(総合計画・創生戦略の状況)

- ・前回の戦略で 2060 年の目標人口を 5 万人としていたが達成困難である。直近の状況を反映し 4 万 1 千人に下方修正した。出生率を人口置換水準まで高め、進学・就職による社会減の 75% が回復することで達成できる人口規模である。
- ・出生率が低下傾向にある。次の世代が育たないと、人口は維持できない。社会増ばかり狙っていても、地域の担い手不足は解消されない。

(まちづくりビジョンについて)

- ・総合計画、創生戦略とは別に、独自に「まちづくりビジョン」を作成した。人口減少、少子高齢化が進む中で、旧 6 町の都市構造をどう考えるのか、どうすれば住みよいまちになるのかを示すもの。人口減少対策のハード面を担うビジョンという位置づけ。
- ・このビジョンとペアになるのが、小学校区ごとの自治機能のあり方。自治組織の再編、見直しが必要。地域にどういう自治機能を持たせるのか、行政との役割分担をどうするか、自治協議会を持続可能なものにするためにどうすればよいか、どんな支援が必要かといったことを今議論している。
- ・ビジョンで描く 20 年後の未来像は、市の中心部に都市機能の一定の集積を進めつつ、各地域が都市機能を分担し、住み慣れた地域で住み続けられるデザインとした。
- ・氷上、春日、柏原の市街地を結ぶエリアを中心部とし、周辺に 3 つの区域を設定して、それぞれに生活関連サービスの集積ゾーンを設ける方向性を示している。
- ・現在の分庁舎方式が非効率なので、将来的には中心部に統合庁舎を設置する方向を示しつつ、周辺部が不便にならないよう各地域に窓口は残すこととしている。

- ・公共交通、行政機能、地域自治など、将来のあるべき姿を整理したもので、今後はこれに基づき関連の計画を策定し、施策を推進するという方向に持っていきたい。
- ・このビジョンは本市独自のもので、他の自治体に同様のものはない。立地適正化計画であれば、居住誘導が付いてくるが、ビジョンはそういうものではない。コンパクトシティを目指すものでもない。

(今後の方向性)

- ・まちづくりビジョンをどう具現化するかが難しいところ。市だけではできないので、県の新ビジョンには期待している。これまでも、丹波の森構想に基づく現行ビジョン「丹波の森づくり」が後ろ盾となってきた。新ビジョンも、本市のまちづくりビジョンの後ろ盾となるようなものになってほしい。
- ・女性が戻ってこない理由は魅力的な仕事がないこと。男性と異なり女性が重視する仕事は「子育てとの両立」「時間の制約にとらわれない」「キャリアを生かした起業」といったもの。中山間地域の産業構造では対応が難しい。実際にそういう仕事はあるのかもしれないが、マッチングがされていない。
- ・男性の主な仕事は、兼業農家で製造業に携わっている人が多い。製造現場に女性は入りづらい。女性は総じてクリエイティブで、男性より起業意識が高い。
- ・小規模集落は増えているが、無人化まではしていない。自治会単位よりも、小学校区と自治会をつないで、どういう地域を目指すかが大事だと考えている。
- ・市島への移住者が多いと言われるが、Iターンは今や全地域に入っており、市島に限られない。昨年のIターンは把握しているだけで52組。その前年は29組。市の窓口を通してだけでこれだけあるので、本当はもっとあると思う。
- ・就農以外にもいろいろな働き方で移住している。生活利便性ではなく、人に出会えたとか好きなものがあったとか、丹波の素材が気に入って移住しているということだろう。利便性では都市部が有利なので、やはりストーリーが重要だ。
- ・丹波市の移住相談の窓口は若い人でやっている。相談員はみんなIターンかUターンの人だ。相談員が若いと、若い人の移住につながりやすいようだ。

<洲本市>

(人口の動き)

- ・年間出生数 300 人、死亡数 600 人で 300 人の自然減、転入 1,200~1,300 人、転出 1,600 人で 300 人の社会減、計 600 人の人口減少が近年の状況。上下はあるが、合併以降この状況が続いており、この減り幅をどう抑えるかが課題。
- ・特に顕著なのが中心市街地の人口減少・高齢化。商店街の寂れ具合に拍車がかかっている。商店街衰退の主な要因は、大型量販店の進出。
- ・中心市街地の人口減少の主な要因は、高齢世帯の死去と子世帯との同居のための転出。島内唯一の DID がある洲本市街地の半径 1km 圏に市人口 4 万人の半分が住んでいるが、その減少が一番著しい。
- ・淡路市の社会増減がほぼゼロで推移しており、次の国調で当市を抜くだろう。この差は「位置」の違い。淡路市なら大阪・神戸への通勤が容易。旧東浦で特に増えているのはそのため。当市から旧東浦へ転居する人も多い。
- ・観光客にしても、京阪神の日帰り圏にある淡路市は年 1,000 万人だが、当市は 50~60 万人を行ったり来たりの状況。
- ・市内への通勤通学が減少。昼夜間人口比率は現在 110%程度で、年 1%ずつ減っている。
- ・小規模集落は現在 17 箇所。南部の灘、竹原、五色の山側などに多い。

(外国人の状況)

- ・外国人住民は現在約 330 人で近年増加傾向。20 代、30 代が増えている。増加が目立つ小路谷(ワダニ)、安乎(アハ)はホテル、五色町鮎原(アハラ)はミサキ電機に勤めている人が集住しているため。介護や農業の現場にはまだあまり入っていない。
- ・住民とのトラブルなどは聞かない。小路谷も五色も企業が用意した寮や賃貸住宅に居住しており、会社側のフォローができています。ただ国民健康保険料と住民税を滞納したまま帰国する人がおり、滞納額が少しずつ積み上がっている。

(総合計画・創生戦略の状況)

- ・仕事がないと定住は進まない。そこから組み立てていかないと次の展開が難しいというのがこの 4 年間の取組の結論。20 代、30 代の若い移住者の仕事は ICT 系や調理師等の免許関連が多く、サラリーマンは少ない。サラリーマンの仕事があれば来てくれるが、それを期待するのは難しい。
- ・情報発信が足りない。そもそも知られていないので、人が来ない。旅行に来て、試しに住み、そこから定住につながるという話だと思うが、そもそも知らなければそういった流れにもならない。
- ・洲本温泉はあるが、それ以外の観光コンテンツが乏しい。淡路市、南あわじ市の間で埋没している。お城、歴史、街歩きと体験をパッケージ化してインパクトを高める工夫をしていく必要がある。
- ・中心市街地が空き家ばかり。既存不適格でそのままでは売れない建物が 2 千件はあり、うち 1/4 は危険空き家。この空き家をどうしていくかが今後大きな課題
- ・I ターン移住者は年間 100 人超。割合としては農業を希望する人が多く、五色が多い。

農業では「親方制度」として3年程度で地域に溶け込んでもらえるような仕組みで取り組んでいる。支援施設も五色にあり、無償で泊まれる施設もある。

- ・仕事は何でもいいという人は洲本市街が多く、古民家・空き家を改修して飲食店を開く人が多い。ただ1年経ってどれだけ残っているのかという問題もある。
- ・人口減少が進むと消滅する地域も出てくるだろう。地域おこし協力隊や大学と連携して若者を呼び込む取組をしており、少しずつ広がりを見せている。そうやって来て来てくれている人を大事にして、人が減っても楽しい地域を創っていきたい。

(今後の方向性)

- ・移動手段を確保する必要がある。自動運転には期待するが到来まで待てない。民営バス路線に代えてコミュニティバスを走らせる。この10月から市域を越えて運行している。市域越えのバスを増やしきたい。バス会社に対する赤字補填補助をやめて、利用者の乗車運賃の半額助成を青天井で始めたところ、利用者が増えている。
- ・シャッター街の再生などにより、交通手段を使わなくても生活できる街づくりもやらないと街の将来像が描けない。シャッター街の再生、歩いて移動できる環境の整備、買い物支援などを組み合わせてやっていかないといけない。
- ・賑わいづくりなど民間主導の活性化も当然あってよいが、それが島外の事業者で、地元にお金が落ちないような形では意味がない。地域の中でお金が循環する仕掛けづくりに地道に取り組んでいくことが大事だと思う。
- ・学力重視の教育ばかり頑張ると、島の人口を減らすことになる。大学に行かずに高校を出て地元で仕事をしていく人を育てる道筋も大切にしないといけない。
- ・仕事が必要だが、誰もが起業できるわけではない。伝統工芸を含む既存の自営業者が大量に廃業しているので、現役の間に次代にバトンタッチできるよう跡継ぎのマッチングができればよいのだが。

<南あわじ市>

(人口の動き)

- ・人口は、社人研推計から更に下振れしている。生産年齢人口の女性が激減し、出生数が減少。多子世帯を増やす施策に力を入れてきて、第1子対策が出遅れた形。
- ・転出、転入ともに増加しており、50歳以上のリタイア組の転入増が目立つ。島外に出てしまう若い世代にいずれは戻ってきてほしいという思いで、小学校から淡路人形浄瑠璃を使った郷土学習に取り組んでいる。
- ・転入者は利便性を見て場所を決めている。津波の浸水エリアに来る人はまずいない。
- ・転出先は徳島より神戸が多い。若年層の転出超過幅がこの5年で減少傾向。200万円のマイホーム補助金、2015年度に始めた2人目以降の保育料無料化の効果で夫婦のどちらかが南あわじ市出身というUターンが増えている。

(外国人の状況)

- ・外国人労働者が増加傾向。職種では玉ねぎの皮むき、カット野菜の出荷など農業関連が多い。技能実習で約230人が市内に居住している。技能実習を斡旋する組合が市内にある。国別ではベトナム人が多い。介護施設やホテルにも少しずつ入り始めている。
- ・外国人労働者は集合住宅に住んでおり、表面化はしていないが、周辺の住民が不安を持っているという声は聞いている。治安が悪くなっているということではないが。
- ・斡旋している組合がついているので民業任せの状態。防災面でいざという時に外国人をきちんと案内できるのか、危機管理部門が頭を悩ませている。

(総合計画・創生戦略の状況)

- ・国の方針に沿った創生戦略があるが、現市長になってから教育に力を注いでいる。「学ぶ楽しさ日本一」を掲げて教職員も含めて楽しい学校を作る取組を進めている。
- ・重視しているのは、詰め込み型の教育ではなく、入手した情報を人に伝える「表現力」と淡路育ちとしての「誇り」。農家の親も、子どもには勉強してサラリーマンになれと言ってきたが、これからはそうではない。南あわじの農業は生産性の高い「稼ぐ」農業だ。そこを強調して、いずれは帰ってこいと胸を張って言えるようにしたい。
- ・市内唯一の高校、三原高校の定員が削減傾向にあるので、地域でコンソーシアムを組んで三原高校の魅力を上げる取組を進めている。その一つが人形浄瑠璃であり、次にはスポーツで特色づくりをしていきたい。
- ・アフタースクールにも力を入れている。放課後子ども教室と学童保育を一体化し、サッカー、プログラミング、ドローン体験、地域住民が講師を務める文化学習ほか、貴重な体験ができる場づくりを進めている。ただ、財源が厳しい。文科省の補助金が取れず、市の負担が膨らんでいる。全校でやると一般財源で1億5千万円必要になる。
- ・観光交通の強化が必要。車に依存しない交通網を整備し、インバウンドが公共交通で島内を巡れるようにしたい。観光も交通も島全体で一つの枠組みでやらないといけない。
- ・更なる合併が必要とは考えていない。分野ごとに一つにした方が効率的な業務を一つにしていくという話だろう。
- ・小規模集落は、灘、沼島、丸山、旧南淡の山間部など。自治会活動ができず、公共施設

の清掃や草刈りもままならない。耕作放棄地は3年放っておくと雑木林、藪に戻る。

- 元気な高齢者が多いが、就業率は40%程度。半数以上が働いていない。高齢者活躍推進事業を立ち上げてボランティアも含めて20時間以上の就労を進めている。

(今後の方向性)

- 人が減るのは仕方ない。食い止めるのは無理。だからといって見ているだけではだめ。何かしらのアクションを起こさないといけない。それは行政だけではできない。いかにして地域の人と一緒にやっていくか。住民と一緒に汗をかく姿勢が大事。
- UターンもIターンも就農希望者が多い。Uターンの場合は、大抵家に農機具があり、就農しても自立しやすい。Iターンの場合は、親方農家の下で自立を目指す、なかなか続かないし、余っている農地は条件の良くない耕作放棄田が多い。結果としてUターンの方が定着しやすいので、近年はUターン向けの施策に舵を切っている。Iターンは有機や無農薬をやりたい人が多く、周りから歓迎されないということもある。
- お産を取り扱う病院が市内にない。安心して子育てできるということを目指している割には産む場所がないと言われる。
- 有効求人倍率は高いが、高校生たちは「仕事がない」という。仕事はあっても魅力がない、やりたい仕事がないという先入観がある。しかし、探せば面白い仕事はある。淡路島にこんなに働く場所があるということを知ってもらうことが大切。
- 人口が減った時に何が困るのかというのが実は誰も見えていない。
- 限界集落になっていくのは仕方がない。その段階でどうしていくかを考えるしかない。自分たちの地域は自分たちで守る。これが基本で、行政はそれを支援する。そうでないと机上の空論になってしまう。

<淡路市>

(人口の動き)

- ・社会増減は改善しているが、出生数が減少している。一昨年の290人から昨年は210人と急減した。これは県立病院における里帰り出産の受入停止の影響ではないか。
- ・市内の唯一の産科である聖隷淡路病院の産科がこの12月で受入終了する。なんとか代わりの産科医を探そうとしたがダメだった。若年世帯の移住が増えてきている中で、これは大きな痛手だ。
- ・移住者は少しずつ増えている。定年を迎えた人のUターンに加え、Iターンも結構来ている。Iターンに人気なのが旧東浦。交流人口は西浦が多い。西日のきつい西浦が、今はサンセットで人気だ。
- ・移住者の仕事は農業が多いが、来てから探す人もいる。夢舞台に仕事があるし、企業誘致の動きもある。阪神間に通勤する人もいる。神戸市、芦屋市と一緒にやってきた移住事業の成果が出始めている。しかし、それ以上に学区再編で若者が外に出て行く。
- ・一般住民の転出先は神戸市が多い。次いで大阪府だが、全体では県内が多い。
- ・市内の人口の動きは、西浦（瀬戸内海側）が減少し、東浦（大阪湾側）が伸びている。合併以降で増えているのは、旧東浦町域のみ。
- ・市内の外国人は微増傾向にある。仁井小学校跡にできた日本語学校「グローバルアカデミー」にはベトナム人が多い。パソナグループが一宮中学校跡に開設した「AYF (Awaji Youth Federation)」にはヨーロッパ、アメリカはじめ様々な国から人が来ている。
- ・パソナグループが運営する「ニジゲンノモリ」のダンスメンバーとして技能労働者の枠で入ってきている外国人もいる。
- ・AYFは日本の文化を学んで自国に帰る人が多いが、国内で起業する人もいる。

(総合計画・創生戦略の状況)

- ・2015年度の学区再編が決定的。これで学生の動きが変わった。学区再編で洲本向きの子が神戸向きになり、高校段階で島外に出る子が増えた。学区再編は時代の流れで仕方ないし、子どもの可能性を引き出すものだが、田舎町にとっては痛かった。
- ・市内の2つの高校の立て直しをやっている。統廃合の渦に飲み込まれないように頑張っている生徒を確保しないといけない。淡路高校はコミュニティバスを配置したが、津名高校は今のところ手立てがない。同等の学校が対岸にあるので、選択肢としての存在感が薄くなっている。私立の蒼開（旧柳学園）はもっと厳しい状況と聞いている。
- ・淡路島の大きな課題が二次交通の脆弱性。対応の出遅れが響いている。現在高校生への通学費助成はないが、大学生は上限5万円まで助成している。二次交通はやりようによってもっと利用者を増やせるはず。
- ・関西看護医療大学、総合リハビリテーション専門学校の学生は地元に着しない。遠方から来る学生は市内に住んでくれるが、実際は通いが多く、学生専用の送迎バスで舞子まで届けている。
- ・出生率の低下を止めないと若者がいなくなる。南あわじ市の農業のような底力がうちにはなく、どこかに就業して収入を得る形を取らないと定住するのは難しい。

- ・事業所誘致では、夢舞台周辺で動きがあり、小学校の空き校舎の活用についても近々目処が立ちそうだ。残っているのが津名の企業庁用地。
- ・廃校の活用は順調に進んでおり、来年からは佐野小も地域で活用することに決定。視察の受け入れができるような良い事例になると思う。

(今後の方向性)

- ・地元企業で働く人の確保が課題。事業者は頑張っているが、人がいない。
- ・淡路島全体で年間の交流人口が1,300万人ある。たいてい市内に立ち寄るわけで、この交流人口の増加を定住人口の確保につなげないといけない。
- ・定住者が増えないと、出生率も上がらない。「いつかきっと帰りたくなる街」を掲げて、関連の施策を丁寧に展開していくしかない。阪神間に一番近い位置にあるので、可能性はあるはずだ。
- ・大学との連携も更に進めたい。大正大学と包括連携を締結した。地域実習として学生の受入れをする中で、島内に定着する人が一人でも出ればという思いでやっている。
- ・地元企業で働く人を増やすことが第一の課題だが、住宅都市を目指すという方向性も考えられる。地域に分散するいろいろな資源や、東浦と西浦それぞれの地域性といった地理的特性を生かす将来展望として、働く場所は島外でも住む場所は島内という方向の可能性はある。
- ・JCが3市合併の旗を振っているが、更なる合併には今のところ意味を見出しにくい。定住自立圏の中心市は洲本市だが、淡路市は神戸方面、南あわじ市は四国方面と生活圏域が異なっていることもあり、3市が1市にまとまる必要性が乏しい。

【参考1】市区町別主要指標

項目	面積		可住地面積 比率	人口(人)					人口密度 (人/km ²)	75歳以上 人口比率		転入超過数 (人)	合計特殊 出生率	出生数 (人口千人当たり)	死亡数
	km ²	km ²		1980年	2015年	増減率	2050年	増減率		2015年	2050年				
	年次	2015年	2017年	a	b	a→b	c	b→c	2015年	2015年	2050年	2019年	2015年	2018年	2018年
兵庫県	8,401	2,783	33%	5,144,892	5,534,800	8%	4,230,509	-24%	659	12.7%	21.9%	▲ 7,260	1.48	7.2	10.4
神戸市	557	333	60%	1,367,390	1,537,272	12%	1,148,446	-16%	2,760	12.8%	27.6%	▲ 187	1.37	6.8	10.0
東灘区	34	27	81%	183,284	213,634	17%	174,723	-5%	6,280	11.2%	27.0%	▲ 18	1.51	7.6	8.2
灘区	33	14	42%	142,313	136,088	-4%	111,711	-22%	4,167	12.7%	26.0%	517	1.39	7.3	9.6
中央区	29	23	79%	115,329	135,153	17%	144,936	26%	4,665	12.0%	21.7%	1,096	1.07	7.9	9.2
兵庫区	15	11	74%	142,418	106,956	-25%	94,370	-34%	7,286	15.2%	22.1%	623	1.42	7.0	13.0
北区	240	99	41%	164,714	219,805	33%	126,901	-23%	915	13.0%	36.1%	▲ 892	1.34	5.6	10.0
長田区	11	10	89%	163,949	97,912	-40%	69,010	-58%	8,619	16.7%	27.2%	261	1.35	5.1	14.0
須磨区	29	22	75%	155,683	162,468	4%	106,755	-31%	5,616	14.3%	29.7%	▲ 195	1.31	6.8	10.9
垂水区	28	24	87%	212,758	219,474	3%	157,034	-26%	7,808	14.0%	26.3%	▲ 363	1.57	7.5	10.6
西区	138	103	75%	86,942	245,782	183%	163,006	87%	1,781	9.9%	31.3%	▲ 1,216	1.32	5.9	8.4
阪神南	169	125	74%	1,015,724	1,035,763	2%	877,955	-14%	6,123	11.8%	25.0%	▲ 121	1.49	8.0	9.5
尼崎市	51	51	100%	523,650	452,563	-14%	395,004	-25%	8,923	12.7%	22.7%	834	1.52	8.3	10.9
西宮市	100	63	63%	410,329	487,850	19%	404,904	-1%	4,880	10.7%	26.4%	▲ 948	1.49	8.0	8.1
芦屋市	18	11	61%	81,745	95,350	17%	78,048	-5%	5,162	13.4%	29.9%	▲ 7	1.34	6.4	9.5
阪神北	481	197	41%	539,745	721,690	34%	589,711	9%	1,501	12.0%	27.9%	▲ 449	1.41	7.0	9.0
伊丹市	25	25	100%	178,228	196,883	10%	188,575	6%	7,875	10.8%	22.1%	301	1.57	8.0	8.5
宝塚市	102	45	44%	183,628	224,903	22%	187,580	2%	2,209	12.7%	30.7%	255	1.44	7.5	9.6
川西市	53	33	61%	129,834	156,375	20%	110,490	-15%	2,926	14.3%	30.7%	▲ 4	1.36	6.2	10.0
三田市	210	74	35%	36,529	112,691	208%	81,924	124%	536	9.5%	28.1%	▲ 756	1.27	6.5	7.2
猪名川町	90	21	23%	11,526	30,838	168%	21,142	83%	341	11.5%	38.4%	▲ 245	0.94	4.1	8.6
東播磨	266	224	84%	606,701	716,633	18%	596,292	-2%	2,691	11.0%	21.5%	▲ 509	1.56	8.1	9.8
明石市	49	47	96%	254,869	293,409	15%	294,974	16%	5,937	11.2%	19.4%	929	1.58	9.6	9.7
加古川市	138	104	75%	212,233	267,435	26%	189,626	-11%	1,931	10.7%	24.4%	▲ 969	1.56	7.1	9.5
高砂市	34	30	88%	85,463	91,030	7%	58,728	-31%	2,648	11.1%	23.7%	▲ 386	1.52	7.3	11.0
稲美町	35	34	97%	27,609	31,020	12%	22,652	-18%	888	11.7%	24.6%	▲ 6	1.36	5.7	11.2
播磨町	9	9	100%	26,527	33,739	27%	30,312	14%	3,695	10.1%	17.5%	▲ 77	1.66	7.9	9.1
北播磨	896	400	45%	279,672	272,447	-3%	186,595	-33%	304	14.4%	28.2%	▲ 1,401	1.52	6.3	11.2
西脇市	132	39	29%	46,380	40,866	-12%	25,436	-45%	309	15.9%	28.2%	▲ 310	1.68	6.2	12.6
三木市	177	103	58%	78,297	77,178	-1%	51,230	-35%	437	14.4%	30.0%	▲ 387	1.34	5.5	11.7
小野市	93	58	62%	43,574	48,580	11%	37,966	-13%	523	12.1%	24.5%	▲ 161	1.63	7.8	9.3
加西市	151	85	56%	51,051	44,313	-13%	30,414	-40%	294	15.3%	29.0%	▲ 222	1.46	5.5	11.4
加東市	158	80	51%	34,275	40,310	18%	32,865	-4%	256	12.8%	24.3%	▲ 116	1.68	8.3	9.9
多可町	185	35	19%	26,095	21,200	-19%	8,685	-67%	114	18.2%	45.1%	▲ 205	1.45	4.1	13.6
中播磨	865	296	34%	542,545	579,154	7%	462,703	-15%	669	11.8%	21.6%	▲ 466	1.59	7.6	10.7
姫路市	534	228	43%	494,825	535,664	8%	437,937	-11%	1,002	11.5%	21.2%	▲ 200	1.59	7.7	10.4
市川町	83	20	24%	15,230	12,300	-19%	5,129	-66%	149	16.7%	36.2%	▲ 120	1.34	3.2	15.1
福崎町	46	21	46%	18,089	19,738	9%	14,513	-20%	431	13.0%	23.6%	▲ 73	1.60	7.2	11.8
神河町	202	26	13%	14,401	11,452	-20%	5,125	-64%	57	18.6%	37.7%	▲ 73	1.52	5.1	15.3
西播磨	1,567	335	21%	292,743	260,312	-11%	152,962	-48%	166	14.7%	28.7%	▲ 1,482	1.50	6.0	12.5
相生市	90	22	25%	41,498	30,129	-27%	18,406	-56%	333	16.5%	27.0%	▲ 253	1.59	6.5	13.6
赤穂市	127	46	36%	51,046	48,567	-5%	25,728	-50%	383	14.9%	34.1%	▲ 210	1.43	6.2	12.6
宍粟市	659	72	11%	49,084	37,773	-23%	16,438	-67%	57	16.9%	34.6%	▲ 345	1.56	5.3	14.4
たつの市	211	83	39%	81,167	77,419	-5%	50,873	-37%	367	13.0%	25.3%	▲ 346	1.53	6.4	11.6
太子町	23	16	70%	26,686	33,690	26%	29,210	9%	1,490	10.0%	21.4%	▲ 81	1.56	7.4	9.0
上郡町	150	38	25%	18,388	15,224	-17%	6,266	-66%	101	16.3%	38.1%	▲ 110	1.18	3.3	13.4
佐用町	307	58	19%	24,874	17,510	-30%	6,040	-76%	57	22.2%	48.0%	▲ 137	1.42	4.3	16.6
但馬	2,133	367	17%	215,485	170,232	-21%	84,111	-61%	80	18.5%	35.9%	▲ 1,409	1.68	6.1	15.0
豊岡市	698	144	21%	96,448	82,250	-15%	45,427	-53%	118	17.0%	34.4%	▲ 588	1.71	6.2	13.8
養父市	423	67	16%	33,979	24,288	-29%	9,116	-73%	57	20.4%	41.8%	▲ 206	1.62	6.0	17.7
朝来市	403	65	16%	36,850	30,805	-16%	17,265	-53%	76	18.3%	31.9%	▲ 227	1.67	6.9	14.9
香美町	369	51	14%	26,694	18,070	-32%	6,260	-77%	49	21.1%	44.8%	▲ 252	1.82	5.6	14.9
新温泉町	241	40	17%	21,514	14,819	-31%	6,043	-72%	61	21.3%	40.1%	▲ 136	1.43	4.6	17.7
丹波	871	217	25%	114,667	106,150	-7%	61,717	-46%	122	17.3%	31.8%	▲ 482	1.54	6.4	13.5
丹波篠山市	378	96	25%	41,685	41,490	0%	25,356	-39%	110	17.4%	32.1%	▲ 210	1.45	5.9	14.1
丹波市	493	122	25%	72,982	64,660	-11%	36,362	-50%	131	17.2%	31.6%	▲ 272	1.61	6.7	13.1
淡路	596	288	48%	170,220	135,147	-21%	70,016	-59%	227	18.3%	32.9%	▲ 754	1.62	5.4	16.0
洲本市	182	79	43%	54,826	44,258	-19%	21,930	-60%	243	17.1%	33.7%	▲ 388	1.41	5.2	15.2
南あわじ市	229	98	43%	57,744	46,912	-19%	25,750	-55%	205	17.8%	31.3%	▲ 251	1.83	6.3	15.5
淡路市	184	111	60%	57,650	43,977	-24%	22,336	-61%	239	20.1%	34.0%	▲ 115	1.62	4.8	17.4

項目	世帯数 (世帯)	単独世帯 割合	高齢単身 世帯割合	昼夜間 人口比率	事業所数 (所)	製造品 出荷額等 (億円)	1人当たり 市町民所得 (千円)	持ち家 比率	小学校数 (校)	在留外国 人数(人)	観光入込 客数(千人)	交通事故発生 件数(人口千 人当たり)	刑法定罪知件 数(人口千人 当たり)	知事選挙 投票率
単位	2015年	2015年	2015年	2015年	2016年	2017年	2017年度	2015年	2019年度	2019年	2018年度	2019年	2018年	H29.7.2
兵庫県	2,315,200	32.7%	12.4%	96%	214,169	156,659	2,966	65%	761	112,722	137,006	4.1件	8.0件	40.9%
神戸市	705,459	39.7%	14.2%	102%	66,882	32,556	3,147	58%	168	49,554	35,380	3.6件	8.7件	39.6%
東灘区	97,265	38.2%	11.8%	95%	7,291	6,839	...	58%	16	6,326	...	2.4件	5.7件	41.7%
灘区	67,407	47.0%	13.1%	96%	5,357	2,003	...	50%	13	4,747	...	3.3件	8.3件	42.3%
中央区	81,022	62.2%	16.3%	211%	21,258	2,341	...	34%	9	13,426	...	6.6件	27.1件	37.2%
兵庫区	57,875	53.9%	19.6%	116%	6,833	6,539	...	43%	8	6,358	...	4.6件	15.5件	36.7%
北区	87,126	26.4%	12.3%	83%	5,105	1,380	...	71%	34	2,213	...	3.0件	4.3件	38.9%
長田区	48,780	45.7%	20.5%	101%	5,544	1,304	...	54%	13	7,197	...	4.2件	12.7件	35.8%
須磨区	73,278	35.0%	15.4%	88%	4,129	110	...	63%	21	3,572	...	2.6件	5.4件	42.2%
垂水区	95,473	33.0%	14.7%	78%	5,026	54	...	64%	25	2,726	...	3.1件	5.5件	39.7%
西区	97,233	27.9%	9.3%	95%	6,339	11,985	...	69%	29	2,989	...	4.3件	6.0件	39.0%
阪神南	463,279	37.6%	12.4%	92%	34,102	16,606	3,196	55%	93	20,665	14,475	3.5件	9.8件	37.5%
尼崎市	210,433	41.2%	13.7%	96%	17,333	13,682	2,996	51%	42	11,839	1,978	4.0件	12.6件	33.0%
西宮市	210,965	35.0%	10.6%	90%	13,895	2,894	3,243	57%	43	7,121	12,159	3.1件	8.0件	40.4%
芦屋市	41,881	32.4%	14.3%	83%	2,874	31	3,903	67%	8	1,705	338	3.5件	6.0件	44.8%
阪神北	287,568	26.1%	10.7%	85%	18,384	14,335	2,885	73%	87	9,108	19,944	3.6件	6.5件	38.4%
伊丹市	78,903	27.7%	11.0%	91%	5,607	6,768	2,836	62%	17	3,254	3,037	5.0件	9.7件	36.1%
宝塚市	94,140	29.4%	11.4%	80%	5,423	579	3,001	72%	27	3,133	11,565	2.8件	5.2件	37.4%
川西市	62,675	24.4%	11.9%	80%	4,014	736	2,607	79%	17	1,344	2,304	4.0件	6.7件	39.8%
三田市	41,070	21.5%	7.0%	92%	2,730	6,174	3,194	80%	20	1,175	1,982	2.5件	4.3件	41.6%
猪名川町	10,780	13.8%	8.4%	76%	610	77	2,620	95%	6	202	1,057	2.0件	3.1件	42.6%
東播磨	286,009	27.2%	11.3%	91%	22,594	33,423	2,858	73%	76	8,642	9,416	4.7件	8.2件	39.5%
明石市	121,890	30.1%	12.7%	90%	8,937	11,972	2,879	67%	29	3,614	5,485	4.0件	8.5件	39.3%
加古川市	103,495	25.2%	9.8%	89%	8,291	9,468	2,760	76%	28	2,853	2,314	5.1件	9.0件	39.0%
高砂市	36,340	26.8%	11.3%	101%	3,182	7,875	3,001	77%	10	1,178	1,106	5.7件	5.9件	39.3%
稲美町	11,026	18.6%	10.0%	99%	1,141	1,823	3,014	88%	5	493	129	5.2件	5.5件	43.6%
播磨町	13,258	24.8%	10.9%	85%	1,043	2,285	2,912	75%	4	504	382	4.4件	7.5件	40.8%
北播磨	97,677	23.5%	9.9%	101%	12,433	12,614	2,702	79%	58	6,076	14,074	4.0件	5.9件	50.1%
西脇市	15,049	24.8%	11.6%	95%	2,245	805	2,511	75%	8	612	1,230	3.2件	4.6件	47.7%
三木市	28,653	22.3%	10.8%	99%	3,254	1,949	2,652	83%	16	1,693	5,044	5.2件	7.0件	56.5%
小野市	16,860	21.3%	9.2%	101%	2,012	2,867	2,813	79%	8	871	2,249	4.4件	5.8件	45.4%
加西市	15,364	22.7%	8.9%	105%	1,960	2,948	2,879	82%	11	1,185	921	3.8件	5.3件	48.3%
加東市	15,086	31.0%	8.4%	111%	1,807	3,563	2,810	66%	10	1,454	3,529	3.6件	7.2件	45.4%
多可町	6,665	16.8%	10.0%	90%	1,155	482	2,405	90%	5	261	1,101	1.7件	4.0件	53.3%
中播磨	227,839	28.8%	11.3%	100%	25,686	26,347	2,942	67%	79	12,094	10,327	6.2件	8.5件	37.0%
姫路市	212,801	29.3%	11.3%	101%	23,660	23,573	2,966	66%	67	11,341	9,036	6.4件	8.8件	35.5%
市川町	4,334	18.8%	11.0%	88%	494	312	2,355	92%	4	132	131	2.8件	4.6件	56.4%
福崎町	6,906	26.5%	9.9%	112%	971	2,238	2,916	76%	4	568	418	5.6件	5.4件	47.3%
神河町	3,798	18.7%	12.1%	85%	561	223	2,470	93%	4	53	741	1.5件	4.2件	68.4%
西播磨	94,817	22.7%	11.4%	95%	11,495	11,155	2,584	81%	60	2,233	6,252	4.1件	5.4件	50.0%
相生市	12,153	28.6%	15.0%	99%	1,293	970	2,412	77%	7	501	616	4.1件	4.2件	48.2%
赤穂市	18,729	25.9%	11.8%	96%	1,824	2,893	2,716	76%	10	368	1,413	3.0件	5.6件	43.1%
宍粟市	12,723	19.1%	11.2%	94%	2,306	632	2,411	87%	12	251	1,054	4.0件	3.9件	52.6%
たつの市	27,297	21.1%	9.8%	96%	3,293	4,393	2,737	81%	18	589	2,014	5.1件	6.7件	48.1%
太子町	12,092	20.0%	8.3%	82%	1,228	1,535	2,535	79%	4	260	159	5.5件	6.8件	47.6%
上郡町	5,715	22.2%	13.6%	96%	641	408	2,506	88%	3	131	302	3.2件	3.1件	70.9%
佐用町	6,108	22.4%	14.3%	100%	910	324	2,362	88%	6	133	695	1.5件	3.9件	59.7%
但馬	61,921	24.8%	12.2%	100%	10,112	3,072	2,408	80%	64	1,493	9,888	2.4件	4.3件	55.5%
豊岡市	30,189	25.4%	11.1%	102%	5,145	1,330	2,465	76%	29	770	3,834	2.0件	4.4件	51.2%
養父市	8,713	23.8%	13.5%	100%	1,318	541	2,255	85%	9	112	1,167	2.8件	3.9件	61.6%
朝来市	11,500	25.4%	12.4%	99%	1,727	829	2,512	80%	9	340	2,279	2.9件	4.9件	56.9%
香美町	6,228	22.7%	13.9%	94%	1,183	247	2,221	91%	11	141	1,501	2.1件	4.6件	59.1%
新温泉町	5,291	24.2%	13.9%	96%	739	125	2,342	88%	6	130	1,108	3.2件	2.6件	61.0%
丹波	38,131	23.5%	11.9%	96%	5,141	4,941	2,590	83%	36	1,773	4,683	2.5件	4.4件	50.3%
丹波篠山市	15,578	24.7%	12.7%	94%	1,913	2,623	2,661	82%	14	798	2,422	2.7件	5.6件	50.4%
丹波市	22,553	22.6%	11.4%	97%	3,228	2,317	2,544	83%	22	975	2,260	2.4件	3.6件	50.3%
淡路	52,500	27.8%	14.9%	99%	7,340	1,609	2,473	76%	40	1,084	12,567	3.6件	5.9件	53.8%
洲本市	18,081	30.7%	15.8%	103%	2,371	453	2,566	72%	13	327	1,216	4.0件	6.6件	45.3%
南あわじ市	16,968	23.4%	12.3%	97%	2,702	575	2,494	82%	16	401	2,728	3.0件	5.4件	49.4%
淡路市	17,451	29.1%	16.5%	98%	2,267	582	2,358	76%	11	356	8,623	3.8件	5.8件	67.0%

【参考2】市区町別人口の動き（2017年1月1日～2020年1月1日）

	2017年 1月1日 人口(人)	2017年中の増減（増減数：人 増減率：%）										2018年 1月1日 人口(人)	2018年中の増減			
		増減数	増減率	出生数	死亡数	自然 増減数	自然 増減率	転入	転出	社会 増減数	社会 増減率		増減数	増減率	出生数	死亡数
1 兵庫県	5,517,694	-17,079	-0.31	42,198	57,251	-15,053	-0.27	221,208	223,234	-2,026	-0.04	5,500,616	-19,107	-0.35	40,303	58,224
2 神戸市	1,535,161	-3,470	-0.23	11,565	15,675	-4,110	-0.27	79,343	78,703	640	0.04	1,531,691	-5,052	-0.33	10,711	15,785
3 東灘区	213,815	286	0.13	1,740	1,719	21	0.01	12,178	11,913	265	0.12	214,101	-26	-0.01	1,689	1,783
4 灘区	136,774	363	0.27	1,134	1,284	-150	-0.11	8,653	8,140	513	0.38	137,137	-295	-0.22	1,037	1,327
5 中央区	137,982	1,736	1.26	1,209	1,286	-77	-0.06	14,171	12,358	1,813	1.31	139,718	1,576	1.13	1,152	1,316
6 兵庫区	106,996	86	0.08	820	1,451	-631	-0.59	8,083	7,366	717	0.67	107,082	146	0.14	785	1,434
7 北区	217,728	-1,921	-0.88	1,404	2,213	-809	-0.37	6,899	8,011	-1,112	-0.51	215,807	-2,183	-1.01	1,246	2,229
8 長田区	97,036	-703	-0.72	610	1,459	-849	-0.87	5,239	5,093	146	0.15	96,333	-749	-0.78	546	1,462
9 須磨区	160,986	-1,012	-0.63	1,167	1,805	-638	-0.40	6,717	7,091	-374	-0.23	159,974	-1,002	-0.63	1,120	1,819
10 垂水区	219,053	-751	-0.34	1,851	2,396	-545	-0.25	8,588	8,794	-206	-0.09	218,302	-1,095	-0.50	1,658	2,331
11 西区	244,791	-1,554	-0.63	1,630	2,062	-432	-0.18	8,815	9,937	-1,122	-0.46	243,237	-1,424	-0.59	1,478	2,084
12 阪神南	1,035,227	-893	-0.09	8,618	10,083	-1,465	-0.14	46,737	46,165	572	0.06	1,034,334	95	0.01	8,398	9,960
13 尼崎市	451,405	-416	-0.09	3,796	5,145	-1,349	-0.30	19,533	18,600	933	0.21	450,989	442	0.10	3,792	5,050
14 西宮市	488,842	-563	-0.12	4,143	3,984	159	0.03	21,818	22,540	-722	-0.15	488,279	-36	-0.01	3,976	3,999
15 芦屋市	94,980	86	0.09	679	954	-275	-0.29	5,386	5,025	361	0.38	95,066	-311	-0.33	630	911
16 阪神北	721,194	-739	-0.10	5,403	6,451	-1,048	-0.15	28,350	28,041	309	0.04	720,455	-1,091	-0.15	5,115	6,588
17 伊丹市	196,844	328	0.17	1,714	1,672	42	0.02	8,351	8,065	286	0.15	197,172	1,068	0.54	1,588	1,705
18 宝塚市	225,338	287	0.13	1,722	2,078	-356	-0.16	9,516	8,873	643	0.29	225,625	-426	-0.19	1,691	2,197
19 川西市	155,756	-795	-0.51	1,010	1,586	-576	-0.37	5,329	5,548	-219	-0.14	154,961	-870	-0.56	979	1,584
20 三田市	112,405	-321	-0.29	806	822	-16	-0.01	4,272	4,577	-305	-0.27	112,084	-657	-0.59	731	838
21 猪名川町	30,851	-238	-0.77	151	293	-142	-0.46	882	978	-96	-0.31	30,613	-206	-0.67	126	264
22 東播磨	715,468	-25	0.00	5,897	6,773	-876	-0.12	25,109	24,258	851	0.12	715,443	-486	-0.07	5,839	7,099
23 明石市	294,185	2,380	0.81	2,730	2,764	-34	-0.01	12,479	10,065	2,414	0.82	296,565	1,946	0.66	2,819	2,872
24 加古川市	266,341	-1,390	-0.52	2,060	2,482	-422	-0.16	7,780	8,748	-968	-0.36	264,951	-1,435	-0.54	1,926	2,549
25 高砂市	90,332	-750	-0.83	662	902	-240	-0.27	2,656	3,166	-510	-0.56	89,582	-861	-0.96	654	1,016
26 稲美町	30,806	-168	-0.55	196	320	-124	-0.40	904	948	-44	-0.14	30,638	-160	-0.52	172	348
27 播磨町	33,804	-97	-0.29	249	305	-56	-0.17	1,290	1,331	-41	-0.12	33,707	24	0.07	268	314
28 北播磨	270,838	-1,808	-0.67	1,777	3,053	-1,276	-0.47	9,192	9,724	-532	-0.20	269,030	-1,783	-0.66	1,758	3,080
29 西脇市	40,347	-477	-1.18	264	485	-221	-0.55	1,050	1,306	-256	-0.63	39,870	-310	-0.78	259	518
30 三木市	76,657	-389	-0.51	474	855	-381	-0.50	2,540	2,548	-8	-0.01	76,268	-541	-0.71	437	906
31 小野市	48,329	-147	-0.30	352	499	-147	-0.30	1,655	1,655	0	0.00	48,182	-189	-0.39	384	455
32 加西市	44,001	-444	-1.01	260	554	-294	-0.67	1,288	1,438	-150	-0.34	43,557	-152	-0.35	249	510
33 加東市	40,686	-36	-0.09	338	364	-26	-0.06	2,190	2,200	-10	-0.02	40,650	-109	-0.27	343	402
34 多可町	20,818	-315	-1.51	89	296	-207	-0.99	469	577	-108	-0.52	20,503	-482	-2.35	86	289
35 中播磨	577,189	-2,079	-0.36	4,597	5,995	-1,398	-0.24	15,802	16,483	-681	-0.12	575,110	-1,862	-0.32	4,439	6,279
36 姫路市	534,117	-1,512	-0.28	4,343	5,419	-1,076	-0.20	14,517	14,953	-436	-0.08	532,605	-1,387	-0.26	4,192	5,688
37 市川町	12,072	-212	-1.76	62	184	-122	-1.01	314	404	-90	-0.75	11,860	-271	-2.28	42	184
38 福崎町	19,687	-144	-0.73	139	235	-96	-0.49	750	798	-48	-0.24	19,543	-35	-0.18	148	230
39 神河町	11,313	-211	-1.87	53	157	-104	-0.92	221	328	-107	-0.95	11,102	-169	-1.52	57	177
40 西播磨	257,051	-2,803	-1.09	1,624	3,249	-1,625	-0.63	6,413	7,591	-1,178	-0.46	254,249	-3,076	-1.21	1,570	3,278
41 相生市	29,902	-157	-0.53	226	420	-194	-0.65	889	852	37	0.12	29,745	-441	-1.48	198	412
42 赤穂市	47,958	-652	-1.36	264	599	-335	-0.70	1,089	1,406	-317	-0.66	47,306	-609	-1.29	298	617
43 宍粟市	36,907	-681	-1.85	222	532	-310	-0.84	697	1,068	-371	-1.01	36,226	-654	-1.81	194	546
44 たつの市	76,791	-732	-0.95	518	928	-410	-0.53	1,922	2,244	-322	-0.42	76,060	-590	-0.78	502	904
45 太子町	33,615	74	0.22	242	287	-45	-0.13	1,134	1,015	119	0.35	33,689	-138	-0.41	250	302
46 上郡町	14,896	-293	-1.97	74	183	-109	-0.73	335	519	-184	-1.24	14,603	-267	-1.83	53	205
47 佐用町	16,982	-362	-2.13	78	300	-222	-1.31	347	487	-140	-0.82	16,620	-377	-2.27	75	292
48 但馬	167,459	-2,492	-1.49	1,124	2,554	-1,430	-0.85	3,787	4,849	-1,062	-0.63	164,967	-2,636	-1.60	1,039	2,554
49 豊岡市	81,183	-764	-0.94	585	1,120	-535	-0.66	1,998	2,227	-229	-0.28	80,419	-1,136	-1.41	506	1,129
50 養父市	23,851	-533	-2.23	159	415	-256	-1.07	400	677	-277	-1.16	23,318	-525	-2.25	150	429
51 朝来市	30,422	-428	-1.41	225	456	-231	-0.76	775	972	-197	-0.65	29,994	-364	-1.21	213	461
52 香美町	17,528	-461	-2.63	85	310	-225	-1.28	318	554	-236	-1.35	17,067	-332	-1.95	103	272
53 新温泉町	14,475	-306	-2.11	70	253	-183	-1.26	296	419	-123	-0.85	14,169	-279	-1.97	67	263
54 丹波	104,895	-1,125	-1.07	717	1,440	-723	-0.69	2,665	3,067	-402	-0.38	103,770	-1,091	-1.05	688	1,431
55 丹波篠山市	41,083	-478	-1.16	276	588	-312	-0.76	1,173	1,339	-166	-0.40	40,605	-338	-0.83	250	577
56 丹波市	63,812	-647	-1.01	441	852	-411	-0.64	1,492	1,728	-236	-0.37	63,165	-753	-1.19	438	854
57 淡路	133,212	-1,645	-1.23	876	1,978	-1,102	-0.83	3,810	4,353	-543	-0.41	131,567	-2,125	-1.62	746	2,170
58 洲本市	43,609	-587	-1.35	301	638	-337	-0.77	1,474	1,724	-250	-0.57	43,022	-754	-1.75	233	670
59 南あわじ市	46,267	-594	-1.28	315	641	-326	-0.70	1,161	1,429	-268	-0.58	45,673	-587	-1.29	294	728
60 淡路市	43,336	-464	-1.07	260	699	-439	-1.01	1,175	1,200	-25	-0.06	42,872	-784	-1.83	219	772

(増減数:人 増減率:%)						2019年 1月1日 人口(人)	2019年中の増減 (増減数:人 増減率:%)								2020年 1月1日 人口(人)			
自然 増減数	自然 増減率	転入	転出	社会 増減数	社会 増減率		増減数	増減率	出生数	死亡数	自然 増減数	自然 増減率	転入	転出		社会 増減数	社会 増減率	
-17,921	-0.33	220,651	221,837	-1,186	-0.02	5,481,509	-21,031	-0.38	38,658	58,671	-20,013	-0.37	222,418	223,436	-1,018	-0.02	5,460,478	1
-5,074	-0.33	78,436	78,414	22	0.00	1,526,639	-4,366	-0.29	10,468	16,113	-5,645	-0.37	79,483	78,204	1,279	0.08	1,522,273	2
-94	-0.04	11,731	11,663	68	0.03	214,075	287	0.13	1,652	1,802	-150	-0.07	12,181	11,744	437	0.20	214,362	3
-290	-0.21	8,094	8,099	-5	0.00	136,842	146	0.11	992	1,373	-381	-0.28	8,587	8,060	527	0.39	136,988	4
-164	-0.12	14,175	12,435	1,740	1.25	141,294	1,160	0.82	1,170	1,341	-171	-0.12	14,101	12,770	1,331	0.94	142,454	5
-649	-0.61	8,213	7,418	795	0.74	107,228	31	0.03	855	1,481	-626	-0.58	8,468	7,811	657	0.61	107,259	6
-983	-0.46	6,949	8,149	-1,200	-0.56	213,624	-1,722	-0.81	1,195	2,295	-1,100	-0.51	7,265	7,887	-622	-0.29	211,902	7
-916	-0.95	5,306	5,139	167	0.17	95,584	-553	-0.58	574	1,459	-885	-0.93	5,416	5,084	332	0.35	95,031	8
-699	-0.44	6,637	6,940	-303	-0.19	158,972	-929	-0.58	1,010	1,807	-797	-0.50	6,589	6,721	-132	-0.08	158,043	9
-673	-0.31	8,468	8,890	-422	-0.19	217,207	-1,091	-0.50	1,598	2,420	-822	-0.38	8,260	8,529	-269	-0.12	216,116	10
-606	-0.25	8,863	9,681	-818	-0.34	241,813	-1,695	-0.70	1,422	2,135	-713	-0.29	8,616	9,598	-982	-0.41	240,118	11
-1,562	-0.15	47,149	45,492	1,657	0.16	1,034,429	-1,001	-0.10	8,034	10,131	-2,097	-0.20	46,355	45,259	1,096	0.11	1,033,428	12
-1,258	-0.28	19,364	17,664	1,700	0.38	451,431	76	0.02	3,718	5,159	-1,441	-0.32	19,203	17,686	1,517	0.34	451,507	13
-23	0.00	22,510	22,523	-13	0.00	488,243	-832	-0.17	3,733	4,084	-351	-0.07	21,946	22,427	-481	-0.10	487,411	14
-281	-0.30	5,275	5,305	-30	-0.03	94,755	-245	-0.26	583	888	-305	-0.32	5,206	5,146	60	0.06	94,510	15
-1,473	-0.20	28,852	28,470	382	0.05	719,364	-1,789	-0.25	4,893	6,703	-1,810	-0.25	28,689	28,668	21	0.00	717,575	16
-117	-0.06	9,066	7,881	1,185	0.60	198,240	278	0.14	1,678	1,742	-64	-0.03	8,542	8,200	342	0.17	198,518	17
-506	-0.22	9,298	9,218	80	0.04	225,199	-174	-0.08	1,534	2,132	-598	-0.27	9,453	9,029	424	0.19	225,025	18
-605	-0.39	5,374	5,639	-265	-0.17	154,091	-571	-0.37	851	1,615	-764	-0.50	5,782	5,589	193	0.13	153,520	19
-107	-0.10	4,207	4,757	-550	-0.49	111,427	-873	-0.78	711	912	-201	-0.18	4,160	4,832	-672	-0.60	110,554	20
-138	-0.45	907	975	-68	-0.22	30,407	-449	-1.48	119	302	-183	-0.60	752	1,018	-266	-0.87	29,958	21
-1,260	-0.18	24,472	23,698	774	0.11	714,957	-1,425	-0.20	5,583	7,232	-1,649	-0.23	24,471	24,247	224	0.03	713,532	22
-53	-0.02	12,125	10,126	1,999	0.67	298,511	822	0.28	2,696	2,991	-295	-0.10	11,720	10,603	1,117	0.37	299,333	23
-623	-0.24	7,449	8,261	-812	-0.31	263,516	-1,352	-0.51	1,887	2,572	-685	-0.26	7,711	8,378	-667	-0.25	262,164	24
-362	-0.40	2,593	3,092	-499	-0.56	88,721	-697	-0.79	601	990	-389	-0.44	2,739	3,047	-308	-0.35	88,024	25
-176	-0.57	1,029	1,013	16	0.05	30,478	-81	-0.27	163	325	-162	-0.53	1,017	936	81	0.27	30,397	26
-46	-0.14	1,276	1,206	70	0.21	33,731	-117	-0.35	236	354	-118	-0.35	1,284	1,283	1	0.00	33,614	27
-1,322	-0.49	9,195	9,656	-461	-0.17	267,247	-1,973	-0.74	1,571	3,181	-1,610	-0.60	9,361	9,724	-363	-0.14	265,274	28
-259	-0.65	1,138	1,189	-51	-0.13	39,560	-455	-1.15	216	506	-290	-0.73	1,186	1,351	-165	-0.42	39,105	29
-469	-0.61	2,436	2,508	-72	-0.09	75,727	-635	-0.84	432	922	-490	-0.65	2,495	2,640	-145	-0.19	75,092	30
-71	-0.15	1,558	1,676	-118	-0.24	47,993	-256	-0.53	281	481	-200	-0.42	1,514	1,570	-56	-0.12	47,737	31
-261	-0.60	1,488	1,379	109	0.25	43,405	-427	-0.98	250	557	-307	-0.71	1,432	1,552	-120	-0.28	42,978	32
-59	-0.15	2,169	2,219	-50	-0.12	40,541	161	0.40	314	415	-101	-0.25	2,313	2,051	262	0.65	40,702	33
-203	-0.99	406	685	-279	-1.36	20,021	-361	-1.80	78	300	-222	-1.11	421	560	-139	-0.69	19,660	34
-1,840	-0.32	16,138	16,160	-22	0.00	573,248	-1,703	-0.30	4,316	6,119	-1,803	-0.31	16,885	16,785	100	0.02	571,545	35
-1,496	-0.28	14,836	14,727	109	0.02	531,218	-1,119	-0.21	4,087	5,530	-1,443	-0.27	15,571	15,247	324	0.06	530,099	36
-142	-1.20	278	407	-129	-1.09	11,589	-245	-2.11	44	196	-152	-1.31	260	353	-93	-0.80	11,344	37
-82	-0.42	787	740	47	0.24	19,508	-152	-0.78	131	218	-87	-0.45	770	835	-65	-0.33	19,356	38
-120	-1.08	237	286	-49	-0.44	10,933	-187	-1.71	54	175	-121	-1.11	284	350	-66	-0.60	10,746	39
-1,708	-0.67	6,072	7,440	-1,368	-0.54	251,173	-2,954	-1.18	1,487	3,249	-1,762	-0.70	6,359	7,551	-1,192	-0.47	248,219	40
-214	-0.72	769	996	-227	-0.76	29,304	-451	-1.54	206	440	-234	-0.80	814	1,031	-217	-0.74	28,853	41
-319	-0.67	1,024	1,314	-290	-0.61	46,697	-443	-0.95	292	569	-277	-0.59	1,152	1,318	-166	-0.36	46,254	42
-352	-0.97	697	999	-302	-0.83	35,572	-683	-1.92	181	551	-370	-1.04	674	987	-313	-0.88	34,889	43
-402	-0.53	1,885	2,073	-188	-0.25	75,470	-633	-0.84	464	869	-405	-0.54	1,898	2,126	-228	-0.30	74,837	44
-52	-0.15	1,029	1,115	-86	-0.26	33,551	-152	-0.45	239	306	-67	-0.20	1,069	1,154	-85	-0.25	33,399	45
-152	-1.04	355	470	-115	-0.79	14,336	-257	-1.79	34	214	-180	-1.26	407	484	-77	-0.54	14,079	46
-217	-1.31	313	473	-160	-0.96	16,243	-335	-2.06	71	300	-229	-1.41	345	451	-106	-0.65	15,908	47
-1,515	-0.92	3,708	4,829	-1,121	-0.68	162,331	-2,854	-1.76	922	2,476	-1,554	-0.96	3,683	4,983	-1,300	-0.80	159,477	48
-623	-0.77	1,872	2,385	-513	-0.64	79,283	-1,091	-1.38	507	1,113	-606	-0.76	1,914	2,399	-485	-0.61	78,192	49
-279	-1.20	409	655	-246	-1.05	22,793	-500	-2.19	113	396	-283	-1.24	424	641	-217	-0.95	22,293	50
-248	-0.83	828	944	-116	-0.39	29,630	-471	-1.59	168	426	-258	-0.87	781	994	-213	-0.72	29,159	51
-169	-0.99	333	496	-163	-0.96	16,735	-503	-3.01	73	319	-246	-1.47	293	550	-257	-1.54	16,232	52
-196	-1.38	266	349	-83	-0.59	13,890	-289	-2.08	61	222	-161	-1.16	271	399	-128	-0.92	13,601	53
-743	-0.72	2,744	3,092	-348	-0.34	102,679	-1,196	-1.16	635	1,471	-836	-0.81	2,901	3,261	-360	-0.35	101,483	54
-327	-0.81	1,336	1,347	-11	-0.03	40,267	-438	-1.09	256	567	-311	-0.77	1,312	1,439	-127	-0.32	39,829	55
-416	-0.66	1,408	1,745	-337	-0.53	62,412	-758	-1.21	379	904	-525	-0.84	1,589	1,822	-233	-0.37	61,654	56
-1,424	-1.08	3,885	4,586	-701	-0.53	129,442	-1,770	-1.37	749	1,996	-1,247	-0.96	4,231	4,754	-523	-0.40	127,672	57
-437	-1.02	1,445	1,762	-317	-0.74	42,268	-717	-1.70	266	616	-350	-0.83	1,528	1,895	-367	-0.87	41,551	58
-434	-0.95	1,295	1,448	-153	-0.33	45,086	-576	-1.28	249	687	-438	-0.97	1,378	1,516	-138	-0.31	44,510	59
-553	-1.29	1,145	1,376	-231	-0.54	42,088	-477	-1.13	234	693	-459	-1.09	1,325	1,343	-18	-0.04	41,611	60